

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

## Zenkoku Hougendanwa Database [Japanese Dialect Database] : Volume 16 Kagawa and Tokushima

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-10-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所, The National Institute for Japanese Language メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15084/00002256">https://doi.org/10.15084/00002256</a>

全国方言談話データベース

# 日本のふるさとことば集成

第16巻 香川・徳島

国立国語研究所資料集 13-16

国立国語研究所  
2003

国書刊行会

情報提供部部長室備付

## 刊行のことは

昭和52年度から昭和60年度にかけて、「各地方言収集緊急調査」という全国規模での方言談話の収録事業が、文化庁によって実施されました。調査は、各都道府県教育委員会と連携のうえ、各地の方言研究者が全面的に協力して行われました。国立国語研究所は、文化庁の要請により、この調査の計画段階から、指導・助言などにかかわっていました。その後、時を経て、この調査によって収録された膨大な録音テープと文字化原稿は、文化庁から国立国語研究所に移管されました。

これらの資料は、方言の使用実態を解明する貴重なデータであるとともに、急速に失われつつある各地の伝統的方言を、文化財として記録・保存するという意味においても意義のあるものです。そこで、国立国語研究所では、受け継いだ資料を有効に利用するために、方言談話の大規模なデータベースを作成し、公開するという計画を開始しました。平成8～12年度には「方言録音文字化資料に関する研究」で、平成13年度からは「日本語情報資源の形成と共有のための基盤形成」の一環として、全国方言談話データベースの作成と公開に取り組んできました。また、データベース化にあたっては、平成9年度から科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）の交付を受けています。従来にはあまりなかった、音声と文字化の電子化データを備えていますので、研究や教育に活用いただけることと思います。なお、本資料集の作成については、情報資料部門第一領域の井上文子が担当しました。

「各地方言収集緊急調査」の録音・文字化にあたっては、全国の研究者の方々が献身的に御尽力くださいました。話者として、多くのみなさまから御協力を得ました。また、各都道府県教育委員会の関係者、および、有志の御助力がありました。刊行にあたって、記して深く感謝の意を表します。

平成15年6月

国立国語研究所長 甲斐 睦朗

## 利用にあたって

### 1. 内容

この書籍（冊子、CD-ROM、CD）には、以下のものを収録しています。

	冊子	CD-ROM	CD
刊行のことば	○	○	
利用にあたって	○	○	
目次	○	○	

#### 香川県観音寺市1978

地図	○	○	
話者・担当者	○	○	
解説	○	○	
凡例	○	○	
談話	○	○	
【池普請と水引き】			
文字化・共通語訳	○		
文字化・共通語訳 pdf+方言音声 wave（ページ単位）		○	
文字化・共通語訳検索 FileMaker		○	
文字化 text（談話全体）		○	
共通語訳 text（談話全体）		○	
方言音声（談話全体）			○
注記	○	○	

#### 徳島県阿南市1981

地図	○	○	
話者・担当者	○	○	
解説	○	○	
凡例	○	○	
談話	○	○	

【虫とり，台風と大水】			
文字化・共通語訳	○		
文字化・共通語訳 pdf+方言音声 wave (ページ単位)		○	
文字化・共通語訳検索 FileMaker		○	
文字化 text (談話全体)		○	
共通語訳 text (談話全体)		○	
方言音声 (談話全体)			○
注記	○	○	

作成・公開の経緯

「各地方言収集緊急調査」について	○		
「各地方言収集緊急調査」地点一覧	○		
「各地方言収集緊急調査」地点地図	○		
各地方言収集緊急調査補助全体計画	○		
各地方言収集緊急調査費国庫補助要項	○		
各地方言収集緊急調査実施要領	○		
各地方言収集緊急調査の実施について	○		
調査実施上の留意事項について	○		
「全国方言談話データベース」について	○		

Adobe Acrobat Reader		○	
----------------------	--	---	--

音声データ仕様：サンプリング周波数22.050kHz，量子化ビット数16bit，  
waveファイル，ステレオ

CD-ROM は，CD プレイヤーで再生しないでください。CD プレイヤーが壊れることがあります。

本データベース編集にあたっては，個人のプライバシー等に配慮しました。  
談話データの中には，現在では，その使用が好ましくないと思われるような表現が含まれている場合もあり得ますが，学術的・歴史的資料の保存という観点から，そのまま収録しました。この点にご配慮のうえ，お使いください。

## 2. 著作権

この冊子、CD-ROM、CD に収録されているデータの著作権は、国立国語研究所にあります。

## 3. 利用条件

利用にあたっては、以下の利用条件をすべて守ってください。

- (1) 国立国語研究所の著作権を侵害するような行為はしないでください。
- (2) この冊子、CD-ROM、CD に収録されているデータは、どのような目的においても、また、どのような媒体（紙、電子メディア、インターネットを含む）によっても、他人に再配布しないでください。
- (3) この冊子、CD-ROM、CD に収録されているデータは、非営利の教育・研究目的に限り、自由に利用できます。ただし、上記（2）は守ってください。
- (4) この冊子、CD-ROM、CD に収録されているデータを利用した成果物を公表する場合は、  
「国立国語研究所が作成した『全国方言談話データベース』を利用した。」  
などのように、明記してください。  
あわせて、成果物を国立国語研究所にご寄贈いただければさいわいです。
- (5) 以上の利用条件に合致しない場合、あるいは、利用について不明な点がある場合は、国立国語研究所に問い合わせてください。

連絡先：〒115-8620

東京都北区西が丘3-9-14

国立国語研究所 情報資料部門

「全国方言談話データベース」係

FAX：03-3906-3530

## 4. 付記

データの電子化、CD-ROM、CD の作成については、平成9(1997)～15(2003)年度科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）の交付を受けています。

国立国語研究所資料集 13-16

全国方言談話データベース
日本のふるさとことば集成
第16巻 香川・徳島

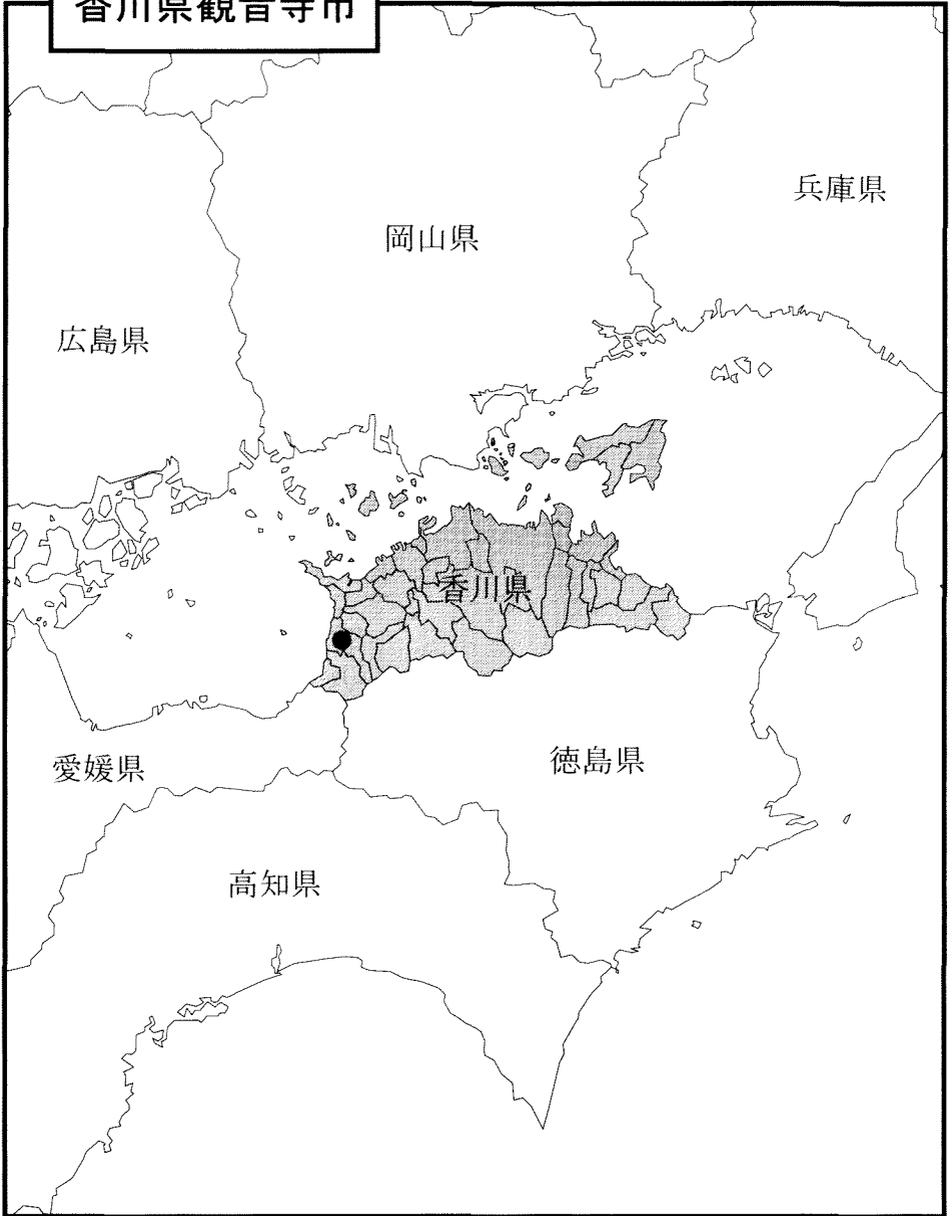
目次

刊行のことば	3
利用にあたって	5
I. 香川県観音寺市1978	11
地図	12
話者・担当者	13
解説	14
凡例	22
談話	27
【池普請と水引き】	28
注記	127
II. 徳島県阿南市1981	133
地図	134
話者・担当者	135
解説	136
凡例	142
談話	147
【虫とり，台風と大水】	148
注記	240
作成・公開の経緯	243
「各地方言収集緊急調査」について	245
「各地方言収集緊急調査」地点一覧	249

「各地方言収集緊急調査」地点地図	254
各地方言収集緊急調査補助全体計画	255
各地方言収集緊急調査費国庫補助要項	256
各地方言収集緊急調査実施要領	257
各地方言収集緊急調査の実施について	260
調査実施上の留意事項について	262
「全国方言談話データベース」について	268

I . 香川県観音寺市  
1978

香川県観音寺市



## 香川県観音寺市1978話者・担当者

### 「各地方言収集緊急調査」

話者	近藤 末義
	住友 ムマ
	筒井 ヨシエ
司会者	佐川 仁三郎
収録担当者	近石 泰秋
文字化担当者	近石 泰秋
共通語訳担当者	近石 泰秋
解説担当者	近石 泰秋

(敬称略 項目別50音順)

### 「全国方言談話データベース」

編集担当者	佐藤 亮一
	江川 清
	田原 広史
	井上 文子
編集協力者	西村 美保
	鳥谷 善史
	熊谷 康雄

## 香川県観音寺市1978解説

収録地点名 香川県<sup>かんおんじ しいけの しりちよう</sup>観音寺市池之尻町

### 収録地点の概観

#### 位置

観音寺市は香川県の西部、池之尻町は観音寺市の中央部に位置する。

#### 交通

国鉄高松駅から予讃線で約2時間の国鉄観音寺駅で下車、山本町經由琴平行バスで県道を東南へ4km、所要時間約10分で池之尻町に至る。

平安時代の昔から南海道の讃岐分に沿ったところに位置し、町内に式内社黒島神社があるなど、古くから開けて道路が四方に通じていたようである。

#### 地勢

三豊<sup>みつよ</sup>平野の西部、財田川<sup>さいたがわ</sup>と柞田川<sup>くにながわ</sup>にはさまれた平野部に位置する。やや高燥の土地である。香川県特有の気象条件として、雨量が少ないため、農業用の溜池<sup>かんぼつ</sup>が非常に多く、また、田ごとに井戸を掘って早魃に備えるなど、灌漑に非常に苦心をしてきた。現在では、徳島県吉野川の水を引いた香川用水が完成したため田の水の心配はなくなった。

#### 行政区画

1890(明治23)年2月、新田、原、池之尻の3村を合併して豊田村となる。池之尻は、豊田村の大字であった。豊田は、現・三豊<sup>みつよ</sup>郡の西半分の郡名にあたり、郡名をとって村名としたことから、池之尻一帯は三豊平野のうちの中心地のひとつであったことがわかる。

1955(昭和30)年4月9日、観音寺市池之尻町となる。

#### 戸数・人口

1979(昭和54)年2月1日現在、世帯数566戸、人口1,982名。

#### 産業

農村地帯として米作りが中心である。ただし、最近は俸給生活者も定住し、農業以外の仕事に従事する家庭も多くなっている。

## 収録地点の方言の特色

### 方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

香川県の方言は、東讃方言・中讃方言・西讃方言の3区画（あるいは、東讃方言・西讃方言の2区画）と、島嶼部の小豆島方言・塩飽諸島方言に区画することができる。観音寺市池之尻町は、西讃方言にあたる地域である。

香川県は、徳島・愛媛・岡山、さらには、大阪・広島などの各府県との交流により、方言上類似した点が多い。大川郡大内町三本松から白鳥町白鳥、引田町引田・相生地域および阿讃山脈に沿った山間部は、徳島方言との関係が深い。また、西部の三豊郡豊浜町箕浦・豊浜地域は愛媛県東部の方言と関係が深い。

### 音韻

(1) 促音や長音の短音化が見られる。特に、ウ音便の短音化が多い。

イッタラ エエ → イタラ エエ (行ったらいい)

トッテカエル → トテカエル (取って帰る)

モッテイク → モテイク (持って行く)

ケッコニー → ケッコニ (きれいに)

オモーテ → オモテ (思って)

ツコーテ → ツコテ (使って)

ワローテ → ワロテ (笑って)

イトーテ → イトテ (痛くて)

オモトーテ → オモトテ (重たくて)

(2) 1音節の語は、ほとんど長音化する。

カー (蚊)

コー (子)

ジー (地)

ター (田)

テー (手)

トー (戸)

ネー (根)

ハー (歯)

バー (場)

ヒー（火、樋）

ユー（湯）

ヨー（夜）

ヨーアソビ（夜遊び）

ミーニ イク（見に行く）

（3）撥音化の現象が著しい。語頭にも撥音がたつ。

ショングワツ（正月）

ションナイモンヤキン（しようがないものだから）

ココラン ナッタラ（このへんになったら）

イネン ナカニ（稲の中に）

クンジャガナ（来るのだがね）

ンナミ（南）

ンマ（馬）

ンメル（見える）

ンメン（見えない）

ンノーテ（担って）

（4）合拗音の残存が見られる。

クウシ（菓子）

クウジ（火事）

クウツソーロ（滑走路）

クウンオンジ（観音寺）

クウンケイ（関係）

ドクワン（土管）

ケンクウ（喧嘩）

ウンドークウイ（運動会）

エイグウ（映画）

ただし、合拗音が現れない場合も多い。

（5）促音と拗音とが多用される。

コッシャエル（こしらえる）

クラッシャゲル（暮らす〈強い言い方〉）

トツリャゲル (取り上げる)  
ナカッシャゲル (泣かす (強い言い方))  
カッキョル (書いている)  
ハシツリョル (走っている)

(6) 連母音の「アイ」、「エイ」などは、長音化しないことが多い。

ダイジ (大事)  
セイト (生徒)  
テイネイ (丁寧)  
ドーキューセイ (同級生)

(7) 接続詞の「ソレデ」、「ソレカラ」、「ソんなラ」、「ソシタラ」などの「ソ」の音は、ほとんどすべて「ホ」となる。これらの接続詞は、会話中で非常に多用される。

ホレデ, ホンデ (それで)  
ホイカラ, ホカラ (それから)  
ホんなラ, ホんな (それなら)  
ホイタラ, ホタ (そしたら)  
ホースルト (そうすると)  
ホーンドラ (そうしたら)  
ホンジャキニ (それだから)  
ホンジャキンド, ホンダキンド, ホンジャケド (そうだけれど)  
ホンダトコロガ, ホイタトコロガ (そうしたところが)

など非常に多く使われている。

(8) その他、次のような音韻転換、または、語形の変化が観察される。

アワテル → アバテル (あわてる)  
ヨッポド → エッポド (よほど)  
コト → コツ (こと)  
シビト → シブト (死人)  
タバコ → タボコ (煙草)  
ツツミ → ツツマ (堤)  
ニラム → ネガム (にらむ)

ムシロ → ミシロ (むしろ)  
ミズ → ミル (水)  
ザシキ → ラシキ (座敷)  
ユカノシタ → イカノシタ (床の下)  
ナランデ → ナロンデ (並んで)  
ゾーリ → ジョーリ (草履)

## アクセント

香川県のアクセントについては、「丸亀式」<sup>まるがめ</sup>、「高松式」<sup>たかまつ</sup>、「四海式」<sup>しかい</sup>、「大部式」<sup>おおべ</sup>、「直島式」<sup>なおしま</sup>、「引田式」<sup>ひけた</sup>に区分するものがある。これによれば、池之尻町は丸亀式アクセントということになる。

また、「観音寺式アクセント」<sup>かんのんじ</sup>、「丸亀式アクセント」<sup>まるがめ</sup>、「高松式アクセント」<sup>たかまつ</sup>、「土庄式アクセント」<sup>とのしょう</sup>、「塩飽本島式アクセント」<sup>しわくほんじま</sup>、「直島式アクセント」<sup>なおしま</sup>と区分するものもあり、これによれば、池之尻町は観音寺式アクセントということになる。

## 文法

(1) 打消の助動詞には、「ン」のほか、「ナ」がある。この「ナ」に強めの「イ」を伴って「ナイ」となる場合が非常に多い。

イワナ (言わない)  
ハナシニ ナラナイ (話にならない)  
ナットラセーナイ (なっていない)

(2) 断定の助動詞は、「ジャ」である。

モー ムギカリジャイノー (もう麦刈りだね)  
ゴクラクジャイ (極楽だね)

「ジャ」に詠嘆や強めが加わって、

～ジャイ  
～ジャイナー  
～ジャナ  
～ジャワイ  
～ジャワイナー

となる。

また、ほかの助詞や助動詞をともなって、

～ジャキニ (～だから)

～ジャキンド (～だけれど)

～ジャッタ (～だった)

～ジャロー (～だろう)

などともなる。

- (3) 断定の助動詞「ジャ」が「ニャ」となることがしばしばある。

ポー コシニ サイトンニャ (棒を腰に差しているのだ)

ソレオ シテナカッタラ オンカレルンニャ

(それをしていなかったら、怒られるのだ)

- (4) 香川県方言全般に、進行態として「～ヨル」、結果態として「～トル」がある。実際には、「～ヨライ」、「～トライ」の形で使われることが非常に多い。

ハッキヨル (履きつつある)

シットル (知っている)

ノーキョーエ イッキヨライ (農協へ行きつつあるよ)

ケッコー シトライ (けっこうしているよ)

ツライメニ オトライナー (つらい目にあっているよね)

- (5) 過去の推量に「～トロ」という言い方がある。

ソノゴロワ アマゴイヤ セザットロガ

(その頃は雨乞いをしなかっただろう)

ナガイキシトッテ ヨカットロ (長生きしていてよかっただろう)

アイナコトガ アットロ (あんなことがあっただろう)

- (6) 打消の過去には「～ナンダ」、「～ザッタ」がある。

カカナンダ (書かなかった)

デザッタ (出なかった)

デラザッタ (出なかった)

ホラザッタ (投げなかった)

ミラレヘラザッタ (見られなかった)

- (7) 理由を表す接続助詞として、「キニ」・「キン」、逆接を表す接続助詞として、「キンド」・「ケンド」などが用いられる。

キタンジャキニ (来たのだから)  
イケンキンナ (行けないからね)  
ワラウキンドナー (笑うけれどね)  
テッリョルキンド (照っているけれど)  
トレルキンド (取れるけれど)  
ウエタキンド (植えたけれど)  
オルケンドナ (いるけれどね)

- (8) 疑問の終助詞「カ」が「キ」または「ケ」にかわり、それに「ヤ」が添わって「キャ」・「ケヤ」となる。

イエルンキャ ト ユータラ (言えるのかと言ったら)  
コライトルコト アルケヤ (がまんしていること [が] あるか)

- (9) 疑問の終助詞「カ」は、女性では「エ」となることがある。

オルンエ (いるのか)  
コレ ナンボエ (これ [は] いくらか)  
タオ ウエタエ (田を植えたか)  
ア ソーエ (あ、そうか)

- (10) 「私のうち」、「誰そのうち」というとき、「トコ」のほか、「キ」・「チ」も用いる。

ワシントコ (私のうち)  
オマイントコ (おまえのうち)  
ウチンキ (私のうち)  
アンタンキ (あなたのうち)  
オマインチ (私のうち)  
センセンチ (先生のうち)

- (11) 「ゴラン(御覧)」に由来すると見られる「ゴ」・「ゴー」がある。これは、間投詞のようにも使われる。

ウチノゴー オモノナ (うちのね、本家のね)  
アンゴー アレ (あのね、あれ)  
ホンデ アンタ アノーゴラ ムカシノコツチャキニ  
(それで、あなた、あのね、昔のことだから)

- (12) 間投助詞の「ダー」が、盛んに使用される。  
 ホイデダー (それでね)  
 ホンジャキニダー (それだからね)  
 アノダー (あのね)
- (13) 「が」、「を」、「と」、「へ」などの格助詞や、「は」の省略が顕著である。  
 ハイキュー\_\_アルキンナ (配給 [が] あるからね)  
 ヒバチニ ヒー\_\_タイテナ (火鉢に火 [を] たいてね)  
 コメ\_\_ツクラナイカン\_\_ユーテ (米 [を] 作らなければいけないと言って)  
 センセノ ユーコト\_\_キクヒト\_\_ナカッタ  
 (先生の言うこと [を] 聞く人はなかった)
- (14) ナ行変格活用が一部に残っている。  
シヌルジャノ オモワンキニ (死ぬなんて思わないから)  
 ノセテ イヌルノニ (乗せて帰るのに)

## 語彙

古老に使われることばの中には、日常の生活に密着した方言語彙や、あまり使われなくなった古風なことばが生き残っている。

- オイトコ (新しい友人相互で、相手と呼ぶことば)  
 オモ (本家)  
 オリヤ (住宅)  
 クイツケ (子供が着物の襟や袖口を汚して、てかてか光っていること)  
 コンパチ (親指と人差し指をはじいて、音を出すこと)  
 ツバナマキ (茅をまき散らしたように雑然としていること)  
 フシフシダケ (節のつまった竹)  
 ヘンガイ (変更)  
 ワンド (地形などの湾曲しているところ)

(以上の解説は、基本的に、「各地方言収集緊急調査」当時の報告原稿によるものである。)

## 香川県観音寺市1978凡例

談話資料は、方言談話音声、方言談話音声の文字化、方言談話の共通語訳から成る。CD-ROMには、ページ単位で切った方言談話音声を、CDには、方言談話音声全体を収録した。

### 文字化と共通語訳

方言談話音声の文字化はカタカナで表記し、方言談話の共通語訳は、漢字かなまじりで表記した。方言談話音声の文字化と共通語訳とは、対照ができるように、上下2段を1組として示した。上段が文字化、下段がその共通語訳である。

文字化については、表音的カタカナ表記を用いている。つまり、長音は「ー」で示し、助詞「は」は「ワ」、助詞「を」は「オ」、助詞「へ」は「エ」と表記する。「カ°」「キ°」「ク°」「ケ°」「コ°」はガ行鼻濁音を表す。

また、分ち書き、句読点などは、便宜的なもので、厳密なものではない。

「各地方言収集緊急調査」における、方言談話音声の文字化の方法は、後に掲げる「調査実施上の留意事項について」などに詳しく記されている。ただし、今回、「全国方言談話データベース」として公開するにあたり、文字化・共通語訳を整備する際には、当時のマニュアルにはとらわれず、読みやすさ、意味のとりやすさを優先して処理をした部分がある。

また、この文字化は、時間の流れを忠実に反映することを意図していない。したがって、発話の重なりや、複線的な会話の進行の構造が、文字化からは読み取れない。データを使用する際には、文字化・共通語訳を見るだけでなく、実際に、音声を聞いて判断していただきたい。

### 発話単位

ひとりの話者が続けて話している、話者が交替するまでの連続した発言を1発話とする。途中にあいづちが入る場合もある。

### 発話番号 〈半角〉

発話の通し番号を、各発話の話者記号の前に付した。

例：1A

## 話者記号 〈全角〉

話者、調査者など、談話の場にいる人物について、A, B, C, D, E, F, ……のように、アルファベットで示した。

例：1A

## 固有名詞

話者および一般の人名については、文字化・共通語訳の該当個所を、A, B, C, X1, X2, X3などのアルファベットに置き換えた。話者、調査者など、談話の場にいる人物については、A, B, C, D, E, F, ……のように示し、話題の中の第三者については、X1, X2, X3, ……のように示した。ただし、音声は、該当個所に加工をしなかった。

歴史上の人物や、有名人の人名については、記号に置き換えることはせず、個人名を出すことにした。また、会社名、店名、製品名などについても、発言されたとおりに記している。

地名については、そのまま扱うことにした。

## 記号

### 。(句点) 〈全角〉

ポーズがあって、意味的にひとつのまとまりを持つ文と考えられる個所。

共通語訳については、実際の発話でポーズが置かれていないところでも、意味の取りやすさを優先して句点をつけた場合もある。

例：ソーデス      ソーデス

そうです。      そうです。

### (読点) 〈全角〉

基本的に息をついた個所、または、ポーズのある個所。

共通語訳については、実際の発話でポーズが置かれていないところでも、意味の取りやすさを優先して読点をつけた場合もある。

また、文字化と対応しなくなっても、読みやすさを優先して、取り去った場合もある。

例：シ、ヤクシヨ

市役所

? 〈全角〉

上昇イントネーションと判断した個所。

例：アズケトイテ？

預けておいて？

( ) 〈全角〉

あいづち。ひとりの人が連続して話している時にさえぎったり、口をはさんだりした個所。

(A ………) のように、開き括弧の次にあるアルファベットは、発言している話者を示す。( ) の閉じ括弧の直前の句読点は省略した。

なお、( ) 内のあいづちと、独立した発話扱いされているあいづち的発話との違いは必ずしも明確ではない。

例：(A アー ソーデスカ)

{ } 〈全角〉

笑，咳，咳払い，間，などの非言語音。

例：{笑}

{咳}

{手を叩く音}

××× 〈全角〉

言い間違いや言い淀みなど。

例：ム ム ムツカシー

× × 難しい

\*\*\* 〈全角〉

聞き取れない部分。

例：オチャズケノ\*

お茶漬けの\*

//// 〈全角〉

対応する共通語訳が不明な部分。

例：モーゼーノ モジナンデスナ、

//////// 「文字」 なんですネ。

[ ] (全角)

方言音声には出てこないが、共通語訳の際に補った部分。

例：ミカン ノセテ  
みかん [を] 乗せて

= (全角)

[ ] 内の=は、意味の説明や、意識であることを示す。

例：イマ ユー  
今 いう [=今話題にあがった]

| | (全角)

注意書きなど。

例：| Aに対して|

[ ] (全角)

注記。方言形の意味・用法、特徴的音声などについて説明し、文字化・共通語訳の後にまとめてある。[ ] 内の半角数字は、注記の番号を示す。

例：ホシツキサンのオモチ [1]

## 音声

CD-ROMには、冊子のページ単位で区切った方言音声の wave ファイルを収録している。冊子のページを pdf ファイルにしたものに、方言音声をクリックさせていて、各ページにある **再生** の部分をクリックすると、そのページの音声を聞くことができる。

CDには、談話全体の音声を収録している。以下にあげるように、適当な個所で、トラックに区切っている。

## CD トラック番号

文字化・共通語訳のヘッダは、方言音声を収録した CD のトラック番号を示している。「香川01-1」は CD トラック番号が01で、その1ページ目ということである。「香川01-1」「香川01-2」……「香川01-6/02-1」……「香川19-3」のように表示される。

また、文字化・共通語訳部分には、CD のトラックの切れ目を表示した。矢印の部分がトラックの切れ目を表し、その両側の数字はトラック番号である。

**↑01**, **01↑02**, …… **18↑19**, **19↑** のように表示される。

第16巻のCD（72分58秒）には、香川県観音寺市の談話，【池普請と水引き】の全体の音声を収録している。各トラックの開始ページ・行，終了ページ・行，時間は下記のとおりである。行は，文字化の行を表示した。

トラックNo.	開始ページ・行	終了ページ・行	時間:分:秒
01	p.28・0.1	p.33・0.3	0:02:10
02	p.33・0.3	p.38・0.15	0:01:56
03	p.38・0.15	p.43・0.17	0:01:57
04	p.43・0.17	p.48・0.1	0:02:04
05	p.48・0.3	p.52・0.15	0:01:59
06	p.52・0.15	p.57・0.5	0:01:52
07	p.57・0.7	p.63・0.7	0:01:58
08	p.63・0.9	p.69・0.3	0:02:03
09	p.69・0.5	p.71・0.17	0:01:02
10	p.72・0.1	p.77・0.5	0:02:05
11	p.77・0.5	p.83・0.9	0:02:01
12	p.83・0.9	p.88・0.13	0:01:58
13	p.88・0.15	p.95・0.1	0:02:03
14	p.95・0.3	p.101・0.3	0:02:04
15	p.101・0.5	p.107・0.9	0:02:03
16	p.107・0.11	p.113・0.3	0:02:01
17	p.113・0.3	p.118・0.7	0:02:00
18	p.118・0.7	p.124・0.7	0:02:02
19	p.124・0.9	p.126・0.5	0:00:38
計			0:35:56

## 香川県観音寺市1978談話

収録地点 香川県観音寺市池之尻町  
かんおんじししいけのしりちよう

収録日時 1978(昭和53)年8月17日

収録場所 香川県観音寺市新田町 豊田公民館

話題 池普請と水引き

話者

A	男	1904(明治37)年生	(収録時74歳)	農業
B	女	1893(明治26)年生	(収録時84歳)	農業
C	女	1903(明治36)年生	(収録時75歳)	農業

司会者

	男	1909(明治42)年生	(収録時69歳)	教員
--	---	--------------	----------	----

調査員

	男	(収録談話中に発話なし)		
--	---	--------------	--	--

収録時間 (CD) 35分56秒

【池普請と水引き】

話し手

- A 男 明治37年生 (収録時74歳)  
B 女 明治26年生 (収録時85歳)  
C 女 明治36年生 (収録時75歳)

1 A : コノー イケブシン ト ユーコトニ ツイテワナ、  
この 池普請 と いうことについてはね、

↑01

イケガー モー ローキューシテ ホンデ ソコソコカ° ブルジャノ、  
池が もう 老朽化して そして そこここが 漏るだの、

ホイカラ アシコカ° ズレタジャノ ユーコトカラ  
それから あそこが ずれただの [と]いうことから

マー イケブシンカ° ハジマルワケジャ。  
まあ 池普請が 始まるわけだ。

ナオシトカント アトカ° キケンナ ユーテナ。  
直しておかないと 後が 危険だ [と]いってね。

ソレンデー マー ナンジャー、  
それで まあ なんだ、

ツクリコカ° ヨッテ ソーダンシテ  
耕作者が 集まって 相談して

香川 01-2

アノ イケオー イツカラ ナオスカ トカ  
あの 池を いつから 直すか とか

ドユーフーニ ナオスカ トカ ユー ソーダンオ シテ  
どんなふうに 直すか とか いう 相談を して

コージニ トリカカッテ、  
工事に 取りかかって、

マー ワリ[1]カ° ナンボ イル ト、  
まあ 分担金が いくら 必要だ と、

ホイカラ イツマデニ スルト ユー キョーキ°カ° デケテカラ  
それから いつまでに する と いう 協議が できてから

コノ、イケブシン ト ユー ノニワ カカルンジャ。  
この 池普請 と いう ものには 取りかかるのだ

ムカシカラナ。(C ンー)  
昔からね。(C うん)

ソレデ ソノ {咳払い} コノー ミタニ[2] ワ  
それで その {咳払い} この 三谷[池] は

アレワー サイショーワ ナンデッセ アスコワ ゼンブ コー  
あれは 最初は 何ですよ あそこは 全部 こう

ヒラチノ タンボヤッタンデッセ。(C ソーンデナー)  
平地の 田んぼだったんですよ。(C そうだねえ)

香川 01-3

チンジュナ。(C へー) ホンデー コレワー ナニ  
////// (C へえ) それで これは 何

(C アラタニ コッシャエタンナ) ナ。  
(C 新たに こしらえたんだね) ね。

ホンデ コレカ<sup>°</sup>ー アノ メンセキ ハッタンデス。  
それで これが あの 面積[が] 8反です。

(C ア ソーナ) エー。(C ホー)  
(C ああ そうか) ええ。(C ほう)

ソノ ハッタンノ ナカオ ホリンダシテ (C へー)  
その 8反の 中を 掘り出して (C へえ)

ホンデー シホーエ コー (C モッタ)  
そして 四方へ こう (C [土を]盛った)

ワンコ[3]ニー コー テイボー コッシャエタ ワケジャ。  
まるく こう 堤防を 作った わけだ。

(C ハハー ソーナ) ナ。(C フーン)  
(C ははあ そうか) ね。(C ふーん)

ソレデ ナカノ ツチオー、 マー、 モッコ[4]ニ イレテ  
それで 中の 土を まあ、 もっこに 入れて

(C へー) カキンダシテ (C へ)  
(C へえ) かき出して (C へ)

香川 01-4

ソレオ クウ<sup>ド</sup>ドリ [5]カ<sup>°</sup> ヒロゲタヤトオ  
それを 鍬取りが 広げたあとを

アン フジンクウイトカ コドモトカ (C へ) カ<sup>°</sup>ー  
あの 婦人会とか 子供とか (C へ) が

ミナ ツイテナー (C へー へー)  
みんな つき固めてね (C へえ へえ)

シテキタンジャワイ。(C ソーデナー)  
してきたのだよ。(C そうだねえ)

マー、ソレー イケブシンニワー アー ソーユー シコ<sup>°</sup>ト<sup>°</sup>デ  
まあ、それで 池普請には ああ そういう 仕事で

アンタカ<sup>°</sup>タモ コノー、ナニニ、キナズキ[6]ニ イテー、  
あなたがたも この 何に、杵突きに 行って

ドーユー コトオ ツイタトカ マー、  
どういう ところを つき固めたとか まあ

ドン ク<sup>°</sup>ワイニ ナンシタトカ ユー コトワナー (C へー)  
どういう ぐあいに 何したとか いう ことはね (C へえ)

アンタヤノホーカラ マー オハナシ シテモロタラ。(C へー)  
あなたなどのほうから まあ お話 してもらったら (C へえ)

エンジャキニ。  
いいのだから。

香川 01-5

コレ {咳払い} ナン マー、 ソノー ナニワ シランナ{7}?  
これ {咳払い} 何 まあ その 何は 知らないか。

アノー、 チョバボリ[8] ト ユーテ モッコンデ カキダスノ。  
あの 丁場掘り と いった もっこで かき出すの。

2 C : アー ソレワー ナニ ヒンド シランナー  
あ それは 何 よくは 知らないねえ

3 A : シランナ。 (C へー) チシュノホーヤラ (C へー)  
知らないか。 (C へえ) 地主のほうやら (C へえ)

ソレカラー ナンノ カントクノホーカラ コー、  
それから 何の 監督のほうから こう

デテキトツテ (C へー) ソノシトラカ<sup>o</sup>ナ (C へー)  
[人が]出てきていて (C へえ) その人たちがね (C へえ)

キョー コレコレ コレコレノ ヒトオ  
今日[は] これこれ これこれの 人を

サンニンナラ サンニン ヨニンナラ ヨニンガ<sup>o</sup> (C へ)  
3人なら 3人 4人なら 4人が (C へ)

ヒトクムンジャ。 (C へー) ホンダラ アンタヤーニワ  
組を作るんだ。 (C へえ) そしたら あなたなどには

コレバガ チョ チョーバ[9]ジャ ユー コトニナ  
これだけが ×× 仕事の受け持ち区域だ [と]いう ことにね

(C へー) ホンデ カキ°メ [10] イレテクレルンジャ。

(C へえ) それで 範囲を示す印を 入れてくれるんだ。

(C フーン) ホンダ ソレオー ソノー、

(C ふうん) そしたら それを その

01↑02

フタリシテ モッコニ イレテー、

二人して もっこに 入れて、

ホッテ イレル ヒトワ イレルー (C へー)

それで 入れる 人は 入れる[し] (C へえ)

カッキヤゲル ヒトワ カッキヤゲル。(C へー へー)

かき出す 人は かき出す。(C へえ へえ)

カッキヤゲ°テ ウエエ ウツシテー、

かき出して 上へ 移して

ソレオ (咳払い) ナンジャワイ ヒライタヤトオー、 ナー

それを (咳払い) なんですよ 平らにしたあとを、 ねえ

トントント ツイテイタ ワケジャ。(C へー)

とんとんと つき固めた わけだ。(C へえ)

4C : ホンデ ソレーワー、 ヤッパリ、 ナンボノ メンセキオ

そして それは やはり いくらの 面積を

ナン、ジャクノ (A ソー ソー ソー ソー)

何尺の (A そう そう そう そう)

香川 02-2

フカサ ト ユーテ (A ソー ソー ソー ソー)  
深さ[に掘る] と いて (A そう そう そう そう)

キマットンジャナ。  
決まっているのだね。

5 A : ナ、キマットン。 (C フン) アサ キメテクレルン。  
ね、決まっているの。(C ふん) 朝 決めてくれるの。

(C フン フン) ナ。(C へー)  
(C ふん ふん) ね。(C へえ)

ホンナラ ホレオ ソノ セーカゲンデ (C ハー)  
そしたら それを その 働き次第で (C はあ)

ハンニチデ ヌイテ インデモ (C インデモ カンマン)  
半日で [掘り]抜いて 帰っても (C 帰っても かまわない)

イチニン クレルン。(C ア ソーナ)  
1人前[の賃金を] くれるの。(C ああ そうか)

イチニン クレルン。(C へー へ)  
1人前[の賃金を] くれるの。(C へえ へえ)

ソレカラ パンマデ カカッテモナ (C へー)  
それから 晩まで かかってもね (C へえ)

ノコッタラ キズカ° ツクンジャ。(C アー ソーナ)  
残ったら 疵が つくんだ。(C ああ そうか)

香川 02-3

ノコセンノジャ。(C へー へー)

残せないんだ。(C へえ へえ)

ヒシテニ コリバ チューンジャキニナ。(C へー へー)

1日に これだけ というんだからね。(C へえ へえ)

ホレンデ ソレー アノー ホッテ ヌツキョル ヒトワー、  
それで それー あのー 掘って [掘り]抜いている 人は

アノ カイカ°イニ ホッテ イレルンジャ。(C へー)

あの かわるがわる 掘って [もっこに]入れるんだ。(C へえ)

アンナイヨル アン ダッショル アイダワナ (C へー)

担いでいる あの かき出している 間はね (C へえ)

カツインデ カキダッショル アイダワ カ

担いで かき出している 間は ×

ハンタイノ ヒトカ° ホッテ イレヨルン。

反対の 人が 掘って [もっこに]入れているの。

(C へー へー) ホンジャキニ ナルベクナ、

(C へえ へえ) それだから なるべくね

ワシラモ イテ タッチャボーリ [11] シタコト アルン。

私たちも 行って 丁場堀り[を] したこと[が] あるの。

(C フン) ホンジャケンド

(C ふん) それだけれども

香川 02-4

ヒトノ カタデ ヌカザツトラ [12]  
人の 肩で [掘った土を]運ばなければ

ワカ° カタデ ヌイトラ エライキン。  
自分の 肩で 運び出したら 苦しいから。

(C へー) ナー。(C へー)  
(C へえ) ね。(C へえ)

ホンダ マー カリニ ツキノ ヒト コー  
そうすると まあ 仮に 次の 人[が] こういうふうに

フタリカ° {咳} カッキョライナ。(C へー)  
二人が {咳} 担いでいる[とする]よね。(C へえ)

ソノトキニ ウントサト イレテヤルン。\*\*\*\*\*  
その時に たくさん 入れてやるの。\*\*\*\*\*

(C {笑} ハハー ソーナ へー へー)  
(C {笑} ははあ そうか へえ へえ)

ホイタラ ハヨ ヌケルヤロ (C へー)  
そしたら 早く 運び出せるだろう (C へえ)

ソイカラ ムコモ ムコジャ。  
それから 相手方も 相手方だ。

マタ (C へー) コチラカ° カッキョニ  
また (C へえ) こちらが 担いでいる時に

香川 02-5

(C {笑} ソー) イレヨルンジャ。

(C {笑} そう) [もっこに]入れているんだ。

ソレワ モー クチデ イワンケンドナー (C ソー ジャナ)  
それは もう 口では 言わないけれどもね (C そうだね)

ハラテ° メンメニー (C ハー) ヒトノ カタンデ  
腹の中で 各自が (C はあ) 人の 肩で

ヌイテヤロ ト ユー コトオナー (C アー アー ソー)  
運び出してやろう と いう ことをね (C ああ ああ そう)

オモキ[13]ニ アルハズジャ。 (C ハーハ ソーナ)  
心の中に 持っているはずだ。 (C はあは そうか)

ツッキョル ヒトヤワ  
[堤を]つき固めている 人などは

ソユ コトワ ナイキンドナー。 (C へー) フン。  
そんな ことは ないけれどもね。 (C へえ) ふん。

6 C : オバーチャン[14]ヤワ モー シンイケ[15] ナー (B ン)  
お婆ちゃんなんかは もう 新池[の] ねえ (B ん)

ジブンニワ イテ キナズキ ヨー シタジャロー。 ナー?  
頃には 行って 杵突き[を] よく したのだろう。 ねえ?

7 B : キナズキワナー、 ソノ ツチオ モツテキタノオナー (A ンー)  
杵突きはね、 その 土を 持ってきたのをねえ (A うん)

ヒロケ°ル ヒトカ° アッテ ヒロケ°タノオナー (A ンー)  
広げる 人が あって 広げたのをねえ (A うん)

トゥクンジャキニナー。 (A ンー)  
つき固めるんだからね。 (A うん)

ソレガ コー、ズーット ンゴ°ニンナラ ンゴニン、  
それを こう ずうっと 5人なら 5人、

ハチニンナラ ハチニンズーット ナロンデナ (A ンー)  
8人なら 8人 ずうっと 並んでね (A うん)

ホテ トクン。  
それで つき固めるの。

8A : ア アレ ホンデ ツイテイテ マタ ツイテモドルンナ。  
あ、あれ それで つき固めて行って また つき固めて戻るのね。

9B : フン。イタリ モンタリ スンジャ。 (A ンー)  
ふん 行ったり 戻ったり するんだ。 (A うん)

モー ムカシワナー、アンタ、トゥクダケデ シメルンジャキニ。  
もう 昔はね あなた、つくだけで 固めるんだから。

02↑03

(A ソイ ソイ ソイ)

(A そう そう そう)

キカイデ キネジャノ ユーン ナインジャキンナ。  
機械で 杵だの [と]いうのは ないのだからね。

香川 03-2

10C : ナー。 シンドイ シコト シタモン。  
ねえ。 苦しい 仕事[を] したものの[だ]。

11B : マー ホンジャキン アンタ、 イッスン  
まあ それだから あなた、 1寸

トウキャケ°ル ユータツテ ナカナカナ (C{笑})  
つき固める [と]いっても なかなかの (C{笑})

(A フフーン) コッチャ (A ナー) ナイ。  
(A ふふうん) ことでは (A ねえ) ない。

ソラナー コノクライ トウチ モットツタツテナ  
それはね このくらい 土[を] 盛っていてもね

モー ワカランク°ライニー アンタ  
もう [それが]わからないくらいに[なるまで] あなた

モー トウクンジャキンナー。  
もう つき固めるんだからねえ。

オーゼイガ コー モー イタリ モンタリ  
大勢[の者]が こう もう 行ったり 戻ったり

イタリ モンタリシテナ。(A エー)  
行ったり 戻ったりしてね。(A ええ)

ホンジャキンナー ソリヤー ナカナカ キンドカッタワイ。  
それだからね それは なかなか 根気がいったよ。

香川 03-3

(C フーン)

(C ふうん)

12C : ワータシヤワナー シンイケー、 ショッタ ジブンワナー、  
私なんかはねえ 新池を していた 頃はねえ、

マダ ガッコー イツキョッテナ  
まだ 学校[へ] 行っていてね

アシコワ モー ヒトツツモ イタコトナイ。 ナ。  
あそこは もう 一度も 行ったことがない。 ね。

13B : ンー、 アソコエナ ワタツシャノ ジダイジャツタキン  
うん、 あそこへはね 私らの 時代だったから

ナー (C ンー) ホンジャキニ アンタトナラ モ  
ねえ (C うん) それだから あなたとなら もう

ジューネンモ チガウキンナ。 (C へー)  
10年も 違うからね。 (C へえ)

ホンジャキニ ワタシヤワーナー チンジンイケ[16]ワー  
それだから 私なんかはね 鎮守池は

ソナン イカザッタン。  
そんなに 行かなかったの。

ホンジャケンド アソコ スンデカラ  
だけれども あそこ[が] 終わってから

香川 03-4

チンジンイケイ アノー、 オンドイー[17]サンモ  
鎮守池へ あの 音頭言いさんも

ミナワ ナ (C ウン) イタン。 (C フーン)  
みんなは ね (C うん) 行ったの。(C ぶん)

ホイカラ キナズキモーナ、 マー、 ナンジャワイ。  
それから 杵突きもね まあ 何だね。

アノー ナン、 カッカリカ° チカ°オカ°ナ (C ソー ソー)  
あの なに かがりが 違うよね (C そう そう)

ミタニカ°カリトナ (A アー、 ソー ソー)  
三谷池のかかりとね。(A ああ、 そう そう)

(C ンー) (A ンー)  
(C うん) (A うん)

ナカ°ゾコ[18]ヤ オヒゲ[19]モ ナー (A エー へー へー)  
長砂古や 大髭も ねえ (A ええ はい はい)

カカリト チカ°ウケンド  
[それぞれ]水の利用区域が 違うけれども

マー ミンナナ ソコエ マー ゼニモーケジャキンナ。(A アー)  
まあ みんなね そこへ まあ お金もうけだからね。(A ああ)

ヤトワレテイッキョッタワイナ。(A・C フン フン フン)  
雇われていっていたよね。(A・C ぶん ぶん ぶん)

香川 03-5

ホンデ ウッチャニワ モーナ  
そして 私のうちなんかでは もうね

ワカ°ノワ ワ ナニ、 ボーデゴッ コノ ボーнде  
自分のうちのは × 何、 棒でね この 棒で

ドコソコノ ボー ドコソコノ ボーエト  
どこそこの[池用の] 棒 どこそこの[池用の] 棒と

ワケトットロガナ。 (A へへへ) ナー。  
分けていただろうよ。(A へへへ) ねえ。

ホンジャキニ コンド アンタン、  
それだから 今度[は] あなたのうち

アシタ アンタンキノ マーリゾナイ ユーテ  
あした[は] あなたのうちの 順番だよ [と]いって

マーリ ユーテキテクレタラ イッキョッタケドナー。  
順番[を] 言ってきてくれたら 行っていたけどねえ。

(A ホー ホー ホー)  
(A ほう ほう ほう)

ホンジャキンド タンボ トウクットラント  
そうだけれども [その池の]田んぼ[を] 作っていないで

モー ヨソノオ ヒキウケトル ヒトワ  
もう よその[池の杵突き]を 引き受けている 人は

X1ノ オバハンジャノー、アノー ナンジャノ ユー シワ  
X1の おばさんだの、あの 誰だの [と]いう 人は

モー ヒニ ヒニ イッキョツタン。  
もう 毎日 毎日 [杵突きに]行っていたの。

(C フーン ヒニ ヒニナ) {間}

(C ふうん 日に 日にね) {間}

14A : ホンデ アノー ナンナ ヒシテ ジューヒチセンナ。  
そして あのう 何かね 1日が 17銭か。

15C : {笑} ジュー ジューハッセンダツタンヤ トイ。  
{笑} ××× 18銭だったんだ という。

X2ノ ヒトノ ユーノワナ。(B {笑})

X2の 人の 言うのはね。(B {笑})

16B : アノナ シンイケワナ ニジッセンジャッタ。  
あのね 新池はね 20銭だった。

17C : アー ソーエ。(B ンー、ニジッセン)  
ああ そうか。(B うん、20銭)

ハヤカッタノニナ。(A ン) (B ン) マダ、ナー。

早かったのにね。(A ン) (B ン) まだ ねえ。

03↑04

ハヤカッタラ (A アー、ホリヤ) ヤスイソーナモンジャケンド。

早かったら (A ああ、それは) 安そうなものだけれども。

香川 04-2

18A : オナコ<sup>o</sup>シノ オセニ ニジッセン クレヨッタダロ。  
女の人の 大人に 20銭 くれていたのだろう。

(C ソージャナ) ホンデ コンドモヤ ガッコ<sup>o</sup>アカ<sup>o</sup>リヤワ  
(C そうだね) そして 子供や 学校を卒業した者などは

ヤッパリ ジューヒチハッセンジャッタンジャロー。  
やっぱり 17,8銭だったんだろう。

19B : ヘー ソリヤ ソノクライジャッタン。(A ナー)  
はあ それは そのくらいだったの。(A ねえ)

(A・C ネー) ハンカ<sup>o</sup>ミノナ (C ヘー) X3ヤンヤナー、  
(A・C ねえ) 母上のね (C へえ) X3さんなどね

アッ、アノ X4ヤンヤナー (A・C ウン)  
×× あの X4さんなどね (A・C うん)

ミナ キヨッタヤネ。(A オー) {間}  
みんな 来ていたんだね。(A おう) {間}

20C : ワータシヤナー ソノジブンワーナー  
私などはね その頃にはねえ

マダ カ<sup>o</sup>ッコー イッキョッテナー (A ンー)  
まだ 学校へ 行っていてねえ (A うん)

ホンデー ナンジャ アレカ<sup>o</sup>ナー (B ミニ キタク<sup>o</sup>ライデ)  
それで 何だ あれがねえ (B 見に 来たぐらいで)

香川 04-3

ゴッ、ヘー ミニ イタク°ライデナ。  
ね ×× 見に 行ったぐらいでね。

アノ ジブンニナー アノー ガッコーカラナー、  
あの 頃にね あのー 学校からねえ

リョコーカ° アッタンジャ。(A ンー)  
旅行が あったんだ。(A うん)

ホンデナ アノ オカヤマノ コーエンナ (A ン)  
そしてね あの 岡山の 公園ね (A うん)

ミニ イクノカ°ナー、エー、  
見に 行くのがねえ ええ

イチエンヨンジッセンジャ リョヒカ°ナ。(A ホー ホー)  
1円40銭だ 旅費がね。(A ほう ほう)

ホンデモナー イケノシリデナー イタ ヒトネー  
それでもねえ 池の尻でねえ 行った 人[は]ね

ンコ°ネット ロクネット コートークウトカ°  
5年と 6年と 高等科とが

イタノニナー (A ホー)  
行ったのにねえ (A ほう)

ソレニー、イタ ヒト ナインジャカ°ナー (A ホー)  
それなのに 行った 人は ないんだけどねえ。(A ほう)

香川 04-4

アノー、イケノシンデナー、  
あの 池の尻でねえ

X5ハント オヘヤ[20]ノ X6ハント (A ホー)  
X5さんと オヘヤの X6さん (A ほう)

ホレトナー ワータシト、サン、  
それとねえ 私と ××

アント アノ X7ハント (A フン) ナ、X8サンキノナ。  
あと あの X7さんと (A ふん) ね X8さんのうちのね。

(A フン フン フン) ヨッタリ イタン。 (A フーン)  
(A ふん ふん ふん) 4人[で] 行ったの。 (A ほう)

ホンデナー {笑} ソノー、ユクノニナー  
そしてね {笑} その 行くのにねえ

コンゾージ[21]マデ アルクンジャガナ。 (A ホー) (B {笑})  
金蔵寺まで 歩くんだよ。 (A ほう) (B {笑})

コンゾージカラデ ナケリヤ キシャガ ノーテナ。 (A ホー)  
金蔵寺からで なければ 汽車が なくてね。 (A ほう)

コンゾージー、マデ アルイテ アメガ シッカリ フツタンジャ。  
金蔵寺まで 歩いて 雨が うんと 降ったんだ。

(A ホー) ソレニナー、アルイテ ホイテ イテ。  
(A ほう) それにね 歩いて そして 行って。

香川 04-5

ホイデ タカマツデ トマッテナー (A ホー)  
そして 高松で 泊まってねえ (A ほう)

ホイカラ アクルヒ マタ オカヤマエナー (A オー) イテ  
それから 翌日 また 岡山へねえ (A おう) 行って

オカヤマデ ミテ ヒトツ トマッテ  
岡山で 見物して 1晩 泊まって

ホイテ マタ モドリニ マタ タカマツエ モンテ トマッテ。  
そして また 戻りに また 高松へ 戻って 泊まって

(A フン) ホンデナー、モドリヨッタ。モドッタンナ。  
(A ふん) そしてねえ 戻っていた。戻ったのね。

ホイソツ、マダナー、ソノー、ソノ ジブンニー  
そして まだねえ その その 頃には

イケ ショッタンヤ。(A ホー) ミタンノ イケナ。  
池[を] 作っていたんだ。(A ほう) 三谷の 池ね。

(A ンー ンー)  
(A うん うん)

ホンデナー タカマツデナー、トマッotteシタラナ (A ン)  
そしてねえ 高松でねえ 泊まっていたところがね (A ん)

ニカイデ オッタラ シタカラナー、ゾンボ ヨブンヤ。  
2階で いたら 下からねえ ひどく 呼ぶんだ。

(A ホー) ダレジャローカナー ト オモテナ、

(A ほう) 誰だろうかなあ と 思ってね

04↑05

ホイテ オリテイテ シタラナ

そして 降りて行って[など] したらね

アノー、イケ キヨッタ ケンノ シギシノ ナー、X9サン。

あの 池[へ] 来ていた 県の 技師の ねえ X9さん。

(A オー X9サン)

(A おう X9さん)

シットルンナ。(A オー シットル) ナ

知っているのか。(A おう 知っている) ね。

(A X10 ホンケデ ゲシュク シトッタンナー)

(A X10[の] 本家で 下宿 していたのねえ)

(B ソー ソー \*\*\* ) へー。シトッタ。

(B そう そう \*\*\* ) そう。[下宿]していた。

(B ソー ソー フン フン)

(B そう そう ふん ふん)

アノヒトカ°ナー (A ンー) ヨンデクレテナ。(A ン)

あの人がねえ (A うん) 呼んでくれてね。(A ん)

ホンデ センセニ ソー ユーテ

そして 先生に そう 言って[=断って]

香川 05-2

ホイテ ナンジャ マ ホーポーナ (A フン)  
そして 何だ ま 方々へね (A ふん)

エイク°ッニモ ツレテイテクレタリナ。 (A ホー)  
映画にも 連れて行ってくれたりね。 (A ほう)

ホーポー アルイテ ホイテ バンニ オソーニ  
方々 歩いて そして 夜 遅く

マタ ヤンドマデ ツレテキテクレテ (A へー へー へー)  
また 宿屋まで 連れてきてくれて (A へえ へえ へえ)

ホンデ ナー、 タカマツエ モンテ、 コンドウー、 アノ モンテ  
そして ねえ 高松へ 戻って 今度は あの 戻って

ホイカラナー モンドル ユータッテナー (A {咳})  
それからねえ 戻る [と]言ったところでねえ (A {咳})

アノ コンゾージマンデ モンタラ アルカナイカン。 (A ホー)  
あの 金蔵寺まで 戻ったら 歩かねばならない。 (A ほう)

ホイタラナー、 アノー、 X11ノゴ°ー オトツツァンノ  
そしたらね あの X11のね おとうさんの

X12ハンカ° シットロー? (A オー シットル) ナ。  
X12さんが 知っているだろう? (A おう 知っている) ね。

アノヒトカ°ナー (A ンー)  
あの人がねえ (A うん)

香川 05-3

アノ シオキ° [22]ナ (A ン) カマス [23]オ  
あの 汐木ね (A ン) [そこへもって行く]かますを

アノ ウシニ ヒッパラシテノー ダチンデ ツケテイタンジャナ。  
あの 牛に 引っ張らせてね 荷で つけていったんだね。

(A フン) ホンデ ソレカ° モドシニナ アノー  
(A ふん) そして それが 戻り道にね あの

イケノシリカラ ヨッタリ イトル シトオ  
池之尻から 4人 行っている 人を

クルマニ ノセテナー (A ン)  
車に 乗せてねえ (A ン)

モドルトテナー ホーボーデ マッチョッタヤテ。(A ホー)  
戻ろうとしてねえ 方々で 待っていたんだって。(A ほう)

ホンジャキンド モンテコンノジャ。(A フン フン)  
そうだけれども 戻って来ないんだ。(A ふん ふん)

ホンデナー アノ トードーナ、モトヤママデ モンテナ  
そしてねえ あの どうとうね 本山まで 戻ってね

(A ン) モトヤマノ X13ハン ユータラ  
(A ン) 本山の X13さん [と]いったら

シットルカ シランカ。(A シットル) ナー  
知っているか 知らないか。(A 知っている) ねえ

香川 05-4

(A X14ハンガ キョーダイ) ナー。(A ン)

(A X14さんの 兄弟) ねえ (A ん)

アシコマデ モンテナー (A ン)

あの人のところまで 戻ってねえ (A ん)

ソノハナシ シテシタラナ

その話[を] していたらね

ホンナラ ココエ モンタラナー ウチニ トメテナー (A ン)

そうすると ここへ 戻ったらねえ うちに 泊めてねえ (A ん)

オヒケ°ノ シュウ フタリワ トメテナー (A ン)

大髭の 人 二人は 泊めてねえ (A うん)

ホンデ アクルヒ イナスキニ ユーテナー、

そして 翌日 帰らずから [と]言ってねえ

ホンデ アノ X12ハンワ モンタンヤ トイ。(A ウーン)

そして あの X12さんは 戻ったんだ という。(A うーん)

ホンデ モ モンタラ アシコ モンタラ、

そして × 戻ったら あそこ[まで] 戻ったら

アノ X13ハンカ° マッチョッテナー。(A ン)

あの X13さんが 待っていてねえ (A うん)

ホイテ ソージャキニ トマレ ユーテナ。

そして そうだから 泊まれ [と]言ってね。

ホイテ アシコデ トメテモロタン。  
そして あそこで 泊めてもらったの。

ジャキンド アシコノ ヨコノコー、アレー、  
だけれども あそのの 横のね あれ

ナニ ユーンデナー、 オークナ リョクワンカ°。  
何 [と]いうのかなあ 大きな 旅館が。

(A オー オー) ナ (A・B オーミヤ)  
(A おう おう) ね。(A・B 大宮[だろう])

オーミヤ。 ソー ソー。 アシコ<sup>ン</sup>デ トマラシテ クレテ  
大宮。 そう そう。 あそこで 泊まらせて くれて

(A ホー。 エートコエ トマッタナ)  
(A ほう いいところへ 泊まったね)

ホイテナー アクルヒ モンテキタ。 ヨナー。  
そしてねえ 翌日 戻ってきた。 [の]よねえ。

ソノ ジブンニ アンタ マダ ソージャガナー、 アシコー、  
その 頃に あなた まだ そうだよねえ あそこ

05↑06

コンゾージマンデホカナ キシャ ツイトラザッタン。  
金蔵寺までしかね 汽車[が] 着いていなかったの。

(A アー ホーナ。 ウーン。 フン ソリヤ ナンジャンナー)  
(A ああ そうか。 うーん。 ふん そりゃ 何だねえ)

香川 06-2

フー (A ホノ イキモドリー エライ メ シタナ)  
ふん (A その 往復[に] たいへんな 思い[を] したね)

ホンデモナー、(C ンー)  
それでもねえ (C うん)

タッタ アンタ イチエンヨンジュッセンノ リヨヒジャキンド  
たった あなた 1円40銭の 旅費だけれども

イケノシリデ、タッタ ヨッタリシカ  
池之尻で ただの 4人しか

イク ヒト ナカッタンゾナ。(A ホー) {笑}  
行く 人[が] なかったんだよ。(A ほう) {笑}

(A ホンデ) ホノジブンジャキンナ。(A ウン)  
(A それで) [池の工事は]その頃だからね。(A うん)

ヒシテ ニジュッセン、ク°ライダッタンジャイナー。(A ン)  
1日 20銭くらいだったんだよねえ。(A ん)

オセ ジョービト[24]ノ オナコ°シノ。  
大人[の] 上人の 女の人の[日当が]

(A ニジュッセンデモ イッシューカンブン モタナ  
(A 20銭でも 1週間ぶん[の金を] 持たなければ

イケンキンナ)  
[旅行には]行けないからね)

香川 06-3

ソー オナコシノ ジョービトデナ。(B ウーン)

そう 女の人の 上人のね。(B うーん)

(A ウーン ホーナ {咳払い}) ホヤッタ ホヤッタ。

(A うーん そうか {咳払い}) そうだった そうだった。

21A : ホンデ マー、ナンジャナ。

それで まあ なんだね。

ホンダ キナズキモ (C アノー) ソレカラ ナンノブンモ

それでは 杵突きも (C あの) それから 何のぶんも

チョバボリノ ヒトモ ヒシテ ナンボ ヨンジュッセンナ。

丁場掘りの 人も 1日が いくら 40銭か。

22B : ヨンジュッセンモ クレダッタ[25]ワイ。

40銭も くれなかったよ。

(A チョバボリ?) フン。

(A 丁場掘り[でも]?) ふん。

アノー ナー ナ ナン フーシ ン ンゴゴ オモノナ (A フン)

あの ねえ × なに ××× ン ××× 本家のね (A うん)

アノ X15ハンチニナー (A フン) オトコシ

あの X15さんのうちにねえ (A うん) 男の人[を]

アノ マー オートウジ[26]カラ ヤトトットタンナー (A フン)

あの まあ 大辻から 雇っていたのねえ (A うん)

香川06-4

ソレカ° イッキョッタノ サンジューンゴセンジャッタン。  
その人が [仕事に]行っていたの [日給が]35銭だったの。

23A : ホーナー。 (B ンー) ホースルト ヤッパリ  
そうかね。 (B うん) そうすると やっぱり

オナコ°ノホーガ ブカ° ヨカッタナ。 (B ナ) ウーン。  
女のほうが 分が よかったね。 (B ね) うーん。

24B : ホイテナー (A フン) アノヒトカ° クチマトウンデナ。  
そしてね (A ふん) あの人が おしゃべりでね。

(A ホー) アノー、 マー スミトモカラ キタンジャキニ  
(A ほう) あの まあ 住友から 来たんだから

オネカ°イシマス ユワ エーノニ (A オー)  
お願いします [と]言えば よいのに (A おう)

アノ タッカ アンゴー、 アレ X16サン ユーンカイナ  
あの ××× あのね あれ X16さん [と]いうのかな

トージャ ショッタン。  
鳥屋 していたの。

(A エー エー エー) (C フン フン)  
(A ええ ええ ええ) (C ふん ふん)

アノ ヒトノナー、 オトットジャ。 (A フーン)  
あの 人のね 弟だ。 (A ふーん)

香川06-5

X17ツェン ユーンカ°ナ (A ンー) キトツタンジャ。

X17さん [と]いうのがね (A うん) きていたの。

(A ンー) ホーコーニナ。

(A うん) 奉公にね。

スミトモノ ジョービトカ° キマシタ {笑} ユー。

住友の 上人が 来ました {笑} [と]言う。

(C {笑}) (A ホー) ホーンドラ モー ミンナニナ

(C {笑}) (A ほう) そうすると もう みんなにね

(A ンー) ジョービトジャ ト ユーテ (A ホー)

(A うん) 上人だ と 言って (A ほう)

(C ツカワレルン {笑})

(C 使われるの。 {笑})

へー ガイニ ツカワレタラシイワナ。 (A ンー ンー ンー)

へえ ひどく 使われたらしいよね。 (A うん うん うん)

ホンデ モー トーンドー オコトワリシタンジャ

それで もう とうとう あやまったんだ

ユーテ ナ。 (A ホー)

[と]言って ね。 (A ほう)

アノ ヨー オモノ オバサンカ° オコンリョッタ。

あの よく 本家の おばさんが 怒っていた。

オッ、 X17ツァン オマイ モー、 ヨソ イテンデモ  
おっ、 X17さん おまえ もう よそ[に] 行っても

ソーユヨーナ リクツ ユーキニ オマエワ イカンノジャ  
そういうような 理屈[を] 言うから おまえは いけないのだ

ユーテナ。 (A フーン)

[と]いってね。 (A ふうん)

06↑07

スミトモカラ キタンジャキニ オネカ°イシマス ト  
住友から 来たのだから お願いします と

ユワ エーノニ ソレ スミトモノ  
言えば よいのに それ[を] 住友の

ジョービトカ° キタジャノ (A・C {笑}) {笑}  
上人が 来たのだと (A・C {笑}) {笑}

25A : ジョービトカ° キマシタジャノ ユーキン (B フフン)  
上人が 来ましたのだ [と]言うから (B ふふん)

(C フン フン) ホンナラ ジョービトナラ

(C ふん ふん) それなら 上人なら

ドリバ スルゾ ツコーテミイ ト ユーテ。  
どれだけ [仕事を]するか 使ってみろ と 言って。

26B : カランダノ コンマイナ (A フン) (C フーン)  
身体の 小さいね (A ふん) (C ふうん)

香川 07-2

クチバッカシ ナニ スル。

口ばかり[で] 何[を] する。

27A : タタカレルキンナー。(B ナー) ンーン ソリヤ。  
叩かれるからねえ。(B ねえ) うーん そりゃ。

28B : サーンジュコ°センジャ。(A ホーナ)  
[要するに、1日の日当は]35銭だ。(A そうか)

(C アー ソーナ) (A ンー)

(C ああ そうか) (A うん)

29A : ホンジャキンド マー、アレ ナンジャワイナー、  
そうだけれども まあ、あれ 何だよねえ

アレワ タイショーサンネンナ。

あれは 大正3年か。

30B : へー。(A ホー) タイショーサンネンニ アノ ワタシヤ  
へえ。(A ほう) 大正3年に あの 私など

31A : アレ ホンデ イチネンデ シアケ°タンナー。  
あれ それで 1年で 仕上げたのか。

32B : ナンシニ イチネンヤデ シアケ°ラレルンナ。  
どうして 1年くらいで 仕上げられるのか。

33A : アノ イケー ヤケン ナンネン カカットン  
あの 池 だから 何年 かかっているの

香川07-3

34B : サンネンモ ヨネンモ カカットロカ<sup>ナ</sup>。  
3年も 4年も かかっているだろうよ。

(A アー ホーナ) ンー。(A ホー)  
(A ああ そうか) うん。(A ほう)

35C : ソレ スンデー チンジンイケニ ナッタンナ。  
それが 終わって 鎮守池[の工事]に なったのか。

(B エー) チンジイケカ<sup>ナ</sup>。  
(B ええ) 鎮守池がね。

36B : ソー。タイショーニ ハイッターナー (A ホー)  
そう。大正に はいってねえ (A ほう)

モー ソレ サンネンノ アイダ ヒヤケ ショーオ。  
もう それ 3年の 間 早魃 している。

(A ホー ホー) ホンデーナー、  
(A ほう ほう) それでねえ

タイショーニネンカシランカラ ハジメタン。(A ホー)  
大正2年くらいから 始めたの。(A ほう)

ホンデ タイショーサンネンニワナー (A フーン)  
そして 大正3年にはねえ (A ふうん)

ワタシワ アノー、ナンジャ オボエトンジャ。  
私は あの、何だ [よく]覚えているんだ。

香川 07-4

ウチノ アノー、 イマ ワタシカ° カカトル  
うちの あの 今 私が 世話になっている

X18カ° デケテナー (A オー)

X18が 生まれてねえ (A おう)

ホンデ アンタ スルノニ ムカシノ コッチャキニゴー  
そして あなた [育児]するのに 昔の ことだからね

チチャ ナー (A へー へー へー へー)

乳などを ねえ (A へえ へえ へえ へえ)

コーテ ノマセマイカ°ナ。 (A ンー)

買って 飲ませないだろうよ。 (A うん)

ホンジャキニ モー ワタシノ チチヨリイク°ウイニ  
それだから もう 私の 乳よりほかに

ノマサンキニ アンタ、 オバーチャンカ° ヤッパシ イマー  
飲ませないから あなた、 おばあさんが やはり 今

アソコエンゴー、 イエ タテトロカ°ナー、  
あそこへね、 家[を] 建てているだろうよ、

アノ オ オンナノ X19ガ (A アーア)

あの × 女の X19ガ (A あああ)

ハタケナ、 (A ハイ ハイ エーエ)

[持っている]畑ね、 (A はい はい えええ)

香川 07-5

アー ソコニナー (A イケノ フ)

あー そこにねえ (A 池の ×)

チョットシタ カミサン[27]カ° アッタンジャ。(A ハー)  
ちょっとした 神さんが あったのです。(A はあ)

ア、ホコニ マツバヤシカ° アッテ スズシカッタナー  
× そこに 松林が あって 涼しかったねえ

(A へーへ) ソコエナ オーテ チチ ノマシニ キテ  
(A へえへ) そこへね 背負って 乳[を] 飲ませに 来て

ヤッパシ マッチョッテナー (A オー)  
やはり 待っていてねえ (A おう)

ホイテ ホッ タイコ[28]カラ タイコマンデノ アイ ンダ  
そして ×× 太鼓から 太鼓までの 間

マッチョッテナー (A ンー) ホイテ チチ ノマシテナー。  
待っていてねえ (A うん) そして 乳[を] 飲ませてねえ

オーテ モンテキヨッタン。(A オー ホーナ) フーン。  
背負って 戻ってき来ていたの。(A おう そうか) ふうん。

ホンジャキンナー アノ イケワ アンタ ナカナカ Aハン  
それだからねえ あの 池は あなたね なかなか Aさん

アレ ングルリット テイボージャキニナー  
あれ ぐるりと 堤防だからねえ

香川 07-6

(C サラニ コッサエタンジャキンナ)

(C 新しく 作ったのだからね)

(A アー アー サランナー)

(A ああ ああ 新しいのねえ)

(C サラニ コッサエタンジャキンナ) へー

(C 新しく 作ったんだからね) へえ

サラニ シタンジャキンナー テーボーカ°。 ナー。

新しく 作ったのだからね 堤防が。 ねえ。

(C フン) アノ モー ミナ サラジャッタキンナ

(C ふん) あの もう みな 新しいものだったからね

ナカーナカジャッタワイ。

なかなか[たいへん]だったよ。

(A アレ ホッター ジャキンナ)

(A あれ[は] [田を]掘って [作ったもの]だからね)

(C へー へー へー)

(C へえ へえ へえ)

(A ホツテ グルリット ツチ アケ°タン)

(A [田を]掘って ぐるりと 土[を] 上げたの)

ナニ、 ナー \*\*\*\* ナー

何 ねえ \*\*\*\* ねえ

37A : アレ ユル アルンナ。  
あれ 水門[は] あるか。

38B : アル アル ユル アル。 (C ヘー ヘ {笑})  
ある ある 水門[は] ある。 (C ヘえ ヘえ {笑})

{笑} ユルンゴー。  
{笑} 水門[を]ね。

39A : ユル ヌイタラ デンナ。 デルンナ。  
水門[の板を] 抜いたら [水は]出ないか。 出るのか。

07↑08

40B : ディルカ°ナ アンタ。 {笑}  
出るよ あなた。 {笑}

ユル ヌイテ デナカッタラ。  
水門[の板を] 抜いて [水が]出なかったら。

41A : ソコミズダケオ カエルヨーニ シトンナー。 (B エー)  
[池の]底水だけを 汲み出すように しているのか。 (B ええ)

ソコミズダケオ ポンプゴヤノホーエ トッテ  
底水だけを ポンプ小屋のほうへ 取って

カエルヨーニ シトンナ。  
汲み出すように しているのか。

42B : アレナー (A {咳}) ソコミズオナー (A ン)  
あれはね (A {咳}) 底水をねえ (A うん)

香川 08-2

アノ ダー ソレ サツパリト デンノヨリナー (A ナー)  
あの さ それ さつぱりと [水が]出ないのよりねえ (A ん)

アノ ダスヨリンゴー ウエー ミズ ヤル  
あの 出すより[は]ね 上[へ] 水[を] やる

トテ ジャカ°ナ。  
とって [汲み上げるの]だよ。

(C アー ソー ソー ソー) (A アー) ナー。  
(C ああ、 そう そう そう) (A ああ) ねえ。

(A アスコカラ) (C タカイトコ)  
(A あそこから[上へ汲み上げるのか]) (C 高い所[へ])

アソコカラ、ノー (C ナー) (A ホー ホー ホー)  
あそこからね (C ねえ) (A ほう ほう ほう)

ソコ、ナ (A カイアゲルンナ) (C フーン)  
そこ[から]ね (A 汲み上げるのか) (C ふーん)

カイアケルン (A {咳})  
汲み上げるの (A {咳})

43C : イマノ ウンドージョー[29]ノホーエネー  
今の 運動場のほうへね。

(A ソー ソー ソー)  
(A そう そう そう)

香川 08-3

44 B : ンー ウンドージョーノホーエ (A ホー ホー ホー)  
うん 運動場のほうへ (A そう そう そう)

アノナー オーイケ[30]カ° ノ ミズカ°  
あのね 大池× の 水が

スクナカロー? (A へー)  
少ないだろう? (A へえ)

ホンダッテ オーイケノホーニ カカリカ° オーインデショー?  
それだって 大池のほうに 水の利用区域が 多いんでしょう。

(A ホー ホー ホー) ホンジャキンナー  
(A そう そう そう) それだからねえ

アソコイ カイアケ°ヨッタ  
あそこへ 汲み上げていたの。

45 A : アー ホーナ (B ンー)  
ああ そうか (B うん)

ホー、ダイブン アレ ケイヒ インリョッタナー?  
ほう、だいぶん あれ[は] 経費[が] かかっていたか。

46 B : ケーヒ インリョッタ インリョッタ。  
経費[は] かかっていた かかっていた。

モー イマーデモナー、アレ、マダ アソコ  
もう 今でもねえ あれ まだ あそこ[を]

香川 08-4

ツブラント オイタロー (A オイタール)  
取り壊さないで 置いてあるだろう。(A 置いてある)

アレ アンタ コノコ°ロー オ ミナー、  
あれ[は] あなた この頃 × みんな

アンター、 ナーノホーニ シテクレロカ°ナ  
あなた 何のほうに してくれるだろうよ。

シーノホーニナー。(A オー オー)  
[観音寺]市のほうにねえ。(A おう おう)

アノ ヤキュースルトコイヤイコ°ー ホースンデ  
あの 野球するところなどをね ホースで

ミズ ヤルノ ミナ アンタ アノ  
水[を] やるの[は] みんな あなた あの

シンイケノ ミズ[31] ツカイヨン。  
新池の 水[を] 使っているの。

(A アノミズ ヤッリヨンナー) へー。  
(A あの水を やっているのか) へえ。

47A : オー ホーナ。フーン ジャ ナニガ ヤクニ タッチャラ  
おう そうか。ふうん じゃ 何が 役に 立つのか

ワカランモノジャー  
わからないものだねえ

香川 08-5

48B : ホンマニナー

ほんとうに[わからない]ねえ

49A : フーン、 ナカナカ (C {咳払い}) エラカッタナ。 コレワ。

ふうん なかなか (C {咳払い}) 苦しかったね。 これは。

50B : アレオ ナカ°イ アイダ ナー ホンマニ。

あれを 長い 間 ねえ ほんとうに。

51A : シャケンドー シ アン ナンジャロカ°ナ。

だけれども × あの 何だろうよ。

キナズキジャッテ ヒニ ヒニ イクバー ナカッタロ。

杵突きだって 毎日 毎日 行くほどでは なかっただろう。

52B : へー ヒニ ヒニ イクホンドワ ナインナ (A ホー)

へえ 毎日 毎日 行くほどは ないのね (A ほう)

アノー ポージャキンナー (A ホー ホー ホー)

あの 棒だからね (A ほう ほう ほう)

ポーンデ マーリカ° キタリバ ホカ ッテ

棒で 順番が 来たならば そうか と

ヒニ ヒニ イク ヒトモ アルン (A アー、 アー)

毎日 毎日 行く 人も あるの (A ああ、 ああ)

ホレカ°ー アンタナー アノ ヨー ポーノ ナカデデモ ハ

それが あなたねえ あの よく 棒の 中でも ×

香川 08-6

イク ヒトト イケン トコカ° アロカ°ナ。 (A ソージャ)  
行く 人と 行けない ところが あるだろうよ (A そうだ)

ナ (A へ) ホンジャキン ウチニワナ  
ね (A へえ) それだから うちにはね

ウチンダケンノデワーダ ナン スクナインジャカ°ナ。 (A ホー)  
うちだけの者ではね 何 少ないんだよ。 (A ほう)

ホンデ オモノト ニ ニケンブンオ ワタシカ°  
それで 本家のと × 2軒ぶんを 私が

イッキョツタン。 (A ホー) ナー。  
[受け持って]行っていたの。 (A ほう) ねえ。

ホンデダノ ニンプワナ ウチノブンモ アノー  
それだから 人夫[としては]ね うちのぶんも あの

オモノブンモ ソノ X17ツァン ヤルキンナー  
本家のぶんも その X17さん[を] 遣るからねえ

(A ホー ホー) イッキョツタン  
(A ほう ほう) [X17さんが]行っていたの

(A アー ホーナ) ホン ホンジャキンナ  
(A ああ そうか) ×× それだからね

ボージャキンナ (A へー)  
棒[を使つてのこと]だからね (A へえ)

イッシューカンニ マー ニヘン アタツ トコモアリ  
1週間に まあ 2度 [順番が]あたる ところもあり

サンベン アタツ トコモ アライナ。(A へーへ ホーナ)  
3度 あたる ところも あるわね。(A へえへ そうか)

08↑09

ホンジャキンナー キナズキジャツテ モー オーゼイナー  
そうだからねえ 杵突きだつて もう 大勢ねえ

アノ テイボー アンタ ニシテー ヒトットコソデ  
あの 堤防[は] あなた 西堤防 1か所で

シコト デケンキンナー。(A へー へー へー)  
仕事[は] できないからねえ。(A へえ へえ へえ)

ニシテーボーノ ヒト、ソデ タツ ウツ  
西堤防の 人で ×× ××

ナニ ショル ヒトモ アリ  
何 している 人も あり

ヒンガシテーボージャ ミナミテーボージャ ユーテ  
東堤防だ 南堤防だ [と]言つて

ミナ ワケテナ (A へーへ) ショッタキニ  
みんな[で] 分けてねえ (A へえへ) していたから

オンドイーサン ヨーケ キョッター (C {笑})  
音頭言いさん[が] 大勢 来ていた (C {笑})

香川 09-2

53A : アノー、 ガッコーカラモ コンドモ トウレテイテ  
あの 学校からも 子供 連れて行って

フミニ イタコト アロカ°ナ。  
踏み[固め]に 行ったことが あるだろうよ。

54B : サー ガッコーノ セイトカ° キタカ ッテナー。  
さあ 学校の 生徒が 来たか ってねえ。

55A : イヤ ワシヤ フミニ イタコト アルンジャ。  
いや 私など[は] 踏みに 行ったこと[が] あるんだ。

56B : ソレワ チンジンイケデショー。(A チンジンイケカナ)  
それは 鎮守池[の時]でしょう。(A 鎮守池かな)

ナ。 ソレワ チンジンイケジャ。  
ね。 それは 鎮守池[の時]だ。

57A : ホイタラ シンイケワ イトランノナ。  
そうすると 新池へは [生徒は]行っていないのか。

58B : シンイケワ ソナンコト セン。(A ハー)  
新池は そんなこと[は] しない。(A はあ)

シンイケナー X21ヤンニナー ウエノ[32]ノ (A ンー)  
新池はねえ X21さんにね 上野の (A うん)

ホイカラ コーチ[33]ノゴー  
それから 河内のね

香川 09-3

X20ハン ユー ヒトニナー (A ンー)

X20さん [と]いう 人にねえ (A うん)

ホイカラ アノ (A ナカ°ハラノ X22ハン)

それから あの (A 長原の X22さん)

ナカソラ[34]ノ (A X22ハンナ) X22ハンナ

中空の (A X22さんか) X22さんね

(A ンー ンー)

(A うん うん)

ホイカラ デザイケ[35]ノ X23 ユーナ

それから 出在家の X23 [と]いう[人]ね

(A オー ヨニン キヨッタンナ) ヨニン。

(A おう 4人 来ていたのか) 4人[来ていた]。

ソレニ カサヤノ X24サンカ° (A・C {笑})

それに 傘屋の X24さんが (A・C {笑})

(C X24サンガ) X24サンカ°ナ

(C X24さんが) X24さんがね

X25ヤンノ デシニ キヨッタ。

X25やんの 弟子[として] 来ていた。

09↑

—— 中 略 ——

香川10-1

59A : ホンジャキニ ナンジャナー コノ イケモ  
だから 何だねえ この 池も

↑10

イワレカ° アルケニ ホゾロカケ ツブレンナ。  
由緒が あるから /////  
つぶれないね。

60B : シー、ホドロイケナー、アンタ アノ ケッコナ コー  
うん、 //池ねえ あなた あの きれいな こう

ヒラチ シタンデ ナインデ  
平地[を] したのでは ないので

ダンダンノ タンボオナー (A シー)  
段々の 田んぼをねえ (A うん)

アノ ミナ アイヨニ (A アー アー アー アー)  
あの みな どのように (A ああ ああ ああ ああ)

ソコオナー ナラシタンジャキニナー  
底をねえ 平らにしたんだからねえ

(A ナルホド へー へー へー へー)  
(A なるほど。 へえ へえ へえ へえ)

ナカナカジャワイ。 (A ホー) (C ソーエ)  
なかなか[のこと]だよ。 (A ほう) (C そうか)

イマナー、アノー ナン イチバンゴー ナンノ トコ  
今ねえ あのう なに いちばんね 何の ところ

香川 10-2

X26 センセンチノ アレ、タンボジャッタ トコオ  
X26 先生のうちの あれ 田んぼだった ところ×[が]

ナンジャ イケノ マシタニ ナットライナー。  
何ですよ 池の 真下に なっていますよ。

(A アー、ハイ ハイ ハイ)

(A ああ、はい はい はい)

センセンチノ ムコーノホーノカ°ワデワ  
先生のうちの 向こうのほうの側では

イケニ トラレテナ (A フン)  
池に 取られてね (A ふん)

ホンデカラニ (A センセノ ジ チット ノコットンナ)  
そしてからに (A 先生の 土地 少しは 残っているのか)

シモノ ハタノホーデナー (A ホー) ノコットン ソレ  
下の 端のほうでね (A ほう) 残っているの それ

イマー マツカワノナー (A ンー)  
今 松川のねえ (A うん)

X25 サンチニ ツウクットルノオ X25 サンチニワ  
X25 さんのうちで 耕作しているのを X25 さんの家では

ヨー ツウクランキニ イシダノナ (A ホー)  
耕作することができないから 石田のね (A ほう)

香川10-3

アニカ° ショル (A アー X27ガ)

兄が [耕作]している (A ああ X27ガ)

へー。(A オー ホーナ ンー)

はい。(A おお、 そうか うん)

ヤセク°ライ ノコットン。(A フーン)

8畝ぐらい 残っているの。(A ふーん)

61A : アレー ナカナカ ナンジャナ アノイケガ  
あれ なかなか 何だね あの池×[を]

アリバ シアゲルマデ ヨーイデ ナカッタナ。  
あれだけに 仕上げるまで 容易で なかったね。

62B : ヨーイデ ナカッタナー。(C ナカ°イコトナ ンー)  
容易で なかったねえ。(C 長いことね うん)

ホンマニナー。

ほんとうにねえ。

63C : ワタシヤナー コドモノ ジブンジャケンド オボエトル。  
私などねえ 子供の 頃だけれども [よく]覚えている。

64A : アレワ シンニ ツイタンジャキンナ。(C へー)  
あれは 新しく 築いたんだからね。(C へえ)

ソイカラ ナンダロ チンジンイケ ユーノワ  
それから 何だろう 鎮守池 [と]いうのは

香川10-4

コレワー アノ (B ツツミカ°)

これは あの (B 堤が)

コショーカ° デケテ ブリカケテ シタンジャロ。

故障が できて 漏りかけて [修理]したんだろう。

(C ソージャ) ホンデ アレ シモエ ヒロケ°タンナ。

(C そうだ) それで あれ 下[のほう]へ 広げたのか。

(C ヒロケ°タン) ナ。(C ヒロケ°タン。へ)

(C 広げたの) ね。(C 広げたの。へ)

ホンデ モトノ ツツマオ オソーマデ オイタッタンカイナー。

それで もとの 堤を 遅くまで 置いてあったのかな。

65C : ソージャロ。(A ナカデ)

そうだろう。(A 中で)

モトノ ツツマオ モテキテ ツイテ

もとの 堤を 持ってきて 築いて

マタ ツツミオ シタンジャナ。

また 堤を 作ったんだね。

66A : シモエナー、 サラニ ホリタシタンカー。 ウーン。

下[のほう]へねえ 新しく 掘り足したのかな。 うーん。

アレモ ナンジャー、 フカイ イケンデ。

あれも なんだねえ、 深い 池で。

(C アレモナー)

(C あれも[深い]ねえ)

ホンデー アレ ナンボ アルシナ メンセキ。  
それで あれ[は] どれくらい あるのか 面積[は]。

67C : サー メンセキヤ、ワー シランナー。  
さあ 面積などは 知らないねえ。

タンボノ カカリ [36]ワ  
[その池の水を引き入れる]田んぼの 範囲は

ゴチョー ハッタントカ イヨッタナー。  
5町 8反とか 言っていたねえ。

68A : ハハー ホーナ。 ホンジャキンドー ナンジャ ナインナ。  
ははあ そうですか。 それだけれども 何では ないのか。

アレ メンセキ シンイケト ドッチナー。  
あれ 面積[は] 新池と どっち[が大きい]のか。

69B : シンイケノホーンガ° オーキナカロガ°。(A ア ホーナ)  
新池のほうが 大きいだろうよ。(A あ そうか)

(C ソージャロカナ)

(C そうだろうかな)

70A : シナー アレワ ロクヒチタンク°ライノモンナ  
それなら あれは [かかりの田んぼが]6、7反くらいのものか。

(C ン一) フーン

(C うん) ふん[なるほど]。

71B : シンイケヤコシ アンタ、 イッ ンナー  
新池などは あなた ×× ×××

ジュンゴチョーモナー (A カカリワナー)

15町もね (A 水の利用区域はね)

10↑11

ナー。アッタン。

ねえ。あったの。

72A : ンデー シンイケワ ウエニー オーギタイケジャノ  
それで 新池は 上に 大喜多池だの

ミヤイケ[37]ジャノ ユーノガ アットロカ°ナ。

宮池だの [と]いうのが あっただろうよ。

73B : へー オーギタイケニ (A {咳払い}) ミヤイケニナー  
へえ 大喜多池に (A {咳払い}) 宮池にねえ

(A ン一)

(A うん)

ホイカラ アンタ アノ アレ ヨーイケ[38] ユーノモ

それから あなた あの あれ 小池 [と]いうのも

アッタシナ。(A ソ一)

あったしね。(A そう)

香川 11-2

ナンナヤカイ イケ コンマイ イケカ°  
何やかやと 池[が] 小さい 池が

チョコチョコト ヨーケ アッタンジャナ。  
ちょこちょこと たくさん あったんだね。

74A : ホッデ イマー アノ ウンドーコーエンノ シタノ イケモ  
それで 今 あの 運動公園の 下の 池も

アレ ミタニー カカンリヤロ。 (B ウンド)  
あれ[も] 三谷[の池の] 利用区域だろう。 (B ×××)

ウンドーコーエンノ イヤー アノ ロジンホームノ シタノ イケ。  
運動公園の いや あの 老人ホームの 下の 池。

75C : ソー ソー アレモ ミタニジャナ。 (A オッ ミタニジャロ)  
そう そう あれも 三谷だね。 (A おう 三谷だろう)

フン。 (B フン)  
ふん。 (B ふん)

76A : アレオー オーイケ イヨッタンナ (C ソージャ オーイケジャ)  
あれを 大池 [と] いていたのか (C そうだ 大池だ)

77B : ソージャ ミタンノ オーイケジャ。  
そうだ 三谷の 大池だ。

78A : アレモ ミタンノ プンナ。  
あれも 三谷の [利用区域の] ぶんか。

香川 11-3

79B : へー アレモ (C ミタンノ) ミタンノブン。  
へえ あれも (C 三谷の[ぶんだ]) 三谷のぶん[だ]。

アレシダケホカジャ ナカッタン。イケカ°。  
あれだけしか[ないというの]では なかったの。池が[ね]

80A : ハアー (A ナ) ホンデ ヤケルキニ。  
はあ (A ねえ) そして [田が]焼けるから。

81C : ホンデ アレ タマリワ ワルイシナー。  
そして あれ 水の溜まりは 悪いしねえ。

(A タマリ ワルイ) {笑}

(A 溜まり[が] 悪い) {笑}

82B : ホンジャケドナー (A ミタンノ イケワー)  
そうだけれどもねえ (A 三谷の 池は)

アノ イケナー (A ンー)  
あの 池ね (A うん)

コー ヤマーンダケノ ミズジャッタキンナー (A ンー)  
こう 山だけの 水だったからねえ (A うん)

ケッコイ ミズジャッタンヤ。 (A ホー)  
けっこうな[=きれいな] 水だったのだ。 (A ほう)

イヨイヨ ケッコナ ミタンノ オーイケ。  
ほんとうに きれいな 三谷の 大池[だ]

香川 11-4

ホイテ ナニモ ハイルナー、 モーモ ハイル。 (A ホー)  
そして 何[で]も 生えるねえ、 藻も 生える。 (A ほう)

ソレカ° モー コノコロ ナットラ セーナイ。  
それが もう このごろは なってはいないよ。

83A : コノゴロワ モー ウエカ° ウエジャキンナー。  
この頃は もう [池の]上が 上だからねえ。

84B : ウエカ° ウエジャキン クサインゼ。  
上が 上だから 臭いのよ。

アノ、 ユーカ° デテキヨッ トコ (A ハー)  
あの 湯が 出てきている ところ[へ] (A はあ)

イタラナー フロノ ミズカラナー。  
行ったらねえ 風呂の 水からねえ。

85A : ホイカラ モー ナニジャナインナ。  
それから もう 何じゃないのか。

アノー、 シモゴイヤ マシテ ミナ  
あの 下肥など[を] まして みんな

ナカ° シコンミョルンジャナインナ。  
流し込んでいるのではないか。

86B : ナカ° ション。 (A ホー) ホンジャキンナー (A ンー)  
流しているの。 (A ほう) それだからねえ (A うん)

香川11-5

アノ イケ モー アサ トーカラ ツウリニ キトルン。  
あの 池[は] もう 朝 早くから 釣りに 来ているの。

アノシ ツウッテン ンドースルンジャロニ ト  
あの人たち[は] 釣って どうするんだろうか と

ワタシ オモウ。(C {笑})

私[は] 思う。(C {笑})

87A : ソリャ シランキンナー。(C ンー)

それは [そういうことを]知らないからねえ。(C うん)

88B : シランキニナー。 ホンデモナー アサ トーカラ

知らないからねえ。 それでもね 朝 早くから

オナコ°カ° ツウリニ キトライ。(A ホーナ)

女の人が 釣りに 来ているよ。(A そうか)

(C ア ソーナ) フン。(C フーン) マー トーカラ

(C ああ そうか) うん。(C ふうん) まあ 早くから

89A : アレモ ホンダラ ヤッパリ ミタンノ ブンジャナ、

あれも それなら やっぱり 三谷の [利用区域の]ぶんだね

ミナ。(C フン ミタンノ ブン)

みんな。(C うん 三谷の [利用区域の]ぶん)

90B : ミタニノ ブンジャナ。(A アー ソーナ)

三谷の [利用区域の]ぶんだね。(A ああ そうか)

香川 11-6

アソコーナ (A ンー) アノー、ナンジャワナー、  
あそこはね (A うん) あの 何だよねえ

オナコ°カ°ナー (A ンー)  
女の人がねえ (A うん)

イツウデモ アサ トーニ キテ ツッリョライ。  
いつでも 朝 早く[から] 来て 釣っているよ。

91A : ホーナ。 (B エー)  
そうかね。 (B ええ)

ンデ イマコ°ロ (C ンデナー)  
それで 今頃[は] (C そうですねえ)

ナンナ ナンニ カカルン。 (B エー)  
何が 何[の魚]が 釣れるの。 (B ええ)

ヤッパリ フナナ。  
やっぱり 鮒か。

92B : アッ、アー、フナモ オルシ、アソコイナー (A ンー)  
×× ああ、鮒も いるし あそこへねえ (A うん)

セ アノ ショーボーカ°ナー (A ンー)  
× あの 消防[署の人]がね (A うん)

ナンジャ アノー、ニイケノゴー コイオ ヨーケナー  
何だ あの 仁池のね 鯉を たくさんねえ

(A へー へー へ)

(A へえ へえ へ)

トツテキテゾー イケテナー。(A へー)

取ってきてね 入れてねえ。(A へえ)

ソラー アンタ ケッコカッタゾナ。

それは あなた きれいだったのだよ。

アサー ミナ メサマシニ オキテ キタラナー

朝 みんな 目[を]さました時に 起きて 来たらねえ

(A エー) アノ、ゾー ミズカ° オリルデショー。

(A ええ) あのね 水が 流れおちるでしょう。

11↑12

(A ホー ホー ホー)

(A ほう ほう ほう)

ベンジョノ ナニヤゾー (A オー エー エー) コ、

便所の 何などね (A おう、ええ ええ) ×

ミナナー スイセンベンジョノ ナンジャ チューテ (C ソコエ)

みんなね 水洗便所の 何だ と言って (C そこへ)

ホイタラ オフロカ° デ ノユカ° デッ。(A ホー)

そうすると お風呂が × [風呂]の湯が 出る。(A ほう)

マー オーキナ コナナ コイカ°ナー アカヤ クロヤカ°ナー

まあ 大きな こんな 鯉がねえ 赤や 黒やねえ

香川 12-2

(A ホー) イッパイ デテキョツタン。(A ホー)

(A ほう) いっぱい 出てきていたの。(A ほう)

ホンデシタラナー ドーモ ヨナベニ トアミ モツテ  
そうするとねえ どうも 夜の仕事に 投網[を] 持って

トリニ イクヒトカ° アッタラシイワナー。(A オー)  
取りに 行く人が あったらしいわねえ。(A おう)

ホンダ モー ショーボー  
そうすると もう 消防[署の人]は

ジキニ ヒアケ°テ トツテ {笑}  
すぐに 池の水をからにして 取って {笑}

ウツタンカ ドナン シタンカ シランケド。  
売ったのか どのように したのか 知らないけれど。

93A : マター ニイケエ マイタンジャナインナ。  
また 仁池へ 投げ入れたのではないのか。

94B : ホイタキンド イマーニ マダ フナワ オルンダローンデワナ。  
そうだけれども 今に まだ 鮒は いるんだろうよね。

(A オライ) (C ソリヤ オライ) トルノオ ミテワナ。  
(A いるよ) (C それは いるよ) とるのを 見てよね。

95A : エー ソリヤ オライ。  
ええ、それは いるでしょう。

香川 12-3

ホー、 マンダ ツッリョルン。

ほう、 まだ 釣っているの。

96B : マー、 アノナー (C ツッリョルナー)

まあ、 あのねえ (C 釣っているねえ)

イマデモ、 ツイリョライ。(C チョイチョイ ツッリョライ)

今でも 釣っているよ。(C 時々 釣っているよ)

イテンゴー アノ、 ナー (A ンー)

行ってね あの ねえ (A うん)

アレー ホンジャキンド ナンジャナー

あれ そうだけれど 何だねえ

トクシマノ ジンドーシャヤ アン ヨーケ ノッテキトルキンド  
徳島の 自動車など あの 大勢 乗ってきているけれど

トクシマノホーカラ ツウリニ コンキニ ナンダロ

徳島のほうから[は] 釣りに 来ないから 何だろう

コッチノホーカラ トクシマエ ハタラキニ イッキョル ヒトカ°

こっちのほうから 徳島へ 働きに 行っている 人が

ワタシ ツウリニ クルンカ ト オモウ。

私[は] 釣りに 来るのか と 思う。

97A : マー モントル アイニナ。

まあ 戻っている 間にね。

香川 12-4

98B : ナー。(A ンー) アノ ア、ドヨーノ バンヤナー  
ねえ。(A うん) あの × 土曜の 晩などねえ

(A ンー) ナンニャラ モンテキテ  
(A うん) 何か[の時に] 戻ってきて

ホンデ ツウルンジャロ ト オモウナ。(A ホーナ)  
それで 釣るんだろう と 思うね。(A そうか)

ホンデモ ソコソコ<sup>ン</sup>デ ツウツリヨライ。  
それでも あちらこちらで 釣っているよ。

99A : カカツリヨルンナ。  
[魚は]釣れているのか。

100B : フン カカツリヨライ。(A ホーナ) フン。(A ウーン)  
ふん かかっているよ。(A そうか) ふん。(A うーん)

101C : ミタニヤナー イケカ<sup>ナ</sup> デケテデモ マダゴ<sup>ー</sup>  
三谷などねえ 池が できても まだね

(A ヒヤケ シテナ<sup>ー</sup>) チョットナー (A ンー)  
(A 早魃 してね) ちよっとねえ (A うん)

ヒヤケカ<sup>ナ</sup> (A ンー) ショッタ<sup>ン</sup>ヤシヤ<sup>ン</sup>、  
早魃がね (A うん) していたのだし

ウチャー、 ミタニ ツクツッタ トキニゴ<sup>ー</sup>  
うちなどは、三谷[のを] 作っていた ときにね

香川12-5

ワタ ツクッタ オボエカ° アライ。(A ホーナ)  
綿[を] 作った 覚えが あるよ。(A そうか)

へー。(A ーン ーン)  
へえ。(A うん うん)

ソレワ モー オソーニ[39]ジャケンドナー。(A へー へー)  
それは もう 年が経ってからだけれどねえ。(A へえ へえ)

ワタシヤカ° ツクリカケテジャキンナ。(A フン)  
私などが [田を] 耕しはじめてだからね。(A ふん)

オソーニジャキンド ワータ ツクッテナー。  
年が経ってからだけれど 綿[を] 作ってねえ。

102B : ワータトナー、 タートナー、 コー イチネンカ°イニナー  
綿とねえ、 田とねえ、 こう 1年交替でねえ

(A アーア) ハンハンニ ショッタンジャナ。  
(A ああ) 半々に 作っていたんだね。

103A : ア ホーナ オー。  
あ そうか おう。

ワタワ ホイテ ナンナ モー、 ッアノー ツクッタラ  
綿は そして 何か もう、 あのう 作ったら

アー ワタノ フイトル ヤツンダケ トルンナ。  
ああ 綿の[花が] ついている ものだけ[を] 取るのか。

香川 12-6/13-1

(C フン。ワタ フイタラ トル)

(C うん。綿[の花が] ついたら 取る)

104B : ワタ フイトルノ トツテナ。  
綿[の花が] ついているの[を] 取ってね。

105C : オークナ タナカコ° コッシャエテナー。(B ナー)  
大きな 籠[を] 作ってねえ。(B ねえ)

ナー (A フン フン フン)

ねえ。(A うん うん うん)

106B : ホイテ ワタヨリ ユーノ ササレルンジャカ°ナ。  
そして 綿より [と]いうのを させられるんだよ。

ウツチャ トテ モンタラナー。  
家へ 取って 戻ったらねえ。

107A : ホイテ タネ ノケルンナ (B エ)  
そして 種[は] 除くのか。(B え)

12↑13

タネ ノケルンナ (C チャウ タネワナー)  
種[は] 除くのか。(C 違う。種はねえ)

108B : タネヨリナー (C ドコエ)  
種よりねえ (C どこへ)

アノ コー ハツパカ°ナー (A ホー)

あの こう 葉っぱがねえ (A ほう)

香川 13-2

カレタンカ° ワタニ ヒツツイトン。 (A ホー)  
枯れたのが 綿に くつついているの。 (A ほう)

ソノママ モツテイタンデワ ウツクレマイ。  
そのまま 持っていったのでは 打つてくれないだろう。

(A ア ホーナ)

(A あ そうか)

アノ、ホンデナー、ソレオ ノケテナー (A アー)  
あの、それでねえ それを 除いてねえ (A ああ)

ヨツテナー、 ホイカラ ナーニシテ  
[綿だけを]選んでねえ。それから 何して

アソコニ X14ツァンキナー (A へー へー へー)  
あそこへ X14さんの家にねえ (A へえ へえ へえ)

ドーノミヤノ トコンデゴ  
堂の宮の ところでね

X28ヤン ユー ヒトカ° ウツチョツタジャロ。  
X28さん [と]いう 人が 打つていただろう

(A アーア) トコエ モツテイテナ、 ウツテモロタ。  
(A あああ) そこへ 持って行ってね、 打つてもらった。

109A : X29ヤンジャ ナインナ。 (B エ)  
X29さん[のまちがい]では ないのか。 (B え)

香川 13-3

X29ヤンジャ ナインナ。(B X28ヤンジャカ°ナ)  
X29さんでは ないのか。(B X28さんだよ)

X28ヤンナ、ホイカラ アレデ。  
X28さんか、それから あれで。

110B : X29ヤンジャノ ユータラ。 {笑}  
X29さんだの [と]いったら。 {笑}

111A : X29ヤンワ オヒケ°ノ X30ヤンキノ コジャカラナ。  
X29さんは 大髭の X30さんの家の 子だからね。

ソーカ。(C ウーン、ソー)  
そうか。(C うーん。そう)

ソラ オラ マチゴートッタ。(B X28ヤン)  
それは 私[が] まちがっていた。(B X28さん)

112C : {咳払い} ウチャニナ ワタ ツクッタンワ  
{咳払い} うちなどにね 綿[を] 作ったのは

ソレヨリワー、ドーセ ダイブン アトジャイ。  
それよりは どうせ だいぶん 後だよ。

(A オー オー) ワタシヤガ ツクッリヨッテ ジャキンナ。

(A おう おう) 私などが 作っていて だからね。

(A ホー ホー ホー ホー)

(A ほう ほう ほう ほう)

香川13-4

113A : インデ アンタ ホンナ ヨメニ イカン トキニ  
それで あなたは それなら 嫁に 行かない 時に

アッレ ツクツリヨッタナ (C イヤ)  
あれ 作っていたのか。 (C いや)

ヨメニ イテ (C フン) ニシライ[40] イテカラ  
嫁に 行って (C ふん) 西側の家へ [嫁に]行ってから

マタ ナンナ アノー ワタ ツクットンナ (C へー)  
また 何か あの 綿[を] 作っているのか。 (C へえ)

ソレ アタラシイワイナ。  
それ[は] 新しいよね。

(C アタラシカッタ。 フン ソレワナ)  
(C 新しかった。 うん それはね)

フン、 ホーナ。 (B ホイデナー)  
うん、 そうか。 (B それでねえ)

ホンデ アンタ トコワ イマノ アノー  
そして あなたの ところは 今の あの

X31ハンノイエカ° タットル トコー、  
X31さんの家が 建っている ところ、

アレト ミタニ マダ ドコニ アツタン。  
あれと 三谷[に] まだ どこに あったの。

香川 13-5

114C : アノナー、カーラヤノーナー、コー キタワキニ アツタン。  
あのね 瓦屋のねえ こう 北の脇に あったの。

115A : アー アーッタ。アッタ。アッタ。アッタ。  
ああ あった。 あった。 あった。 あった。

ワシ ツカイニ イタ。 シン。  
私[は] 使いに 行った[ことがある]。 うん。

116C : ナ。(A ンー)  
ね。(A うん)

アシコエ ワタ ヨー ツクツリョツタン。  
あそこ[で] 綿[を] よく 作っていたの。

117A : アー、ソーデ。アシコ フタセマチ[41]カイナ。  
あー、そうか。あそこ[は] 2せまちかな。

(C ヒトツ) ヒトツカナー。  
(C ひとつ) 1せまちかな。

118C : フーン ヨーセハンデ。  
ふーん 4畝半で。

(A チンジンイケノ ソバイ \*\*\* ) へ。  
(A 鎮守池の そばへ \*\*\* ) へ

119A : へー へー へ。ホレデ アレ アッタ。  
へえ へえ へ。それで あれ あった。

香川 13-6

120C : ナ。(A ンー)

ね。(A うん)

アシコエ ワタ ツクッタ コト アル  
あそこへ 綿[を] 作った こと[が] ある。

121A : ナケ ミタニワ フタセマジヤッタンジャ。

だから 三谷は 2せまちだったんだ。

(C へー アツタン) ヨー ツカイニ イタゾナ。

(C へえ あったの) よく 使いに 行ったよね。

122B : ンモー イマヤナー ホンマニ ケッコナ ミズカ°ナー

もう 今などねえ ほんとうに きれいな 水がねえ

(A ンー) ドン ドン ドン ドン (C エーカ°)

(A うん) どん どん どん どん[と] (C いいよ)

イツモナー、ナカ°レヨン。

いつもねえ 流れているの。

ホイタラ X32ノ オーバーサン

そしたら X32の おばあさん[が]

ナカ°イキ シトツテ ヨカットロー。

「長生き していて よかっただろう。

ヨシノガワノホーノ ミズカ°ナ (C {笑}) {笑}

吉野川のほうの 水がね (C {笑}) {笑}

香川 13-7

コッ、 コーヤッテ アシモ アラエルンジャキンナ  
×× こうして 足も 洗えるんだからね」

ユーテカラナー (A {笑})

[と]言ってねえ (A {笑})

マー、 イッツモ トーッリョルンジャナー。  
まあ いつも 通っているんだねえ。

123A : ケッコナ モンジャナー。(C フーン)

きれいな ものだねえ。(C ふうん)

(B ケッコナ モンジャ) アリカ°ト ナッタワイ。

(B きれいな ものだ) ありがたく になりましたよ。

ヤッパリ ナガイキシトラナ イカン。  
やっぱり 長生きしていなければ いけない。

(C ソージャナ {笑}) (B ナー)

(C そうだね。 {笑}) (B なあ)

ナカ°イキ シトルキニ ソレカ°ンメルンジャ。(C へー)

長生き しているから それが 見えるんだ。(C へえ)

ナー。

ねえ。

124B : デモナー、 アーンタ、 アノー ナンジャワ。

でもねえ あなた あの 何だよ。

香川 13-8/14-1

シンイケモ アノー、 トウイテ スンデナ (A フーン)  
新池も あの 築いて 終わってね (A へえ)

13↑14

ホッテ ミナ トウツミンゴー、  
そして みんな 堤[を]ね、

キナズキニ イツキョル ヒトカラ カントクカラ モー ミンナ  
杵突きに 行っている 人から 監督から もう みんな

トウツミデナー (A ンー) アノ ンガッコノ セイトカ°  
堤でねえ (A うん) あの 学校の 生徒が

ナランダヨーニ ヒトトコエナー (A へー)  
並んだように 1か所へ[並んで]ね (A へえ)

ニイケカラナー (A フン) ミズオ オコシテ (A ホー)  
仁池からねえ (A ふん) 水を 導き入れて (A ほう)

ホイテ アノーンゴー、 アソコエ ドクワン スエテナ  
そして あのね あそこへ 土管[を] 据えてね

(A スエトル) シトロ。 (A ンー)  
(A 据えているね) しているだろう。(A うん)

ホンジャキニ アソコカラ コー ハイッテキタ トキニ  
それだから あそこから こう [水が]はいつてきた 時に

マー ソラ ヨロコンデナー (C ウレシカッターナー)  
まあ それは 喜んでねえ (C 嬉しかったなあ)

香川14-2

ウレシイテ オンドリマシタワイ。(A ホー)  
嬉しくて 踊りましたよ。(A そう)

(C ソージャーナー。 ンー) ツツミデ。  
(C そうだねえ。 うん) 堤で。

125A : アレ モー、 イマ イッキョランノナ。  
あれ もう 今は 行っていないのか。

126B : ナニ (A マー マー) イマジヤッテ キヨルガナ。  
何 (A まあ まあ) 今だって 来ているよ。

(A ドカン) ドカン キヨル。  
(A 土管) 土管[を通過して] 来ている。

(A ウテノ ミズ イッキョンナ)  
(A 池の堤の 水が 行っているのか)

イ、 イマジヤッテ アンタ ホイテ アノ ドカンカラ  
× 今だって あなた それで あの 土管から

アンタ ナカゾコノ アンタ チンジンイケヤ  
あなた 長砂古の あなた 鎮守池など[へ]

ミズ イクンゾナ。(A アー アー。 ホーナ)  
水[が] 行くだよ。(A ああ ああ そうか)

マッカワノ X33サンチノトコエ  
松川の X33さんの家へ

香川14-3

(A ア ソースカ \*\*デナ)

(A あ、 そうですか \*\*でね)

デトンジャ ドクワンカ°ナ。 (A フン)

出ているんだ 土管がね。 (A ふん)

ホイト アノー ドツ、 ムツ、 X33サンキノホートー  
そして あのう ×× ×× X33さんのうちのほうと

コッチー アノー

こっちへ あの

ウテミ[42]ノナー X34ハーンキノナー (A へーへ)

浮手目のねえ X34さんのうちのねえ (A へえへ)

X35ハンカ°ナー ツクットル ジーノ トッカラ

X35さんがねえ 作っている 土地の ところから

コー シモエ サカ°ッテ シンイケナー (A ホー)

こう 下へ 下って 新池のねえ (A ほう)

コーキン アンノー、 X36ツァンヤ

×××× あの X36さんや

X37ハン (A X37ハンヤ)

X37さん (A X37さんや)

ソノシノ ハタケノナ (A へーへ) トコカランゴー

その人たちの 畑のね (A へえへ) ところからね

香川 14-4

イリクチジャーナー。(A アー アー ヒカ°シノ イリクチナー)  
入口だねえ。(A ああ ああ 東の 入口ねえ)

フフン。(A ンー ンー アライ)  
ふふん。(A うん うん。あるよ)

ア、アライ (A ホーナ)  
× あるよ。(A そうか)

127A : アレオナー ウテ キッテ  
あれをねえ 池の堤[を] 切って

アシコカラ ヨー ヤッテナー。  
あそこから よく [水引きのために]やってねえ

128B : ナー。(A ンー) ウテ (C {笑}) キルト  
ねえ (A うん) 池の堤[を] (C {笑}) 切る と

ユーテ オコラレテ {笑} ナー。  
いって 怒られて {笑} ねえ

129A : ホイテナー、ワシカ° ソノ ニイケノ ヨミズ[43]ニ  
それでねえ 私が その 仁池の 夜水[を入れ]に

イタンジャ (B へー)  
行ったんだ。(B へえ)

ホイタトコロカ° アレオ ムコニ  
そうしたところが あれ[=水の流れ]を 向こう[=相手のほう]に

香川 14-5

キットンジャ。 フタリ。(B フナー)  
切っているんだ。二人で。(B へえ)

モー ニンワ サイト イワンケド  
もう 人は [誰だと]指して 言わないけれど

フタリカ° キッテナー。  
二人が 切ってねえ。

ホンデ オマイラカ° ソイコト スルキニ  
そこで おまえらが そういうこと[を] するから

オラノホーエ ミズカ° コンノジャカ° ト コー ユータンジャ。  
私のほうへ 水が 来ないんだよ と こう 言ったんだ。

ホイタトコロカ° ゴス、 オッサン  
そうしたところが ×× おじさん

コレ ヒロ キッタラ オッサンホージャッテ  
これ[を] 広く 切ったら おじさんのほう[に]だって

イカー ト コー ユーンジャ。  
[水が]行くよ と こう 言うんだ。

オマエラ ホンデ ワーカカリデモ ナイノニ[44]  
おまえたち それで [仁池は]自分の利用区域でも ないのに、

ヒーロー キッタラ セボー キッタラジャノ イエルンキャ[45] ト  
広く 切ったら 狭く 切ったらだの 言えるのか と

香川 14-6

ユータトコロガ アイテニ センノジャ。  
言ったところが 相手に しないんだ。

ヨーシ オンドレ ソナンコト シヨレヨー、  
よし おのれ そんなこと[をやるなら] している、

オラ ソーダイエ モチコンデ ドーセ アシタラ  
私[は] 総代へ 持ち込んで どうせ あしたになったら

アブラ トツリヤゲテヤロー ト オモチ。  
油 しぼってやろう と 思って

ホイター ソンデナー アトエ マーッテナー ワシニ (C フン)  
そうすると それでねえ 後に なってねえ 私に (C ふん)

コトワリニ キタラ (C へー)  
あやまりに 来たなら (C へえ)

ワシモ ソノバン コラエテヤルジャ。 ユワンノジャ。  
俺も その晩[で] 許してやるんだ。 [何も]言わないんだ。

(C へー へー へー) アクルアサカ° キテモ イワツ、 コ、  
(C へえ へえ へえ) 翌朝が 来ても ××× ×

イワンノジャナ。 (C へー)  
[あやまりを]言わないんだね。(C へえ)

ヒルカ° キテモ イワンナロシ。  
[さらに]昼が 来ても [あやまりを]言わないのだ。

(C へー) ナ。 (C ー)ー)

(C へえ) ねえ。 (C うん)

ホンジャキニ ワシモー X38ソーンダイノ トコエ イテー、  
それだから 俺も X38総代の ところへ 行って

14↑15

ヨンベ トキニ コーコージャツタンジャ ト ユーテ イタンジャ。  
昨夜 時に こうこうだったんだ と 言って 行ったんだ。

{咳} ホンダトコロカ° アノシトラワ

{咳} そうしたところが あの人は

ソーンダイカ° イタモンジャキニ ソーンダイニワ アタマ サゲテ  
総代が 言ったものだから 総代には 頭[を] さげて

コトワリシタンジャ (C アー ソーナ)

あやまったんだ。 (C ああ そうか)

ホッタトコロカ° X38センセカ°ナー、 (C フン)

そうしたところが X38先生がねえ (C ふん)

オラニ コトワリ イランノジャ ト。

「私に あやまりは 必要ないのだ」と。

アレワー ユンベワ オマエ、 ナンジャ フクソーンダイノ Aサンニ

「あれは 昨夜は おまえ 何だ 副総代の Aさんに

ツカマエラレトルンジャキ。 (C ー)ー) アシコエ コトワリニ イケ。

つかまえられているのだから (C へえ) あそこへ あやまりに 行け。

香川15-2

アノヒトカ° コラエタラ ワシカ° コラエテヤラ ト  
あの人が 許したら 私が[=も] 許してやろう」と

(C へー) ユータンジャ。(C へー)

(C へえ) 言ったんだ。(C へえ)

ホイテー ア バンナ フターリカ° ソロテ  
そこで × 晩[に]ね 二人が そろって

コトワリニ キタンジャ。(C へー)

あやまりに 来たのだ。(C へえ)

ホター オマイラ ソレー オソイワ ト。  
そうすると 「おまえたち それは 遅いよ」と。

コノ コトワリワー オマイ ユンベ シテミイ  
「この あやまりは おまえ 昨夜[のうちに] してみろ。

オラノ ハラデ スメテヤルノニ。(C へー)  
私の 腹[の中だけ]で すませてやるのに。(C へえ)

ソレオ イツマデモ ホットッキニ  
それを いつまでも ほうっておくから

オラモー オラヒトリ シットンナラ  
私も 私一人[だけが] 知っているのなら

オラ ユワナ ト。  
私[も] 言わない」と。

香川 15-3

ホンジャキンド ハタニー ミズバ イレニ イトッタ シカ°  
「そうだけれど 畑に 水を 入れに 行っていた 人が

ミナ シットルンジャキニ (C ヘー)  
みんな 知っているんだから (C ヘえ)

ホンデ ワシモ タチバジョー イワナ オレンキニ  
そこで 私も 立場上 言わないと いられないから

ソーダイニ ユータルンジャキニ (C ヘー)  
総代に 言っているんだから (C ヘえ)

ソーダイニ ヨーニ コトワリ シトケ (C ヘー)  
総代に よく あやまりを しておけ」 (C ヘえ)

マタ ムコエ オイカエシテ ヤッタン  
また 向こうへ 追い返して やったのだ。

(C アー ソーナ。{笑}) アッチオ シ コッチオ シ ナー。  
(C ああ そうか。{笑}) あちらをし こちらをし ねえ。

ホイテ マー コラエルナ ヨイカラデモ  
そして まあ 許すのは 前日の夜からでも

コラエテヤル ハラデ オルンジャ。 (C ヘー)  
許してやる 腹で いるんだ。 (C ヘえ)

オルンジャキンド ソナナ ガー ユーテ  
いるんだけれども そんな 我を 言って

香川 15-4

イツマデデモ コトワリニ コンキンナ。 (C ア ソーナ)  
いつまでも あやまりに 来ないからね。(C あ そうか)

アホラシイ オコンリヤゲタ コトガ アルン。  
ばからしい[けれども] ひどく怒った ことが あるの。

ホタラ ワカ° ワルイコト タナエ アゲテ  
そしたら 自分が 悪いこと[は] 棚へ 上げて

オラカ° ワルイヨーニ ヤッパリ オモトライ。 (C へーへ)  
私が 悪いように やはり 思っているよ。(C へえへ)

へー。(C へー) ジャキンナー  
へえ。(C へえ) それだからねえ

アノ モー ミズ イレルノワ ゴジャジャワイ。  
あの もう 水[を] 入れるのは 筋の通らないことだよ。

(C ソーナ) ンー。  
(C そうか) うん。

130B : ナー ミズイレンダケワナー (A ンー)  
ねえ 水入れだけはねえ (A うん)

ホンマニ ミズ イレッ トキニワ  
ほんとうに 水[を] 入れる ときには

トモンダチジャ ナンジャ ユータッテーナー  
友達だ なんだ [と]言ってもねえ

香川 15-5

(A ゴジャクソジャ) ゴジャジャー。

(A 滅茶滅茶だ) 滅茶滅茶だねえ。

ヨクトクニ ナッタラ オトロシ モンジャ ト  
欲得[かかわること]に なったら 恐ろしい ものだ と

(C ナー) オモウ。

(C ねえ) [そう]思う。

131A : オトロシ。 ホイテナー、 ギリモ ニンジョーモ ナイワイ。

恐ろしい。 そしてねえ 義理も 人情も ないよ。

(C ソー ソー) ヒトカ° イレヨンノニ

(C そう そう) 人が [水を]入れているのに

ピシャーット セイテ イレテ (C へー)

ぴしゃっと せきとめて [自分の田へ]入れて (C へえ)

シラーン カオ シテ (C へー)

知らない 顔[を] して (C へえ)

ホンデ ユータラ ウチモ イレヨンジャー

そして [とがめだてを]言うと うちも 入れているんだ [と]

(C へー) (B ソーナ)

(C へえ) (B そうか)

ガイナン ユーン。 (B へー)

わがまますを 言うの。 (B へえ)

香川 15-6

132B : ホッテ シモノホーノ ヒト ケトナー (A {咳})  
そして 下のほうの 人 けどねえ (A {咳})

(C シモノホーカ°ナー シモ) ウチンキノナー  
(C 下のほうがねえ 下[の]) 私のうちのねえ

マー イマニ ンタ アノナ クゾメノナ (A ンー)  
まあ[田へ] 今に あんた あのね 久染のね (A うん)

アノー ン、ナン コユルノ ミズカ° クルンジャ。  
あの × 何 水門の 水が 来るんだ。

コノヒトンチャテ ウチト (A アー アー エー)  
この人のうちだって うちと (A ああ ああ ええ)

アー X38センセチトカ°ー アー アノナ (A へーへ)  
ああ X38先生のうちとが ああ あのね (A へえへ)

アノ ウワインデノ。(A オーオ)  
あの 上井手の (A おうお)

ウワインデノ ミズカ° クンジャカ°ナ  
上井手の 水が 来るんだよ

(A オー タシタノ ウエー キョッタンナー) (C ンー)  
(A おう 田下の 上へ 来ていたね) (C うん)

ンー。 ソレオナー、 ホンダラ  
うん。 それをねえ そうすると

X39ハンキト (C {笑}) ダー ソノ {笑}

X39さんのうちと (C {笑}) ×× その {笑}

ミズガ クルンヤカ°ナ。(A オー)

水が 来るんだよ。(A おう)

ホンダラナー アノーコ°ラン マー X40サンキワ

そうするとね あのね まあ X40さんのうちは

モー イッチャッテ オソインジャ (A オー オー)

もう いつだって [仕事が]遅いんだ (A おう おう)

ンク°ズク°ズトナ。(A フーン)

ぐずぐずとね。(A ふうん)

15↑16

ホンジャキニゴー ウチャニナー アゼ ツケロカ°ナ

それだからね [私の]うちなどにね 畔[を] つけるでしょう

(A へー へー へー へー) サキナ。

(A へえ へえ へえ へえ) 先[に]ね。

ホイタラ アノー ミナミ ヨメニ {笑}

そしたら あの 南[のほうへ] 嫁に[行っている] {笑}

X41サンカ°ナ ウチニ ツケタラナ

X41さんがね [私の]家に [畔を]つけたらね

コノヒトンチモ アゼ ツケルンジャナー (A ホー)

この人のうちも 畔[を] つけるんだね (A ほう)

香川 16-2

ウエヤ シタヤキニナー。(C ナランドルキンナ)  
上や 下だからねえ。(C ならんでいるからね)

ホイタラナー X42サンカ°ナー  
そうするとねえ X42さんがねえ

オマイ モー チットナイ マツテクレ、  
「おまえ もう 少しの間 待ってくれ、

イマ ンマカ° ハンタカ°ー ツカイヨン  
今 馬が 畑が [馬を]使っているの

アゼ ツケル テ。(A ンー) イマ モー  
畔[を] つける」 って。(A うん) 「今 もう

Aハン タノンデ イテ ンマカ° クルトコジャキニ  
Aさん[に] 頼んで 行って 馬が 来るところだから

ホンジャキニ モー モチットナイ マツテクレ チュノニ  
それだから もう もう少しの間 待ってくれ」というのに

ナニ ユーンナラ オンドレ、 ジー シタンデ  
「何[を] 言うのか おのれ[は] 土地[が] 下で

オツテカラニ ウエノ ヒトカ° アゼ ツケトランノニ  
ありながら 上の 人が 畔[を] つけていないのに

シタノ ヤツガ アゼ ツケルンナラ  
下の[ほうの] やつが 畔[を] つけるのなら

香川 16-3

オドレ ジ ソナニハ サキ ツケタインナラ  
おのれ[の] 土地[に] そんなに 先に つけたいのなら

(A {笑}) ニイケノ シタイ カイテイケ

(A {笑}) 仁池の 下へ 担いで行け

イマソデ アノ X41サン (A・B {笑})

今で あの X41さん (A・B {笑})

(C アー イヤー ガイナカッタゾナー)

(C ああ いやあ 気が強かったよねえ)

(A オーキニ オーキイ) ソラ ガイナカッタソナ。

(A たいへん たいへん) それは 気が強かったよ。

モー オナコソデモナー (A アー)

もう 女子でもねえ (A ああ)

イワレンコト ユーン。

言えない[ような]こと[も] 言うの。

ホタ モー X42サンカ° モー アーユーニ イワレタラ

そうすると もう X42さんが もう ああいうふうに 言われたら

ワシ ニノクチ アカンノジャ ユーテ (A {笑})

私[も] 二の口[が] 開かないんだ [と]言って (A {笑})

X42サン (A ンー) コライトルコト アルケャ[46]

X42さん (A うん) 我慢していること[が] あるか

香川 16-4

アンタ モー キッテ イエイ テ ユータラ、  
あなた もう [口火を]きって 言えよ と 言ったら

カナワナイ オバハン、 ナンシニ カナウン。  
「かなわない おばさん、 どうして かなうものか。」

モー {笑} ユーテナー (A ホー) ナニシタンジャ  
もう {笑} 言ってねえ (A ほう) 何したんだ

(C {笑}) モー アレワーナー イマニオッケ[47]

(C {笑}) もう あれはねえ 今でもなお

アヨナンナー  
あのようなのねえ。

133A : インデー アシコデデモ ナンジャロカ°ナー、  
それで あそこでも 何だろうかねえ

マNDERニ アーノ ジテンシャヤノ オモイワ  
いまだに あの 自転車屋の 本家は

X43ハンキニ イレラサンノジャロ。 (B エー)

X43さんのうちに 入れさせないのだろう。 (B ええ)

アレ チャエンニ マタ[48]カ° チカ°ウンカナ  
あれ[は] 茶園に 水の流れの分岐が 違うのかな。

(C チャ、ア アレワナ) X38センセノ

(C 違う、× あれはね) X38先生の[上の]

香川 16-5

タカイトコカラ オリテクルミズナ。(C フン)  
高いところから 下りてくる水か。(C ふん)

134C : アレワーナ ヤッパリ ウワインデカラ イレルンガ°  
あれはね やはり 上井手から 入れるのが

ホンマジャケンド ジー ホリサゲテ  
ほんとうだけれども 土地[を] 掘り下げて

シタカラ イレタラ ハヤイキン。  
下から 入れたら 早いから。

135A : シタカラカ° ハヤイキンナ ハヤイキン。  
下からが 早いからね 早いから。

(C ンー。ハヤイ) アンノ シタニ  
(C うん。早い) あの 下に

136B : アレワーナー X44ツァンキノ シカ° ワルイワ。  
あれはねえ X44さんのうちの 人が 悪いですよ。

(A ゼノモシ) (C ンー アー)  
(A / / / /) (C うん ああ)

アソコーナー アナ オー コンマイ ジーナラ エンジャケドナ  
あそこはねえ あんな ×× 小さい 土地なら よいのだけれどね

(A エー) (C テン)  
(A ええ) (C ××)

香川 16-6

アナン オーケナ ジーオナ ホリサケ<sup>°</sup>テナー  
あんなに 大きな 土地をね 掘り下げてねえ

ホイテ アノ ウ、 ウエノ シジャッテナー  
そして あの × 上の 人だってねえ

ソラ アンター ナンジャロー、  
そりゃ あなた 何だろう

ワリ ンダサナー イワンノジャ。  
分担金[を] 出せばねえ 言わないんだ。

ホイタ ソレ イマニ ワリオ セナ イカンノジャ。  
そしたら それ 今に 分担金を しなければ ならないんだ。

アノー ベップニ[49]ナ。  
あの 特別にね。

137A : アー チャエンノ ワリオ。  
ああ 茶園の 分担金を[ね]。

138B : フン チャエンノ ワリ (A チリョーニ)  
ふん 茶園の 分担金 (A // // //)

イマニ セナーナ (A ンー)  
今に しなければね (A うん)

ウワインデノゴー ハンネニ シタンジャ。  
上井手のね 半年に したんだ。

香川 16-7/17-1

ミズカ° コンキニ ユーテナ。 (A アー ソーナ)  
水が 来ないから [と]言ってね。(A ああ そうか)

ホンダラナー (C フン) ウチニ ナイ ツネコロ  
そうしたらね (C ふん) うちに 何 常日頃

16↑17

ウチカ° イチバン ナカセノ オーツクリジャ ユーンジャ  
うちが いちばん なかせの 大作りだ [と]言うんだ

ナー マー マタナ。(A ホー ホー)  
ねえ まあ またね。(A ほう ほう)

ホンデナー X38センセトナ ウチトシテナ  
そこでねえ X38先生とね 私の家とでね

インデ サラエルトキニワ  
井手[を] さらうときには

ナンドカンド コツシャエテ (A ホー)  
何やかや 作って (A ほう)

ホテ インデサラエニ キタ シニ アケルン。(A ホー)  
そして 井手さらいに 来た 人に あげるの。(A ほう)

ナ。 ソーシトイテナー ホテ アノ ソノ  
ね。 そうしておいてねえ そして あの その

ワリヤワナー シューキンセナ イカンデショー。  
分担金などはねえ 集金しなければ いけないでしょう。

香川 17-2

(A ソージャ) ホイタラ X38センセカ°ナ

(A そうだ) そしたら X38先生がね

オバ コリバ オバンキノ シ

「おばさん これだけ おばさんのうちの 人[は]

コリバ アルイテクレ オラ コリバ アルクキニ

これだけ 歩いてくれ 私は これだけ 歩くから」

ユーテナ (A ホー) ホテ スンジャカ°ナ。

[と]言ってね (A ほう) そして [集金を]するんだよ。

(A ンー) ホンジャキニ ワタシ キョネンワナー

(A うん) それだから 私 去年はねえ

モー センセナー ナンジャ ワタシ モー

「もう 先生ねえ 何だ 私[は] もう

ホカエナラ ナンボデモ イク。

ほかへなら いくらでも 行く。

モー ベントートリ デケルマデデモ イクキンド

もう 弁当とり できるまででも 行くけれど

モー X45ハンチト {笑} ウチンダケワ コラエテツカ。

もう X45さんの家と {笑} うちだけは 勘弁してください。

センセニ イテツカ ユータラ

先生に 行ってください」 [と]言ったら

香川 17-3

ソレゾガー オラモ ツラインジャ ユーテナー  
「それが 私も つらいんだ」 [と]言ってね

(A へー) シタラ X46サンカ°  
(A へえ) そうしたら X46さんが

モー ホンナラ オジ ワタシカ° イカイノ。  
「もう それなら おじさん 私が 行くよ。

オジト イタラ X45ハント ケンカスルキニ。  
おじさんと 行ったら X45さんと 喧嘩するから。

ホンダ ワタシカ° イクキニ  
それなら 私が 行くから

ホンナ モ コヤノ オバーワ  
そうすると もう 紺屋の おばさん[=話し手B]は

ナン ソノカワリニ ホカエ イテクレ ユーテ。  
なんだ そのかわりに ほかへ 行ってくれ」 [と]言って。

モー ウチ[50] ホカエワ モー ナンボデモ イクケニ  
もう 私[は] ほかへは もう いくらでも 行くから

コラエテ。 {咳払い}  
勘弁して[ください]。 {咳払い}

ホンジャキニ イマーニ ソノ ワリワナー (A ホー)  
それだから 今に その 分担金はねえ (A ほう)

香川 17-4

アツメヨン。 (A ホー)

集めているの。(A ほう)

ホイタラナ X44サンキ ドー ユーナ。  
そうするとね X44さんのうちでは どう いうのか。

アンタ キョーネンナ (A ンー) ワタシカ°ナー アンタ  
あなた 去年ね (A うん) 私がねえ あなた

キリシ[51] モッテ イタンヤ。 (A ンー)  
切紙[を] 持って 行ったのだ。(A うん)

ホイテシタラ アノナー ウチヤ コノ タンボニヤナー  
そうすると あのねえ 「うちなど この 田んぼになどねえ

クワンケイカ° ナインジャ ト ヨメハンカ° ユーキニナ。  
関係が ないんだ」 と 嫁さんが 言うからね。

(A ホー) アー クワンケイ ナイン。

(A ほう) 「ああ 関係 ないの。

ホンダッタラ アンタンキ コノタンボ モ  
それだったら あなたのうち[は] この田んぼ[は] もう

イランノヤナー ユータン。 (A フン)

[水は]いないんだね」 [と]言ったの。(A ふん)

イヤ ソリヤ イル。 イルンダッタラ  
「いや それは いる。」 「いるんだったら

香川 17-5

アンタ クワンケイ ナンジャノ イエルカイ。  
あなた 関係 ないだの [と]言えるか。」

(A ウーン) ナ。アノ ユータラナ  
(A ううん) ね。あの [そう]言ったらね

ホンダッテ コーコージャ[52] ユーテ  
そうだって こうこうだ [と]言って

ソレワナ アンタキノ シュカ° カッテニ ホツタンジャキニ。  
「それはね あなたのうちの 人が 勝手に 掘ったんだから。」

(A ホー ホー) ナー。ホンジャキニ  
(A ほう ほう) ねえ。それだから

ソナナコト ユータッテ イカンノジャ  
「そんなこと[を] 言っても 通らないんだ。

ミドゥワ アンタナ、  
水は あなたね

キッスイノミズ[53]ンデ ナイトキニワナ  
乞水の水で ないときにはね

イレラシテクレル チュン。  
入れさせてくれる というの。

デモナー キッスイノミズニ ナツタラ  
でもねえ 乞水の水に なったら

デッタイニ シタカラワ イレラシテ クレンノジャ。  
絶対に 下からは 入れさせて くないんだ。

(A ソー ジャ ソー ジャ) (C ンー) ナ。  
(A そうじゃ そうじゃ) (C うん) ね。

ホンジャキン マ シマへ。  
それだから まあ [分担金を当然として]出しなさい。」

ホイデ ソー ユーテシタラナー ホイタラナー  
そこで そう [私が]言ったところがねえ そうするとねえ

17↑18

マ ホンナラ コイサ オトーサンカ° モンタラ  
「まあ それなら 今夜 おとうさんが 戻ったら

ソー ユー ユー。  
そう 言う」 [と]言うの。

ホイタラナー ワタシナー X47サンチエ アツメニ  
そうするとねえ 私はねえ X47さんの家へ [お金を]集めに

イカナ イカンキニ イテ モンテキョットン。  
行かないと いけないから 行って [集めて]戻ってきていたの。

ホタ アソコノ オバハンカ° イワク  
そうすると あそこの おばさんが 言うことには

イマナー ワタシナー アンタンチ  
「今ねえ 私ねえ あなたのうち[へ]

香川 18-2

オカネ モッテイテナー アンタクノ ヨメハンニナ  
お金[を] 持って行ってねえ あなたのうちの お嫁さんにね

タノンダールキンナ ユーン。  
頼んであるからね」 [と]言うの。

アー ソーナ アリカト ユーテ  
「ああ そうか ありがとう」 [と]言って

ワタシ モンタン。  
私[は] 帰ったの。

ホイタラ ウチノ ネーハンカ° ユーコツニヤ  
そうすると うちの 嫁が 言うことには

アノ X44サンチ モッテキタン、  
「あの X44さんのうち[が] [お金を]持ってきたの」

ユータラ モッテキタヨ。 ホンジャキンドナー  
[と]聞いたら 「持ってきたよ。 そうだけれどねえ

オーバーチャン、 アソコノ シチャナ アンタ  
おばあさん、 あそこの 人はね あなた

ワリ ハンブンニ シテクレ  
分担金[を] 半分に してくれ [と]言った」

(C {笑}) ユーンジャカ°ナ。

(C {笑}) [と]言うのだよ。

香川 18-3

ホンジャキニ[54]

それだから[=それで]

ホンダ アンタ ドー ユータン ユータラ

「それじゃ あなた どう 答えたの」 [と]言ったら

ワタシデワ ソナンコト ウケモテンキニ

「私では そんなこと 責任が持てないから

ハンプンニ シテモラウンジャッタラ X38センセニ

[分担金を]半分に してもらうんだったら X38先生に

キイテ ソー ユー。 センセンキカ° ソンダイジャキニ ト

聞いて そう 言え。 先生のうちが 総代だから」 と

ユータコッチャ。

言った[という]ことだ。

ユーテシタラナー ワタシカ° チョーンド

言うとねえ 私が ちょうど

X48ツァンキノ マエ モンタンジャガナ。(A オー)

X48さんのうちの 前[へ] 戻ったのだよね。(A おう)

ホイタトコロカ° オバハンカ°

そうしたところが [X44さんのうちの]おばさんが

インニョン。(A ー) ホイテナー

帰っているの。(A うん) そしてねえ

香川 18-4

イマナー アンタキノ ネーハンニ オカネ  
「今ね あんたのうちの お嫁さんに お金[を]

コトズケテ アルキンナ ユー。  
ことづけて あるからね」 [と]言う。

フーン ホンデ アンタ ユートーリ モツテキテクレタン  
「ふうん それで あなた いうとおり[に] 持ってきてくれたの」

ユーテシタラナー  
[と]言うかねえ

ハンブンニ シテツカイ テ  
「半分に してもらいたい」 と

アンタキノ ネーハンカ° ワタシノ ジョンナラン[55]  
「あなたのうちの お嫁さんが 私の 自由にならない

ユーテ ナー シテクレンノジャキ。  
[と]言っ て ねえ [半分には]してくれないのだから。」

X49ハン、 アーンタ タン ワーリ  
「X49さん[=X44の妻]、 あなた ×× 分担金[を]

ハーンブンニ シテクレジャノ ソレ ナニオ ユーコテ。  
半分に してくれだの それ[は] 何を 言ってるのか。

ホンダツタラ アンタ アゼ ツケル トキニモ  
それだったら あなた 畔[を] つける 時にも

香川 18-5

ミーズ ハンブン イッタラ アゼ ツカンデモ  
水[が] 半分 行けば 畔[が] つかなくても

モー オマインチ ハンブン (A {笑}) (C ー)  
もう おまえのうち 半分の (A {笑}) (C うん)

ゼニバカ°トコ ミズ イッタキニ  
[分担金の]お金ぶん相当[の] 水[が] いったから

モー ミズ ヤラン ユータラ ドースルン  
もう 水[は] やらない [と]言ったら どうするの」

ユー。 (A ホー) ホータラナー アンノジョー  
[と]言う。(A ほう) そしたらね 案の定

センセモ ソー ユータンジャ。(A ホー)  
先生も そう 言ったんだ。(A ほう)

ハンブンニシテクレ オー ヨシ  
「半分にしてくれ [と言うのか] おう よし

ハンブンニ シテヤル。 ソノカイニ ミズモ ハンブンゾ ト  
半分に してやる。 そのかわりに 水も 半分だぞ」 と

ユータンジャッテ (A オー) {笑}  
[先生も]言ったんだって。(A おう) {笑}

ホーイテ シタラナー ア、  
そして そうすると ×

香川 18-6

ミズ ハンブンヤンデワ イカン ユー。  
「水[が] 半分などでは いけない」 [と]言う。

ホンダラ ゼニ アタリマエ モッテコイ  
「それなら お金[も] 当たりまえに 持ってこい」

ユータン。 (A {笑}) カミダニ (A ホー)  
[と]言ったの。 (A {笑}) // // (A ほう)

ソイナン。 ホンダキンナー シタノ シニナー  
そんなこと。 それだからねえ 下の 人にねえ

オサケ イットク°ライ コータラナー (A ンー)  
お酒[を] 1斗くらい 買ったらねえ (A うん)

シタノ マタノ シュカ° イレラシテヤル トテ  
下の [水の]分岐の 人が 入れさせてやる といって

マットンヤカ°ナ。 (A ンー)  
待っているのだよ。 (A うん)

アレ モー イレテモ イレンデモ  
あれ[は] もう 入れても 入れなくても

(C ハイル) (A ハイルン ネー)  
(C 入る) (A 入るの ねえ)

ヒトンデニ[56] ハイルンジャカ°ナ。 (A ソージャ)  
自然に 入るんだよ。 (A そうだ)

ホンジャケンド カ カンジンナ トキニ キラレルンジャ。  
そうだけれども × 肝心な 時に 切られるんだ。

(A オー) ナ。ホイタラ イラndeモ

(A おう) ね。そうすると いらなくても

ミンナカ° ワザント キリオトスンジャカ°ナ。

みんなが わざと 切り落とすんだよ。

139A : アーア ホーナ。 (B ナ)

ああ そうか。 (B ね)

18↑19

ンジャケドナー (B シタノナー)

そうだけれどねえ (B 下のねえ)

マーナ ニクマレトツタラ イカンノジャンナー。

まあな 憎まれていたら いけないのだねえ。

140B : インモー アレヤナー。シタカ°ナー (A ンー)

もう あれだねえ 下がねえ (A うん)

シタカ° (A アー)

下が (A ああ)

アンタ モー ヨケンデ ナイン。 (A ソージャ)

あなた もう 多くは ないの。 (A そうだ)

シタモナー アノ (C ホー)

下もねえ あの (C ほう)

香川 19-2

ナーンノ トコマンデ アノー、 X50サンチノ (A ホー)  
なんの ところまで あのう X50さんの家の (A ほう)

アソコマンデジャキンナー。 (A エーエ ソージャ ソーjanya)  
あそこまでだからねえ。 (A えーえ そうだ そうだね)

ナー。 (A ナ) (C ウン) ホンジャキニ ワズカジャロ。  
ねえ。 (A ね) (C うん) それだから わずかだろう。

141C : モトワナー ミズイレニ イヨイヨ アズツリョッタゼナー  
昔はねえ 水入れに ほんとうに 苦しんでいたよねえ

142A : アー、 アズッター。 ミズ イレルノニナー (C ナー)  
ああ、 苦しんだ。 水 入れるのにねえ (C ねえ)

マー イケモ ダイジナケンド ミズ イレルノニ  
まあ 池も 大事だけれど 水[を] 入れるのに

ホンマニ (C アズッタゼナー)  
ほんとうに (C 苦しんだよねえ)

(B モー コレカ°イー アノー) クローシヨッタ。  
(B もう これくらい あのう) 苦労していた。

143C : コノコロナー (A エーイ) コトシヤ モー  
この頃はねえ (A ええ) 今年など もう

ホントニ ケッコナ モンジャ ト オモテナー (A ンー)  
ほんとに きれいな ものだ と 思ってねえ (A うん)

香川 19-3

ミルタビ ヨロコンドル。  
見るたびに よろこんでいる。

144A : ソリャ マー コレ カカ°ワヨースイノ オカケ°ジャワイ。  
それは まあ これ[は] 香川用水の おかげだよ。

145C : ヘー オカケ°デナー。(A ナー)  
はあ おかげでねえ。(A ねえ)

19↑

## 香川県観音寺市1978注記

[1] ワリ

耕作面積に応じて、家々で分担する諸経費。分担金。

[2] ミタニ

三谷池。池之尻町の南部にある三谷上池のこと。付近に三谷団地、三豊総合公園などがある。

[3] ワンコ

「ワンゴ」ともいう。湾曲しているものや場所をいう。

[4] モッコ

縄を網のように四角に編み、四隅に縄をつけ、石や土を入れて四隅をまとめるようにしてかついで運ぶ道具。

[5] クッドリ

鍬取り。池の中からかきだして盛り上げてある土を、鍬で平らに広げる作業をする者。

[6] キナズキ

杵突き。堤防の上に平らに広げられた土を、杵でつき固める作業をする者。

[7] シランナ

三豊郡ではよく使われる表現で、「ン」が打消、「ナ」は軽く念を押すような気持ちの疑問を表す。

[8] チョバボリ

丁場掘り。丁場のふんだけの土を掘り出す係の者。

[9] チョーバ

丁場。工事や運送などの仕事の受け持ち区域。

[10] カキメ

範囲を示す印。「カギ」は「カキ」で、「かく」の連用形。この場合の「かく」は、範囲に入れるとか、あるところからあるところまでを区切るという意味。

[11] タッチャボーリ

「チョバボリ」のこと。

- [12] ヌカザッタラ  
土を掘りだして運び出すまでの作業を「ヌク」としているものと思われる。
- [13] オモキ  
「オモイ（思い）」の言い間違い。
- [14] オバーチャン  
話し手B氏のこと。
- [15] シンイケ  
新池。三谷上池の北側に新しく作った池。三谷上池ほど大きくはない。
- [16] チンジンイケ  
鎮守池。三谷上池の北方にある池。
- [17] オンドイー  
音頭言い。堤を杵突きする作業を励ますために音頭を唄う人。
- [18] ナカ°ゾコ  
ナカ°ザコ。長砂古。池之尻町の集落名。
- [19] オヒゲ  
オーヒゲ。大髭。池之尻町の集落名。
- [20] オヘヤ  
屋号。
- [21] コンゾージ  
香川県善通寺市金蔵寺町。
- [22] シオキ°  
汐木。詫間町の地名。詫間町は三豊郡の東部海岸である。塩田があった。
- [23] カマス  
ワラ・イ草・ガマ・竹などを編んだむしろを、二つ折りにして作った袋。  
穀物・塩・石炭・石灰・肥料などを入れる。
- [24] ジョービト  
一人前の仕事が十分にできる人。
- [25] クレダッタ  
クレザッタ。

- [26] オートウジ  
大辻。池之尻町の東方にある三豊郡山本町の集落名。
- [27] カミサン  
神様。杉の森さんと呼ばれていた小祠であるという。
- [28] タイコ  
作業の休み時間と次の開始時間を知らせる合図の太鼓。太鼓から太鼓までの間とは、休憩時間のことである。
- [29] ウンドージョー  
三谷池および新池の北側にある三豊総合運動公園の中の運動場のこと。
- [30] オーイケ  
大池。三谷上池のこと。
- [31] ミズ  
話し手B氏の「ミズ」は「ミル」のように聞こえる。脇田順一『讃岐方言之研究』には、ザ行とラ行の相互転換についての項目があり、「水（ミル）全県下ほとんど用いられないが、ただ大川西部・香川・綾歌・仲多度地方の北部に僅かに用いられる」とある。三豊郡にも老人層には稀にあるものと思われる。
- [32] ウエノ  
上野。観音寺市粟井町の集落名。
- [33] コーチ  
河内。三豊郡山本町の集落名。菩提山の東北の麓あたり。
- [34] ナカソラ  
中空。観音寺市粟井町の集落名。
- [35] デザイケ  
出在家。観音寺市柞田町の集落名。池之尻町の西にあたる。
- [36] タンボノ カカリ  
「カカリ」は水の利用区域・分配範囲。その池の水を引き入れる田を「その池のかかりの田」という。
- [37] ミヤイケ  
黒島池のこと。

[38] コーイケ

小池。三谷上池を大池というのに対して、小池という。

[39] オソーニ

年がだいふたってからという意味。

[40] ニシライ

方向を表す助詞「へ」が「イ」となることが多い。「ニシライ」は、ある家の西側に建っている家をいう。ここでは、話し手C氏の家のこと。

[41] セマチ

「セマチ」は1区画の田んぼ。「フタセマチ」は、2区画の田んぼ。大きい1区画の田んぼを「オーゼマチ」という。

[42] ウテミ

ウテメ。浮手目。浮手は、池の堤のこと。池の堤のあるところの地名。

[43] ヨミズ

夜水。夜の間に、田んぼへ入れる水。夜のほうが水の蒸発が少なくすむため、池の水を田んぼへ導き入れるのは、夜の間を利用する。

[44] ワーカカリデモ ナイノニ

仁池から水を分配する範囲でもないのに。正式の分配範囲ではなく、仁池の余った水をもらって入れているだけであるのに。

[45] キャ

「カ」を「キャ」というのは、三豊郡西部の大野原町・豊浜町などや、愛媛県東部の川之江・新居浜あたりに見られる。

[46] ケヤ

「ケヤ」は「キャ」に同じ。「カ」を「ケヤ」ともいう。

[47] イマニオッケ

イマニオイテ。「今でもなお」の意味。

[48] マタ

股。池から田に水を引き入れるための堰で、水の流れの分岐するところ。

[49] ベップニ

話者は「ベッコーニ」と言ったつもりだという。「別口に」、「特別に」の意味。

[50] ウチ

私。女性の人称代名詞。自称。「私は」の意味で「ウッチャ」というのはよく聞かれる。

[51] キリシ

切り紙。請求書と受領書とが、一枚続きになっていて、受領書を切って相手に渡すようにしてある用紙。

[52] コーコージャ

「コーコー」の内容は不明だが、次に「勝手に掘った」という部分があるので、各田んぼごとの用水井戸を掘った時のいきさつであると思われる。

[53] キッスイノミズ

乞水の水。稲の穂ばらみ時期に最も必要な水。

[54] ホンジャキニ

「ホンジャキニ」は「それだから」の意味であるが、この場合は「それで」という意味で使われている。

[55] ジョンナラン

「自由にならない」・「手に負えない」の意味。

[56] ヒトンデニ

普通は「ヒトリデニ」という。「自然に」の意。

**Ⅱ. 徳島県阿南市  
1981**

徳島県阿南市



## 徳島県阿南市1981話者・担当者

### 「各地方言収集緊急調査」

話者	京野 安太郎
	近藤 香芽子
	柳本 梅治
収録担当者	大和 武士
文字化担当者	大和 武士
共通語訳担当者	大和 武士
解説担当者	大和 武士

(敬称略 項目別50音順)

### 「全国方言談話データベース」

編集担当者	佐藤 亮一
	江川 清
	田原 広史
	井上 文子
編集協力者	下川 沙織
	鳥谷 善史
	熊谷 康雄

## 徳島県阿南市1981解説

収録地点名 徳島県阿南市富岡町あなんしとみおかちょうとのまちトノ町

### 収録地点の概観

#### 位置

阿南市は、徳島県の南東部の海岸線に面した平野で、那賀川の支流、桑野川の河口の南岸部に位置する。徳島市から南方へ約25km。

#### 交通

国鉄徳島駅から牟岐線で南へ約40分、阿南駅で下車。徳島駅前から路線バスで、国道55号線を南へ約50分。

#### 地勢

阿南市の東部はリアス式海岸の臨海部、西部・南部は四国山地の東端の山間部、北部・中央部は平野となっている。温暖多雨な気候である。

#### 行政区画

1889(明治22)年、市町村制が施行され、宝田村、長生村、中野島村、富岡村、加茂谷村、見能林村、桑野村、新野村、福井村、椿村、大野村、橘浦村が成立した。1905(明治38)年富岡村は富岡町となった。

1954(昭和29)年、富岡町・宝田村・長生村・中野島村・大野村の一部が合併して富岡町となった。1955(昭和30)年、加茂谷村・見能林村・桑野町が富岡町に編入した。また、新野町・福井村・椿町・橘町が合併して橘町となった。1958(昭和33)年、富岡町と橘町が合併して阿南市となった。

#### 戸数・人口

阿南市は、1976(昭和51)年4月1日現在、世帯数15,635戸、人口62,246人。国道55号線沿線の富岡・宝田・中野島・見能林みのばやしは都市化現象が進み人口が増加しているが、山間部の加茂谷・大野、臨海部の椿地区などは離村傾向で人口減少が見られる。

#### 産業

那賀川流域の山間部の加茂谷・大野・山口は温州みかん、南部の丘陵地の椿・福井・新野あらたのはたけのこを特産としている。那賀川のデルタ地帯や桑野川・福井

川流域は県南随一の穀倉地帯で、米作や蔬菜栽培が盛んである。また、東部臨海地帯は水産業、ハマチ養殖などが盛んである。河川部では、アユ・ウナギの養殖も行われている。南東部臨海地帯では工業化が進み、製紙・化学工場が操業している。

## 収録地点の方言の特色

### 方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

徳島県の方言は、<sup>かみごおり</sup>上郡（<sup>みま</sup>美馬郡・<sup>みよし</sup>三好郡）、<sup>しもごおり</sup>下郡（<sup>とくしま</sup>徳島市・<sup>なると</sup>鳴門市・<sup>みょうざい</sup>名西郡・<sup>おえ</sup>麻植郡・<sup>いたの</sup>板野郡）、<sup>あなん</sup>うわて（<sup>こまつしま</sup>阿南市・<sup>かつら</sup>小松島市・<sup>な</sup>勝浦郡・<sup>な</sup>那賀郡）、<sup>なだ</sup>灘（<sup>かいふ</sup>海部郡）と山分（<sup>さんぶん</sup>那賀郡・<sup>なかがわ</sup>那賀川上流域・<sup>い</sup>美馬郡・<sup>や</sup>三好郡・<sup>がわ</sup>祖谷川とその支流の<sup>さだみつがわ</sup>貞光川上流域）に5区分される。

阿南市富岡町はうわてに属し、アクセントは徳島市型で阪神地方と同じである。

### 音韻

(1) 次のような母音の交替が認められる。

- [i] → [e]    オケナ（大きな）
- [e] → [i]    オマイ（おまえ）
- オカイリ（お帰り）
- [u] → [i]    ワカイシ（若い衆）
- イゴク（動く）
- アイ（鮎）
- [u] → [e]    スケナイ（少ない）
- [o] → [a]    シンダイ（しんどい・つらい）

(2) 次のような子音の交替が認められる。

- [d] → [n]    テツナイ（手伝い）
- [m] → [b]    ネブタイ（眠たい）
- サブイ（寒い）
- [s] → [h]    ホシテ（そして）
- [z] → [ʒ]    タンジャク（短冊）

(3) 次のような音節が認められる。

[kwa]	<u>ク</u> ワッパ (雨ガッパ) <u>ク</u> ワイギ (会議)
[gwa]	<u>グ</u> ワイコク (外国)
[ʃe]	<u>シ</u> ェン <u>シ</u> ェー (先生) <u>シ</u> ェーカツ (生活)
[ʒe]	<u>ジ</u> ェン <u>ジ</u> ェン (全然)
[tʃa]	ヤマ <u>グ</u> ツツ <u>ア</u> ン (山口さん)
[tʃo]	ゴツツ <u>オ</u> ー (ご馳走)

(4) [ʃir] から [ʃʃ] への交替が認められる。

コッシヤエル (こしらえる)  
オモッシヨイ (おもしろい)

(5) 1音節の語が長音化することがある。

キーオ キル (木を伐る)  
キーテ イク (着て行く)

## 文法

(1) 過去否定の「しなかった」は、「セナダ」・「センカツ」となる。

ドナイーモ ナラナダモンナ (どうにもならなかったものね)

(2) 進行態と結果態の区別がある。「降っている」の場合、進行態は「フンジョル」・「フンジョー」が盛んに使われる。「フンリョー」も多用されるが、「フンリョル」は頻度が少ない。結果態は「フットル」・「フットー」が使われる。

(3) 断定には、「ジャ」を用いる。推量としては「ダロ」・「ジャロ」を使用する。

スズムシトリワ アブナインジャ (スズムシとりは危ないんだ)  
ホーダロナ (そうだろうね)

(4) 可能・不可能表現には、「ヨー」・「エー」・「ケコ」のような副詞が用いられる場合と、可能動詞や助動詞「レル」が用いられる場合がある。

ヨー イク (行くことができる 〈可能〉)  
ヨー イカン (行くことができない 〈不可能〉)  
エー イカン (行くことができない 〈不可能〉)  
ケコ スル (することができる 〈可能〉)

イケル (行くことができる 〈可能〉)

イケレン (行くことができない 〈不可能〉)

- (5) 尊敬・丁寧・親愛表現には、「なさる」が変化した「ナハル」が多用される。命令形「ナハレ」を用いることが多い。「ナハレ」は、「ナハイ」・「ナイ」という形でも使われる。短くなるにつれて尊敬・丁寧の意味は低下する。

マー アガンナハレ (まあ、お上がりください)

イキナハイ (行きなさい)

ミテ ミナイ (見てみなさい)

ヨー ハタラキ ナハルナー (よくお働きになるなあ)

ドコエ ユキナハンリョ<sup>ン</sup>デ (どこへおいでになるのでしょうか)

- (6) 尊敬の助動詞「ンス」がある。

センスナ (しなさるな)

イカンセダ (行きなさいよ)

- (7) 依頼の表現として、「ください」に相当する「つかはさる」から変化した「ツカハル」がある。「ツカイ」・「ツカ」も使われるが、短くなるにつれて丁寧さは低下する。

モツテ キテツカハレ (持って来てください)

キー ツケテツカイ (気をつけてください)

ホツチエ イツテツカ (そちらへ行ってください)

- (8) 丁寧の表現として、「ございます」から変化した「ゴワス」・「ガース」がある。ほとんど老年層にしか用いられない。

オハヨーゴワス (お早うございます)

- (9) 方向を示す格助詞は「イ」が使われる。

ソトイ イク (外へ行く)

- (10) 格助詞「を」は省略されることがある。この場合、1音節の語が長音化することが多い。

キー キル (木を切る)

ゴー ウツ (碁をうつ)

ジー カク (字を書く)

- (11) 引用格助詞「と」は、「いう」と一緒に用いられる場合に省略されたり、「いう」と融合して「チュー」・「ツー」に変化したりする。

イヤユーテ (いや [と] 言って)  
ナンチューコトオ (何ということを)  
シランツーカ (知らないというか)

- (12) 原因・理由を表す接続助詞「から」は、「ケン」が多用されるが、上郡などに見られる「キニ」は阿南市では認められない。

アソビニ ユクケン (遊びに行くから)

- (13) 接続助詞「ながら」にあたる「モッテ」がある。

タベモッテ (食べながら)

- (14) 副助詞「など」にあたる「ヤコシ」・「ヤコイ」・「ヤカイ」がある。

ケツアツヤコシワ (血圧などは)  
ハナヤコイワ (花などは)  
ビョーキヤカイ (病気など)

- (15) 終助詞の「デ」は、疑問・勧誘・強調・詰問など、極めて多様に用いられる。全体として丁寧・親愛の情がこもっている。「デカ」・「デカイ」・「デヨ」・「デワ」などもある。

イクラデ (いくらか (疑問))  
イカンデ (行こうよ)  
アー ホーデ (ああ、そうか)  
ヨーケ アンデヨ (たくさんあるのよ)

- (16) 終助詞の「ダ」・「ダー」がある。

イクダー (行くよ)  
セコーテ オレンノヨダ (体がきつくて、がまんできないのよ)

- (17) 終助詞「ケ」を多用する。

モー ソロソロ イカンケ (もうそろそろ行かないか)  
アー ホーケ (ああ、そうか)

- (18) 終助詞の「ジョ」・「ジェ」がある。

キショク ワルインジョ (気色が悪いのよ)

(19) 間投助詞の「ニ」は、阿南市橋町の漁師の間で用いられていたが、今はわずかに残っているだけである。

アノニ ホレデニ (あのね、それでね)

(以上の解説は、基本的に、「各地方言収集緊急調査」当時の報告原稿によるものである。)

## 徳島県阿南市1981凡例

談話資料は、方言談話音声、方言談話音声の文字化、方言談話の共通語訳から成る。CD-ROMには、ページ単位で切った方言談話音声を、CDには、方言談話音声全体を収録した。

### 文字化と共通語訳

方言談話音声の文字化はカタカナで表記し、方言談話の共通語訳は、漢字かなまじりで表記した。方言談話音声の文字化と共通語訳とは、対照ができるように、上下2段を1組として示した。上段が文字化、下段がその共通語訳である。

文字化については、表音的カタカナ表記を用いている。つまり、長音は「ー」で示し、助詞「は」は「ワ」、助詞「を」は「オ」、助詞「へ」は「エ」と表記する。「カ°」「キ°」「ク°」「ケ°」「コ°」はガ行鼻濁音を表す。

また、分ち書き、句読点などは、便宜的なもので、厳密なものではない。「各地方言収集緊急調査」における、方言談話音声の文字化の方法は、後に掲げる「調査実施上の留意事項について」などに詳しく記されている。ただし、今回、「全国方言談話データベース」として公開するにあたり、文字化・共通語訳を整備する際には、当時のマニュアルにはとらわれず、読みやすさ、意味のとりやすさを優先して処理をした部分がある。

また、この文字化は、時間の流れを忠実に反映することを意図していない。したがって、発話の重なりや、複線的な会話の進行の構造が、文字化からは読み取れない。データを使用する際には、文字化・共通語訳を見るだけでなく、実際に、音声を聞いて判断していただきたい。

### 発話単位

ひとりの話者が続けて話している、話者が交替するまでの連続した発言を1発話とする。途中にあいづちが入る場合もある。

### 発話番号 (半角)

発話の通し番号を、各発話の話者記号の前に付した。

例：1A

## 話者記号 〈全角〉

話者、調査者など、談話の場にいる人物について、A、B、C、D、E、F、……のように、アルファベットで示した。

例：1A

## 固有名詞

話者および一般の人名については、文字化・共通語訳の該当個所を、A、B、C、X1、X2、X3などのアルファベットに置き換えた。話者、調査者など、談話の場にいる人物については、A、B、C、D、E、F、……のように示し、話題の中の第三者については、X1、X2、X3、……のように示した。ただし、音声は、該当個所に加工をしなかった。

歴史上の人物や、有名人の人名については、記号に置き換えることはせず、個人名を出すことにした。また、会社名、店名、製品名などについても、発言されたとおりに記している。

地名については、そのまま扱うことにした。

## 記号

### 。(句点) 〈全角〉

ポーズがあって、意味的にひとつのまとまりを持つ文と考えられる個所。

共通語訳については、実際の発話でポーズが置かれていないところでも、意味の取りやすさを優先して句点をつけた場合もある。

例：ソーデス ソーデス

そうです。 そうです。

### 、(読点) 〈全角〉

基本的に息をついた個所、または、ポーズのある個所。

共通語訳については、実際の発話でポーズが置かれていないところでも、意味の取りやすさを優先して読点をつけた場合もある。

また、文字化と対応しなくなっても、読みやすさを優先して、取り去った場合もある。

例：シ、ヤクシヨ

市役所

? 〈全角〉

上昇イントネーションと判断した個所。

例：アズケトイテ？

預けておいて？

( ) 〈全角〉

あいづち。ひとりの人が連続して話している時にさえぎったり、口をはさんだりした個所。

(A ………) のように、開き括弧の次にあるアルファベットは、発言している話者を示す。( ) の閉じ括弧の直前の句読点は省略した。

なお、( ) 内のあいづちと、独立した発話扱いされているあいづち的発話との違いは必ずしも明確ではない。

例：(A アー ソーデスカ)

{ } 〈全角〉

笑，咳，咳払い，間，などの非言語音。

例：{笑}

{咳}

{手を叩く音}

××× 〈全角〉

言い間違いや言い淀みなど。

例：ム ム ムツカシー

× × 難しい

\*\*\* 〈全角〉

聞き取れない部分。

例：オチャズケノ\*

お茶漬けの\*

/// 〈全角〉

対応する共通語訳が不明な部分。

例：モーゼーノ モジナンデスナ、

//////// 「文字」 なんですネ。

[ ] (全角)

方言音声には出てこないが、共通語訳の際に補った部分。

例：ミカン ノセテ

みかん [を] 乗せて

= (全角)

[ ] 内の=は、意味の説明や、意識であることを示す。

例：イマ ユー

今 いう [=今話題にあがった]

| | (全角)

注意書きなど。

例：| Aに対して|

[ ] (全角)

注記。方言形の意味・用法、特徴的音声などについて説明し、文字化・共通語訳の後にまとめてある。[ ] 内の半角数字は、注記の番号を示す。

例：ホシツキサソノオモチ [1]

## 音声

CD-ROMには、冊子のページ単位で区切った方言音声の wave ファイルを収録している。冊子のページを pdf ファイルにしたものに、方言音声をクリックさせていて、各ページにある **再生** の部分をクリックすると、そのページの音声を聞くことができる。

CDには、談話全体の音声を収録している。以下にあげるように、適当な個所で、トラックに区切っている。

## CD トラック番号

文字化・共通語訳のヘッダは、方言音声を収録した CD のトラック番号を示している。「徳島20-1」は CD トラック番号が20で、その1ページ目ということである。「徳島20-1」「徳島20-2」……「徳島20-5/21-1」……「徳島38-3」のように表示される。

また、文字化・共通語訳部分には、CD のトラックの切れ目を表示した。矢印の部分がトラックの切れ目を表し、その両側の数字はトラック番号である。

**↑20**, **20↑21**, …… **37↑38**, **38↑** のように表示される。

第16巻のCD（72分58秒）には、徳島県阿南市の談話，【虫とり，台風と大水】の全体の音声を収録している。各トラックの開始ページ・行，終了ページ・行，時間は下記のとおりである。行は，文字化の行を表示した。

トラックNo.	開始ページ・行	終了ページ・行	時間:分:秒
20	p.148・0.1	p.152・0.19	0:01:59
21	p.152・0.19	p.157・0.9	0:01:56
22	p.157・0.9	p.161・0.17	0:01:59
23	p.161・0.19	p.167・0.17	0:02:03
24	p.167・0.17	p.173・0.3	0:02:00
25	p.173・0.3	p.178・0.1	0:01:57
26	p.178・0.1	p.183・0.13	0:01:57
27	p.183・0.13	p.188・0.17	0:02:03
28	p.188・0.19	p.192・0.19	0:01:58
29	p.193・0.1	p.197・0.13	0:02:03
30	p.197・0.15	p.203・0.1	0:02:07
31	p.203・0.3	p.208・0.9	0:02:00
32	p.208・0.11	p.213・0.9	0:02:05
33	p.213・0.11	p.218・0.3	0:02:02
34	p.218・0.5	p.223・0.17	0:02:00
35	p.223・0.19	p.228・0.9	0:02:03
36	p.228・0.11	p.233・0.19	0:02:05
37	p.234・0.1	p.237・0.13	0:01:52
38	p.237・0.15	p.239・0.3	0:00:36
計			0:36:45

## 徳島県阿南市1981談話

- 収録地点 徳島県阿南市あなんしとみおかちょうと富岡町のまちトノ町
- 収録日時 1981(昭和56)年8月5日
- 収録場所 徳島県阿南市領家町ほんせうのうち本荘ケ内 阿南市立図書館
- 話題 虫とり，台風と大水
- 話者
- |   |   |              |          |        |
|---|---|--------------|----------|--------|
| A | 男 | 1912(明治45)年生 | (収録時69歳) | 元・小学校長 |
| B | 男 | 1901(明治34)年生 | (収録時80歳) | 元・公社職員 |
| C | 女 | 1905(明治38)年生 | (収録時76歳) | 無職     |
- 調査員
- 男 (収録談話中に発話なし)  
(収録談話中に発話なし)徳島県教育委員会文化課職員  
(収録談話中に発話なし)阿南市教育委員会社会教育課職員
- 収録時間 (CD) 36分45秒

【虫とり，台風と大水】

話し手

- A 男 明治45年生 (収録時69歳) 元・小学校長  
B 男 明治34年生 (収録時80歳) 元・公社職員  
C 女 明治38年生 (収録時76歳) 無職

1 A : トンボ トンボ トンボツリヤ マエ ショッタデ  
トンボ トンボ トンボつりは 前 していたね

↑20

ワシラ トンボツリ ハイ ツカマエテ  
私たち[は] トンボつり[は] 蠅[を] 捕まえて

ホイデ ククッテ ゲート コー  
それで [それを]くくって グーッと こう[いうふうに]

2 C : アー ホンナン シタデ (A ウン)  
ああ そんなの したか? (A うん)

3 B : オーン ホラナー タケノ サキーナ ヒーモ ツケテ  
おーん それはねえ 竹の 先へね ひも[を] つけて

ホノサキー ハハ ハイオ ククットクンヨ (C フーン)  
その先へ ×× 蠅を くくっておくのよ (C ふうん)

ホーデ トンボ トンビョッタラ コー  
それで トンボ[が] 飛んでいたら こう[して]

徳島 20-2

4 A : トンボツリ シテ ハハ オワエマワツタコトカ° アルワ  
トンボつり して ×× 追っかけまわったことが あるよ

5 C : {笑} ホーデー (A ウン)  
{笑} そうか (A うん)

6 B : トーボカ° ホレオツ ホレオ ミテ オワエテクルンヨ  
トンボが ×××× それを 見て 追ってくるのよ

7 C : フウーン {笑} ホレ オモッショカッタナー {笑}  
ふうん {笑} それ[は] おもしろかったねえ {笑}

8 A : ホラー アノー ナノ マコ°スジ サシテモ  
そら あの ×× 孫あたりに させても

ナカナカ アノー {笑} ヨロコンデ スルゼー {笑}  
なかなか あの {笑} 喜んで するよ {笑}

(C {笑})

(C {笑})

9 B : マー コノコ°ロ ホンナン ミタコト ナイナ  
まあ この頃[は] そんな[遊びを] 見たこと[が] ないな。

10 A : モー コノコ°ロヤ アマリ センケンドナ  
もう この頃は あまり しないけれど

マー ムカシノ オモイデニ ヤラシタリシタラ  
まあ 昔の 思い出に [子供たちに]やらせたりすると

徳島 20-3

(C アー) ヨロコンデ ヤッター

(C ああ) 喜んで やった

ソレト ナニカ° マー コレ モット \*\*\*\*  
それに 何が まあ これ[は] もっと \*\*\*\*

クツワムシヤラ ソレカラ スズムシ トリニ イクデナ?  
クツワムシやら それから スズムシ[を] とりに 行くね?

(B エー) スズムシ ウカウカ ナン トリニイケンノヨ

(B ええ) スズムシ[は] うかつに ね とりに行けないのよ

アレ

あれは

11C : オランダロナ オルデ?

いないだろうね いるか?

12A : ウーン イヤ イマワ モー スクナイケンドナー

うーん いや 今は もう 少ないけれどねえ

アノー イワノ アナニ オルデショー (C アレ ッテナ)

あのう 岩の 穴に いるでしょう (C あれ ってね)

ウン ホタ ウカウカ テデ イッキョッタラ

うん そしたら うかうか 手で いていたら [=とっていたら]

コンド ヒ ヒケ°ムシ[1]カ° オツタリ

今度[は] × ヒゲムシが いたり

徳島 20-4

ハー アノ ヘビカ° オル (B ア) (C アー)  
×× あの 蛇が いる。(B あ) (C ああ)

13B : コノコ° コノ ナニー テイボーノ  
××× この 何 堤防の[あたりに]

ヨーケヨケ オルンジャ (C オルンデ)  
たくさん いるんだ (C いるんか?)

オッタ エ ムカシオ モー コノコ°ロ スクナイズ  
いた × 昔は。 もう この頃は 少ないよ

ホンデ イマ コートル イエカ° ヨーケ アンデヨ  
それで 今[は] 飼っている 家が たくさん あるのよ。

14A : コートル タイテーノ イエカ° コートルナ  
飼っている たいていの 家が 飼っているね

15C : ウン モー モー コノコ°ロ  
うん もう もう この頃[では]

スズムシワ カウヨウニ ナツテモタナ  
スズムシは 飼うように なってしまったね。

16B : コーテナ ヨーショクシヨン。(A エー)  
飼ってね 養殖している。(A ええ)

17A : ホラー スズムシトリワ アブナインジャ ヨッポド ヤ  
そりゃ スズムシとりは 危ないんだ たいへん ×

ホイテ バンデ ナケリヤ ナッキョラン  
それで 晩で ないと 鳴いていない。

ヒノクレジャケンナ (C エー) ワカラン  
日暮れ時だからね。(C ええ) わからない

18C : クツワムシヤ モー ホージャナ  
クツワムシなども もう そうだね

シコ°ネンマエマデ ウチノ ウラ°デ ナイテナイテ  
4、5年前まで うちの 裏[庭]で とても鳴いて

イエシ ナカイ トビコンデキテ  
家の 中へ 飛び込んできて

バン ネラレンク°ライ オツタンヨ (A ウン)  
晩 寝られないほど いたのよ。(A うん)

ホタラ ムスメカ° ナンジャ ホノ アノー イラ[2]カ° ホノ  
そしたら 娘が 何に その あのう イラが その

ヒケ°ムシオ イラ チューンヨナ (A エー エー)  
ヒゲムシを イラ というのよね (A ええ ええ)

ホノ イラカ° ワクモンジャケン (A エー)  
その イラが わくものだから (A ええ)

ウラノ アノ クサモ ナニモカモ アツメテイテ ヤクワ  
裏の あの 草も 何もかも 集めて 焼くよ

20↑21

徳島 21-2

ツチューテナ (A エー) ミーンナ ヤイタン (A アー)  
とってね (A ええ) みんな 焼いたの (A ああ)

ホレデ イッピキモ オランヨーニ ナッテモタン  
それで 1匹も いないように なってしまったの。

(A アー) タマコ° ヤイテモタンダロナ  
(A ああ) 卵[も] 焼いてしまったのだろうね

(A アー タマコ° ヤイタケンナ)  
(A ああ 卵[も] 焼いたからね)

イラワ ヤッパリ コンマイナ {笑}  
イラは やはり 小さいね {笑}

19A : モー コレカラワ ホタ アノ  
もう これからは そうしたら あの

ギーチョン ギーチョン チューンカ° ナクデイナ  
ギーチョン ギーチョン というのが 鳴くよね

クサノ (C エー)  
草の (C ええ)

20B : モー ナンジャナ ムシカ° スクナンナツタナ コレモ  
もう 何だね 虫が 少なくなったね これも。

21A : コレモ スク エッ モー ウチラナ アノ ハタケジャッターラ  
これも ×× ×× もう うちの あの 畑だったら

徳島 21-3

ソートー ナッキョットタンジャケンドナ (C エー)  
相当 鳴いていたのだけれどね (C ええ)

イマ モー  
今[は] もう。

22B : \*\* コノ ココノ テイボーニ アノ  
\*\* ×× このの 堤防に あの

キリキ°リスカ° ヨーケ オットタンジョ (A アー)  
キリギリスが たくさん いたのよ。 (A ああ)

コノコ°ロ ミタコト ナイモン。  
この頃[は] 見たこと[が] ないもの。

23C : アノ キリキ°リス チュノワ  
あの キリギリス というのは

コノ チット アオイ セノナ ナカ°ーイ ンタ  
この ちょっと 青い 背のね 長い そしたら

バッタ ッチュントワ マタ チカ°ウンダロナ?  
バッタ というのとは また 違うんだろうね?

(B チカ°ウン)

(B 違うの)

ホラ オトドシコ°ロ (B バッタヨリ ホソイ)  
ほら 一昨年ごろ (B バッタより 細い)

徳島 21-4

オトンドシク°ライダッタンダロナ ナンジャナ  
一昨年ごろだったのだろうね 何というか

ハチク°ワツスキ°ジャッタカイナ ト オモウンヨナ (A ウン)  
8月過ぎだったかな と 思うのよね (A うん)

モー アノ ニシノ ンドテナ ニシコー[3]ノ (A エー)  
もう あの 西の 堤防ね 西高の。 (A ええ)

ナンビャク ッチューク°ライナ  
何百 というぐらいね

ドンナ ク°アイゾ シラン  
どうした ぐあいか 知らない[が]

バツタカ° ミーンナ ンナ  
バツタが みんな ね

クルマニ シカレテ イーッパイ シンドッタワ (A ホー)  
車に ひかれて いっぱい 死んでいたよ (A ほう)

ホッ (B サー) マー ンドテキタモン  
×× (B さあ) まあ 出てきたもの

ミーンナ クルマカ°ナ (A エー) ヒテシモタン  
みんな 車がね (A ええ) ひいてしまったの。

コノ マー バツタノ シンドンデ  
この まあ バツタの 死んでいるので

徳島 21-5

ビックリシタコトカ° アルデヨ (A フーン)

びっくりしたことが あるよ。 (A ふうん)

24A : モー イマモー ホトンド ワシヤ イ アノ イエデ キクンワ  
もう 今[は]もう ほとんど 私など × あの 家で 聞くのは

コーロキ°ヨリホカ ナイモンナ (C ホージャナ)

コオロギ以外は ないものね (C そうだね)

ウン コーロキ°ワ マー アレ ツヨイカ シラン

うん コオロギは まあ あれ[は] 強いのか 知らない。

(B ムチャ) アレ コイー コイー ツル チュテナ

(B ///) あれ 鯉を 鯉を 釣る といってね

アノ ヤス X1ハン チューンカ°ナ (C エー)

あの ×× X1さん という人がね (C ええ)

アノ オジーサンカ° モ ツリセンモンジャッター

あの おじいさんが × 釣り専門だったよ

(C ホーデー フーン) ウン

(C そうか ふーん) うん

ウチー ヨー コーロキ° トンニ キタ (C アー)

うちに よく コオロギ[を] とりに 来た (C ああ)

25B : ホンデ コーロキ°カ° ウチノ ニワニワ イツデモ オルワ

それで コオロギが うちの 庭には いつでも いるよ

徳島 21-6/22-1

ナーンジャ センノニ ホ デテクルワ  
何も しないのに × 出てくるよ。

26A : モー トニカク クサ ヒキヌイテ ホットクダロ  
もう とにかく 草[を] 引き抜いて ほうっておくだろう

ホタ ホコイ ミナ コー スヨットンデー (C アー)  
そうすると そこへ みんな こう 集まっているよ (C ああ)

ホタラ ホコイ イテ コーロキ° トッテ  
そうすると そこへ 行って コオロギ[を] とって

ホイテ ホレデ コイー ツルン ホラー アレ  
そして それで 鯉を 釣るの ほら あれ

21↑22

X1ノ ジーサン イキトルジブン  
X1の おじいさん[が] 生きている頃

ネンジャー ウチー (C アー ホーデー {笑}) (B {笑})  
年中 うちへ (C ああ そうか {笑}) (B {笑})

ナー マー モー ツリモ シカシ ホンナ  
ねえ まあ もう 釣も しかし そんな

ムシンデ ツルヤ ユーンワ ノーナッタナ  
虫で 釣るなど [と]いうのは なくなったね。

27C : ナー ミナ モー エビトカナー コ°カイトカ モー  
ねえ みんな もう 海老とかねえ ゴカイとか もう

徳島 22-2

エーヨーン ナッテ キタワ (A エー)

ぜいたくに なって きたよ (A ええ)

ツルヒトモ {笑} ミナ オカネ ダサナ {笑}

釣る人も {笑} みんな お金 出さないと {笑}

オカネデ カワナンダラ {笑}

お金で 買わなかったら {笑}

28A : ムカシワ ヨー ムシカコ°デ ムシ ツ トッテキテ

昔は よく 虫籠で 虫 × とってきて

コータリ ショルケド コノコ°ロ ムシーカコ°デ

飼ったり しているけれど この頃[は] 虫籠で

イエー ツッタールヤ ユーン ナイナ

家に つつてあるなど [と]いうの[は] ないね

(C ナイナー アレ)

(C ないねえ あれ)

29B : ナニカ° チコ°テキタ イッパイ ワイ

何が 違ってきた。 いっぱい ××

セイコツ[4] ヨーシキカ° チコ°ーテキタンヤナ

生活様式が 違ってきたんだね

(A カワッタンヤナー)

(A 変わったんだねえ)

徳島 22-3

30C : アノ シケカ° ヒテナー (A アー)  
あの 嵐が 来てねえ (A ああ)

アー シケカ° モー ダイブ ヤムカイネー ト オモタラ  
ああ 嵐が もう だいぶ おさまるかなあ と 思ったら

ムシカ° ナクナ? (A ソー ソー ソー ンー)  
虫が 鳴くね (A そう そう そう うん)

アー ナー アタ ムシカ° ナイタラ  
ああ なあ ×× 虫が 鳴いたら

モー コンデ シケモ オサマッタワ ト コー ユーワ。  
もう これで 嵐も おさまったよ と こう 言うよ。

31A : イヤ ホラ ナー。  
いや それは ねえ。

32C : ヨー シットルナ ムシワ。  
よく 知っているな 虫は。

33A : ワシャ ワシカ° コドモノ ジブンニ アレ  
××× 私が 子供の 頃に あれ

オーミズカ° デタコト アルン (C エー)  
大水が 出たこと[が] あるの。(C ええ)

ホイテー アノー イエモ ツカッテナー  
そして あのう 家も 浸水してねえ

徳島 22-4

34C : ホレカ° サイコーノ ミズンダロナー (A ウン)  
それが 最高の [大]水だろうねえ (A うん)

シェンセイダッタラ (A ホーヨ)  
先生[=話し手A]だったら (A そうよ)

タイショーヒチネンク°ラインダロー  
大正7年ぐらい[の大水が最高]でしょう？

(A ア ホージャナ) (B ダ)  
(A ああ そうだね) (B ×)

ドコゾ コノアタリニ ミナ (B エー)  
どこか このあたりに みんな (B ええ)

ナー (A ウン) ヨーケ シンデナ  
ねえ (A うん) たくさん 死んでね

ナナミアタリ ユーレイカ° デヨルワ ユー  
七見あたり[は] 幽霊が 出ているよ [と]いう

カモダニマデナ {笑} ビンカ° \*\*\* キヨッタ。  
[私のいた]加茂谷までね {笑} 便りが \*\*\* 来ていた。

35A : アノジブンニ ウチノ オバーハンカ° ホレ ユータワ ハ  
あの頃に うちの おばあさんが それ 言ったよ ×

アノ モー ムシ ナキダシタケン ミズ ヒクワ  
「あの もう 虫[が] 鳴き出したから 水[が] ひくよ」

(C エー ワタ) ホタ アンノジョー

(C ええ ××) そうしたら 案の定

ヒ ホレカラ ズート ヒータン (C アーナ)

× それから ずうっと [水が]ひいたの (C ああね)

ヤネー アカ°ットタン (C アー ホーデー)

屋根へ 上がっていたの (C ああ そうか)

ヤネ ッテ ニ ニカイ チュー (C エー)

屋根 といっても × 2階 という (C ええ)

アノ クサヤヤケンナ (C エー エー)

あの 草葺きだからね (C ええ ええ)

アノ ホイテ オリテ。

あの そして 下りて。

36C : アノ ミズワ オッキョカッタデヨー (A オッキョカッタ)

あの [大]水は 大きかったよ (A 大きかった)

サイコージャナ ワタシカ° シットンデワ モー。

最高だね 私が 知っているのでは もう。

37B : ア タイショークネンノホーカ° オッキョカッタダロ。

× 大正9年のほうが 大きかっただろう。

22↑23

38C : サー クネン クネン

さあ 9年 9年?

徳島 23-2

39B : ココデワ タイショーヒチネンヨリ  
ここ [=阿南市富岡町]では 大正7年よりも

クネンノホーカ° オッキョカタナ  
9年のほうが 大きかったね。

40A : コッチワ クネンノホーカ° オッキョカタ (C ホ)  
こっちは 9年のほうが 大きかった。 (C ほう)

ワシラワ (B タイショーヒチネンモ)  
私たちは (B 大正7年も)

41C : ワタシ ヒチネンカイネー  
私[は] 7年[のほうが大きかった]かな[と思う]

マー ジュロクヒチンデアッタケンナー  
まあ 16,7[歳]だったからねえ

ハッキリ オボエトランケンド (A ホラ タイショーナ)  
はっきり[と] 覚えていないけれど (A ほら 大正ね)

イエノ モンマデ キタケンナー (A ウン)  
家の 門まで [水が]来たからねえ (A うん)

42B : タイショーヒチネンノ ジブンワ  
大正7年の 時[の大水]は

タ タカイッシャノ トコナ (A エー)  
× 高石屋の ところね (A ええ)

徳島 23-3

アシコワ モー ド ホレタンヨ (A ン一)  
あそこは もう × 削られたのよ (A ん一)

ホタラ モー クネンノ ジブン  
そうしたら もう 9年の 時[には]

ムコ クマノヤ チューンワ ムコー ナケ°ナイ  
×× 熊野屋 というのは 向こう[の] / / /

(A エ一) アシコワ モー イチジョー[5]ハンク°ライ  
(A ええ) あそこは もう 1丈半ぐらい

イチジョーアマリ ホレテナ (A エ一)  
1丈あまり [土地が]削られてね (A ええ)

ホイデ テイボーカ° ムツカシイ イヨッタヨーデ。  
それで 堤防が 危ない [と]言っていたようで。

(A ン一)  
(A うん)

43C : ドコヤ ココラノ テイボーカ°ナ カ°ッコーノナ  
どこか このへんの 堤防がね 学校のね

(B ホラ コッチ コッチ) ホコケ°カ° キレタ  
(B ほら こっち こっち) そこが きれた

(B テンジンカ° テンジンカ° キレタ)  
(B 天神が 天神[さんのところ]が 切れた)

徳島 23-4

テンジンカ° キレタン  
天神が 切れたの。

アレカ° (A ジョー ジョー) ヒチネンジャナ  
あれが (A / / / / / /) 7年だね

テ テ ヨーケカ° テ ホイテ キレテ  
× × たくさん[のところが] × そして 切れて

(B \*\*\*\* ショーカ° ッコーノ トコロヨ)

(B \*\*\*\* 小学校の ところよ)

ウン (B ショーカ° ッコーノ ムコーナ) キレタ ッチュータワ  
うん (B 小学校の 向こうね) 切れた と言ったよ

ホイテ ナナミー ツカシテナー ユーテ ヨー ホンマニ  
そして 七見[村が] 浸水してねえ [と]言って よく ほんとうに

44A : マー ナンセ タシカニ ムシワ ミズニ ヒクン  
まあ 何でも たしかに 虫は 水[が] ひくの[を]

シットンカ シラン ア ヤッテ ワシモ  
知っているのか 知らない[のか] ああ して 私も

オバハンカ° イヨン (C ウン)  
おばさんが 言っている[のを] (C うん)

キカサレタコトカ° アルワ (C ナー)  
聞かされたことが あるよ。 (C ねえ)

45B : ムシデモ アノ カタツリ [6]ダ  
虫でも あの カタツムリね

ウェー ウェー アガッテクル タカイトコロ (A アー)  
上へ 上へ 上がってくる 高いところ[へ] (A ああ)

エー ミズカ° デルンダッタラ \*\*\*  
ええ [大]水が 出るのだったら \*\*\*\*

モー サキニ モー カタツムリ ズート ミナ モー。  
もう 先に もう カタツムリ[は] ずっと みんな もう。

46C : アー エライ モンジャナ  
ああ えらい ものですね

47A : アノ イマ ホノ ミズデ オモイダシタケンドナー  
あの 今 その [大]水で 思い出したけれどねえ

アノ ヘビカ° ホレ キー ノボットッタラ  
あの 蛇が それ 木に 登っていたら

オーミズカ° デル ッテ ユーテ  
大水が 出ると 言って

(C ウン イヨ ホー イヨッタナ) キカサレタナー  
(C うん ×× そう 言っていたね) 聞かされたねえ

アー ユーヨーニ ヤッパリ ムシヤ ユーヨーナ モン  
ああ いうように やはり 虫など [と]いうような もの

徳島 23-6

ジー          ホートルヨーナ      モノワ  
地面[を] 這っているような ものは

ダイタイナ ワカルンジャナ (C ホージャナ) (B マー ナー)  
だいたいね わかるのだね (C そうだね) (B まあ ねえ)

ジシンカ° ユル      ッチュータ  
地震が      起こる      といったら

ヤマカラ ヘビカ° オリテクルトカ (C ウーン)  
山から      蛇が      下りてくるとか (C うーん)

ユーヨーナコトカ° ヨーケ  
というようなことが      たくさん

48B : ア キコーノ      ヘンカ      ッチューン  
× 気候の      変化      ということ[が]

ヨー                  カンジルンダロナ  
[蛇などは]よく 感じるのだろうね

49C : ホーヤナ      ミズデワ      ホレカ°  
そうだね [大]水では      それが

イチバン      オキョカッタン      ト  
いちばん 大きかったの      と

ナンジャナ      タイフーワ      アノ      ムロトタイフー[7]      ッチューンデ  
なんだね      台風は      あの      室戸台風                  というのは

アレ (A アー ムロト) アレ オキョカッタナー (A ナー)  
あれ (A ああ 室戸) あれ 大きかったねえ (A ねえ)

エー  
ええ

50B : ホエ コナイダ コトシノナ ヨンジューネンジョ  
ほら この間 今年のね 40年よ

ヨンジューネンオ チ チケル テューテ  
40年を × / / / といっ

ヤネ トバサレタンジャ (A アレデ)  
屋根[が] 飛ばされたんだ (A あれで)

シー (A フーン) ヨンジューネンノ タイフージャ  
うん (A ふうん) 40年の 台風だ

(C アー ヤネカ° トンダ トキジャナ)  
(C ああ 屋根が 飛んだ 時だね)

アー {笑} ト ヨンジューネンジャ  
ああ {笑} × 40年だ

51A : アノジブンニナ アノー イケダノナ ナニデ  
あの時にね あの 池田のね 何で

23↑24

X2センセーノ オウチカ° シンチク シトッタン  
X2先生の お宅が 新築 していたの。

徳島 24-2

ホイテ モー ナンジャワ モー イチバン マー アレ  
そして もう 何だね もう いちばん まあ あれ

X3シャンカ° ウケオーテ モー カッチリ シテアル  
X3さんが 請負って もう かっちり[と] してある

チュー ハズジャッタンヤ ト (C ウーン)  
というはずだったのだ と[いう] (C うーん)

ホレノニ ファート ヤネダケカ° トンデナ  
それなのに ふわっと 屋根だけが 飛んでね

ウチノ (B {咳}) ハ ハタケニ スッパリ スワットン。  
うちの (B {咳}) × 畑に あっさり[と] 座っているの。

52C : ヤネダケワ アノトキ ヨーケ トンダ  
屋根だけは あの時 たくさん 飛んだ

アノ キヨ X4ノ ナニモナー  
あの ×× X4の 何もねえ

(B エー \*\* アノジブンナー) (A アー)  
(B ええ \*\* あの時ねえ) (A ああ)

53B : モー ソノジブンカラ モー シンブン ミナ  
もう その頃から もう 新聞[を] みんな

オイタールンジャ (A ウン)  
置いてあるんだ (A うん)

徳島 24-3

ソノジブンワネ トバサレタワナ (A エー)  
その時はね [屋根を]飛ばされたよね (A ええ)

ホイテ コレワ イカン コレ キョー  
そして これは いけない これ 今日[は]

ツヨイゾ ッチューノ  
[風が]強いぞ というの[で]

ワシ ニカイ アカ<sup>°</sup>ッテナ  
私[は] 2階[に] 上がってね

トーノ ソトイ コノ コノイタ ブッタッテ  
戸の 外へ この この板[を] 打ちつけて

シブイタ[8] ブッターッタンデヨ (A ウン)  
四分板[を] 打ちつけてあったのよ (A うん)

ホレニ テ トッ トバサレルヨーニナルケン  
それなのに × ×× 飛ばされるようになるから

オサオサ オワエトッタン[9]  
×××× 押さえていたの

テーデ ミナ ウッテナ トーナ (A エー)  
手で みんな 打ちつけてね 戸をね (A ええ)

トカ<sup>°</sup> ヌケヘンカイナー ト オサエトッタン  
戸が [風で]抜けないかなあ と 押さえていたの

徳島 24-4

ホイタラ ナンジャ オカシーネー トオモタラ  
そうすると 何か おかしいね と思ったら

バリバリト タンジョ [10]カ° ミナ  
ばりばりと 天井が みんな

ヤネ トンデモタンジャ (A エー)  
屋根[が] 飛んでしまったのだ (A ええ)

ヤネ トンデモタラナー アレ フシギナモンジャナー  
屋根[が] 飛んでしまったらねえ あれ 不思議なものだねえ

ヤネ トンデモタラ カジェカ° ヒトツモ ナイ  
屋根 飛んでしまったら 風が 全然 ない。

(A フウーン) (C アー)  
(A ふうん) (C ああ)

カゼ ハイッテコン (A エー)  
風[が] 入ってこない (A ええ)

54C : アタルトコロカ° ナイヨンナッテ  
[風が]当たるところが なくなって

スート イクケンナ  
すうっと [通って]いくから

55B : ホヤケンナ アノ ワシャ カン カンジタンナ  
それだからね あの 私は ×× 感じたのは

徳島 24-5

アノ ヤネカ° コーナ ナ ナナメニ ナットンナ? (A エー)  
あの 屋根が こうね × 斜めに なっているね (A ええ)

ホイタラ ホコイ カゼカ° アタツタラ コモルンジャナ カゼカ°  
そうすると そこへ 風が 当たったら こもるんだね 風が

ホイテ ウエー ブァー モッチャケ°ルンジャナ (A アー)  
そして 上へ ぶわっと [屋根を]持ち上げるのだね (A ああ)

ホンデ トンデモタラナー ヤネカ° ナイモンジャケン  
それで 飛んでしまったらねえ 屋根が ないものだから

イエシ ナカイナー アノ アメカ° ドンドン フル \*\*\*  
家の 中にねえ あの 雨が どんどん ×× \*\*\*

フル トモタラ ヒトツモ フランノデヨー  
降る と思ったら まったく 降らないのよ。

ムコー イテシマウンジャワ (A フーン)  
むこう[へ] 行ってしまうのだよ (A ふうん)

カゼカ° ツヨイケン スート ムコーイ ト。  
風が 強いから すっと むこうへ と。

56A : アー チョード ホタ アメカ° コー  
ああ ちょうど そうすると 雨が こう

カゼカ° アリースルケン カケ°ン ナルジャナ  
風が あったりするから 陰に なるのだね

徳島 24-6

57B : カケ<sup>°</sup>ン ナル ムコーイ。 {笑}  
陰に なる 向こうへ。 {笑}

イエ<sup>°</sup>ン ナカヤ アメカ<sup>°</sup>ナー (A エー)  
家の 中など 雨がねえ (A ええ)

シッカリ ハイ<sup>ル</sup> ト オモタン (A ウーン)  
どっさり 入る と 思ったの (A うーん)

コレ ヨワッタゾー ト モタラナー {笑} アレ ヤネ  
これ よわったぞ と 思ったらねえ {笑} あれ 屋根[が]

ナイ ナイノニ ヒトツモ ハイ<sup>レ</sup>ヘンノ (A エー)  
ない ないのに ひとつも [雨が]入らないの (A ええ)

ヤネ メンメン ウエ トビ トビコエテイクン  
屋根の // // 上[を] 飛び 飛びこえていくの

(C ホンデ アノ ナンジャナ) ホイテ マ イエ タイテ  
(C それで あの 何だね) そして ま 家[を] 建てて

マー マナ ア アノー ハントシモ ナランノンジャモン  
×× ×× × あの 半年も ならないのなもの

(A エー) モー コレ ドーナッテゾ {笑}  
(A ええ) もう これ どうなってるのか {笑}

58C : ムロトタイフーワ オキョカッターナー  
室戸台風は 大きかったねえ

59B : ホノ ジブンニナ ウチノ チョー ナニニ  
その 時にね うちの ××× 何[=長男]に

マコ°カ° デケタンヨ (A ウン アー ホーデー)  
孫が 生まれたのよ (A うん ああ そうか)

24↑25

コノ ニヘンメニ キタ ジブンニ マコ°カ° デキタン  
この 2度目に [風が]きた 時に 孫が 生まれたの

ホヤケン (C ホー) ホヤケン モー  
それだから (C ほう) それだから もう

クク°ワツノナ ジューヒチニチジャ (C フーン)  
9月のね 17日だ (C ふうん)

ホンデ シケカ° キタノワ  
それで 嵐が 来たのは

ホノ トーカコ°ロカラ キダシタンジャ  
その 10日頃から 来たのだ

アレナ (C エー) (A エ) ホノ ジブンニ  
あれね (C ええ) (A え) その 時に

モー シェ シェンコ°ヒヤクミリク°ライ ホレデ  
もう ×× 1,500mmぐらい それで

フッタン フッタンダロ (A フン) アキ  
降ったん 降ったんだろう (A ふん) 秋

徳島 25-2

60A : アノナー コノ クク°ワツワ  
あのなあ この 9月は

アメカ° ヨー フル ジキジャ {笑} (B {笑})  
雨が よく 降る 時期だ {笑} (B {笑})

61B : モー アレダケワ ワッセラレンワ {笑}  
もう あれだけは 忘れることができないよ {笑}

(C ワタシヤデモ {笑})

(C 私などでも {笑})

62C : ホーダロ ワタシヤデモナ  
そうだろう 私などでもね

ムロトタイフーノ トキニ ナニジャ アノ  
室戸台風の 時に 何だ あの

ウチノ アタリカ°ナ チョード チョーンド  
うちの あたりがね ちょうど ちょうど

ニシコー カケテナ ズート カゼノ スジガアル  
西高[から] かけてね ずっと 風の [通る]筋がある

ミチカ° アルンジャナ (A アー ホー ユーナー)  
道が あるんだね (A ああ そう いうねえ)

ウン ホタ ヨー ユレル  
うん そうすると よく [家が]揺れる

徳島 25-3

シケカ° イクタビニ  
嵐が 来るたびに

コノ コノコ°ロワ シケ ワリアイ スクナイケンド  
×× この頃は 嵐[が] わりあい[に] 少ないけれど

ホノ ジブシニ アノ マエコ°ロカラ  
その 頃に あの 以前から

ヤネノ ムネ トラレル シケワ  
屋根の 棟[を] 取られる[=吹き飛ばされる] 嵐は

ネンジュー キョットタンジャ (A エー)  
年中 来ていたのだ (A ええ)

イカイヤ トブヨーナンモナ モー イッシニ キョットタンヨ  
2階など 飛ぶようなものもね もう 常に 来ていたのよ

ホンジャケン アノ イエ ミテ ミニ イテキテミー  
それだから 「あの [貸]家[を] ×× 見に 行ってきてみる

ユレル ユレル ユーケン  
揺れる 揺れる」 [と借家人が]言うから

タ アノ チョーンド ミチジャケンナ チューテナ  
× あの 「ちょうど [風の]道だからね」 と言ってね

イチネントナ カシヤ タテテ イチネントナ  
1年[の]とね 貸家[を] 建てて 1年[の]とね

徳島 25-4

ホレト ニネントノカ° アツタンヨ  
それと 2年[の]と×が あったのよ

アノ ヘコキバシノ ソバジャワ  
あの 屁こき橋の 側だよ

ヘコキバシ チュ ハシガ {笑} アンデー  
屁こき橋 という 橋が {笑} あるねえ

(A・C {笑}) (A ウーン) ホイテ イヨツタ  
(A・C {笑}) (A うーん) それで [そう]呼んでいた

ホンデ マダ タツトルワ シンパイ ナイケンド  
それで「まだ 建っているよ 心配 ないけれど

アムナイヤ ワカラケン ニゲテ ッテ ユーテイコ  
危険か わからないから 逃げて って 言っていこう

ユーテコナ イカンワ ッテ マ ホー ユーテイタ  
言ってこなければ いけないよ」 って まあ そう 言っていって

イツデモ モー カゼカ° ツヨイケン (A エー)  
いつでも もう 風が 強いから (A ええ)

デ シュジンカ° イタンジャケンドナ  
で 主人が 行ったんだけどね

モー ハシノ トコカ° カゼカ° ツヨーテ ワタレンワ  
「もう 橋の ところが 風が 強くて 渡れないよ」

徳島 25-5

ッテ ホイテ マー モドッテキタン  
と言って そして まあ 帰ってきたの

モドッテキテ ショル ジブンニナ  
帰ってきて している 時にね

モー ミチ トール テッテ  
もう 道 通る といって

イエノ ヒト ノキヒタ トーラナダラナ  
家の 他人[の] 軒下[を] 通らなかったらね

カーラカ° モー コノハノヨーニ トンビョウタ ッチョ  
瓦が もう 木の葉のように 飛んでいた と言って

(A ホーン) アノトキナ (A エー)  
(A ふうん) あの時ね (A ええ)

ホイテ モドッテキテ シタラ コー マタ ヒトツ  
そして 帰ってきて そうすると こう また ひとつ

オーキーンカ° サート キタンヨナ (A エー)  
大きな[=風]が さーっと [吹いて]来たのよね (A ええ)

ホノトキ ウチノ トー ハズサレカケタケン  
その時 うちの 戸[が] はずされかけたから

ミナカ° オサエトツタン  
みんなが 押さえていたの

徳島 25-6/26-1

ホノトキニナ ホノマエニ オッタ カシヤノ ヒトカ°  
その時にね その前に いた 貸家の 人が

25↑26

アムナイ ト モテ マー ニケ°タラシイワ  
危険だ と 思って まあ 逃げたらしいよ

マエ アケトイテ (A エー) ナー {笑}  
前[の戸を] 開けておいて (A ええ) ねえ {笑}

マエノ アケテ タツテイカナンダンジャ (A エー)  
前の[戸を] 開けて 閉めていかなかったのだ (A ええ)

ホ ホノ ホレオ アノ ダイジュマチノ ヒトカ°ナ  
× その それを あの 第住町の 人がね

コーシノ ナカオ ミヨッタダロ  
格子の 中を 見ていたのだろう

モー ゝゴジスギジャケン アカカッタケン  
もう 5時過ぎだから 明るかったから

ホイタラ ニケ°タラ  
そうすると 逃げたら

ホイタラ ホノウチニ ホラ カゼ フクンダケン  
そうすると そのうちに ほら 風[が] 吹くんだから

バサート タイホレタ [11]  
ばさっと 倒れた

徳島 26-2

ホイタラ マタ ホノ トナリー タオレタ  
そうすると また その 隣[のが] 倒れた

トナリダッタ ニケン タオレタケンドナ (A エー)  
隣だった 2軒 倒れたけれどね (A ええ)

マー ケコ ニケ°トッタケンナ ミナ (A ー)  
まあ けっこう 逃げていたからね みんな (A うん)

ケカ°ニンワ ナカッタケンドナー (A エ)  
けが人は なかったけれどねえ (A ええ)

ホタ ホノトキジャ。  
すると その時だ。

63B : タイフーノ ジブンノナ シェンシェイ (A エー)  
台風の 時のね 先生[=話し手A] (A ええ)

アノー カゼカ° フクダー (A エー)  
あのう 風が 吹くね (A ええ)

カゼシモイ ニケ°ラレンノジャワ (A アー シモエワ)  
風下に 逃げられないのだよ (A ああ [風]下へは)

エー (A ウン) カゼ フータラナ  
ええ (A うん) 風[が] 吹いたらね

トッ アノ トート トート アレ フスマ[12]ワナ  
×× あの 戸と 戸と ×× 戸はね

徳島 26-3

ミナ コー シマツトンダー (A アー)  
みんな こう 閉まっているのね (A ああ)

フクブシ ウラ アケタラ  
×××× 裏[口を] 開けたら

ホイツ ナンデモ ナイヨーナケンド  
そいつ[が] 何でも ないようだけれど

ホレイ ミナ カゼカ° ヌケテマウン  
そこへ みんな 風が 抜けてしまうの

ホンデ ヨケイ コリヤ クルン (A アー)  
それで よけい[に] こりゃ [風が]来るの (A ああ)

ホンデ ウラク°チ ニンゲタラ  
それで 裏口[へ] 逃げたら

ウラ コー ハンタイカ°ワ ヌケタラナ  
裏 こう 反対側[へ] 抜けたらね

コ ターット カエツテクルン (A アー カエツテ)  
× たーっと [風が]返ってくるの (A ああ 返って)

ヨコイ ニケ°ナ アカンノヨ (A ウン)  
横へ 逃げなければ いけないのよ (A うん)

64C : タ ナー アノー ユーノニ  
× なあ あのう [人が]言うのに

徳島 26-4

オーキナ シケノ トキニナ (A エー)

大きな 嵐の 時にね (A ええ)

イエカ° ヒックリカエル ト オモタラナ マ

家が ひっくり返る と 思ったらね まあ

トー ハズサレナンダラ ヒックリカエレヘンノヤ ト

戸を はずされなかったら ひっくり返らないのだ と

(A フー) ホンデナ モー ミナミカラ

(A ふー) それでね もう 南から

タイテイ クルデヒョー (A エー)

たいてい [風は]くるでしょう (A ええ)

キタ キタ チャーント アケツパナシトイテ

北 北[を] ちゃんと 開けっ放しておいて

ニケ°ナンダラ イカン チュ

逃げなかったら いけない という

ニケ°タラ ホイタラ

[そうして]逃げたら そしたら

スート ヌクケンナ (A ウン)

[急に]ずっと [風が]抜けるからね (A うん)

フクロニ ナランケン カエランノヤ ト。

袋[小路]に ならないから [家は]ひっくり返らないのだ と。

徳島 26-5

65 B : アー アラ ナニー スルンヨ  
ああ あれは 何 するのよ

モー イカン ト オモトラ ゼンブ トー  
もう いけない と 思ったら 全部 戸を

アケタホーカ° エエン  
開けたほうが いいの

66 C : ト ホー ユーワ。(B ムコーエ スケルケン)  
と そう 言うよ。(B むこうへ [風が]抜けるから)

(A アー) ホイタラ アノ イマナ アノ コトブキノナ  
(A ああ) そうすると あの 今ね あの 寿のね

(A ウン) アノ オアンカ° タットルデヒヨ  
(A うん) あの お庵が 建っているでしょう

アノオアン リッパダッタンヨ  
あのお庵 立派だったのよ

(A エー エー エー) ナー (A エー)  
(A ええ ええ ええ) ねえ (A ええ)

ホイテ ホレ イチネンク°ライデヨ。(A エ)  
それで それ 1年ぐらいよ。(A え)

デ アノ リッパナンカ° タッタン ミテ  
で あの 立派なのが 建ったの 見て

ホイテ アノ ヒラヤジャケンナ  
そして あの 平家だからね

シックラ ヒトッタ ヒトガ オランダヒョ  
////// していた 人が [住んで]いないでしょう

ホイタラ アノー ミ ミナミノホーニ マ  
そうすると あの × 南のほうに まあ

イッケンク°ライ マドカ° アツタンダロナ (A ウン)  
1間ぐらい[の] 窓が あったんだろうね (A うん)

ホデ ハズサレテナ (A エー)  
それで [戸が]はずされてね (A ええ)

ホレモ ヒックリカエサレタン (A アー ホーデー)  
それも ひっくり返されたの (A ああ そうか)

ホレカラ アノー ニシコーノ アレ  
それから あの 西高の あれ

26↑27

キシクシャ ヒックリカエシタンカイネ  
寄宿舎[を] ひっくり返したのかなあ

(A エー エー カエツタンカ° アツタナー)  
(A ええ ええ ひっくり返ったのが あったねえ)

カエツタンヤナ ニシコー ヒック ヒックリカエシトイテナ  
ひっくり返ったのだね 西高[を] ××× ひっくり返しといてね

徳島 27-2

(A ウン) ホレカラ アノー

(A うん) それから あの

ミョーケンサンノナ アノ カネツギドーモ ヒックリカエシテナ  
妙見[寺]さんのね あの 鐘撞堂も ひっくり返してね

{笑} (A エー エー エー \*\*\* ) (B \*\*\* )

{笑} (A ええ ええ ええ \*\*\* ) (B \*\*\* )

オーケナ オーケナ イチョーモ ヒックリカエシテナ (A エ)  
大きな 大きな 銀杏も ひっくり返してね (A え)

ホイデ ホレ スート イテ  
そして それ すうっと 行って

ホノ ヘコキバシノ ニケン ヒックリカエシテナ (A エー)  
その 尻こき橋の 2軒 ひっくり返してね (A ええ)

ホ ホレカラ アノ ミツイッサンナ ミツイシジンシャナ  
× それから あの 三石[神社]さんね 三石神社ね

(A エー) アシコノ オーケナ マツオナ (A ウン)

(A ええ) あそこの 大きな 松をね (A うん)

ニホン ヒックリカエシテナ (A エ)

2本 ひっくり返してね (A え)

ドテニ アツタン ドテ ヒックリカエツッタワ  
土手[堤]に あったのが[が] 土手[に] ひっくり返っていたよ

徳島 27-3

コッチトナ ホイ ホ  
こっちとね ×× ×

67B : アレワナ ヘコクベイ [13]ノ トコワナ  
あれはな 尻こき桶の ところはね

アシコニ シバイコ°ヤカ° アッタ オーキナ  
あそこに 芝居小屋が あった 大きな

シバイコ°ヤカ° タテットケン  
芝居小屋が 建っていたから

ホノ リョーガワカラ ヨーケ カゼガ クルン  
その 両側から たくさん 風が 来るの

68C : ホイテ ホレカラ (A アー)  
そして それから (A ああ)

ホレカラナ タカランダイ イテナ (A ウン)  
それからな 宝田[町]へ 行ってね (A うん)

ホノカゼカ° (A エー)  
その風が (A ええ)

ホイデ アノ クオトリサン チューテナ (A ウン)  
そして あの 黒鳥さん といっってね (A うん)

オカミスカ° アツタンジャ (A エー)  
お神さんが あったんだ (A ええ)

徳島 27-4

アノ サヌキノ シラトリサンニ タイシテ  
あの 讃岐の 白鳥さんに 対して

コッチオ クロトリサン チューンカ° アッタン  
こっちを 黒鳥さん というのが あったの。

ホリヤ ダイブ オーキイナ モリモリト シタ  
そりゃ だいぶ 大きな モリモリと した

ホレ ミーナ ヒックリカエシテ イタワヨ (A ホオー)  
それ みんな ひっくり返して 行ったよ。 (A ほお)

ホレ モー アノ キーガ ナイヨーニナツテモトン  
それ もう あの 木が なくなってしまうているの。

(A エー) ホンダケ オッキョカッタヤナ (A ウン)  
(A ええ) それだけ [台風は]大きかったのだね (A うん)

ホイタラナー アノ コトブキノ ホノ オワンノナー (A エー)  
そうするとねえ あの 寿の その お庵のねえ (A ええ)

タタミカ°ナ (A エー)  
畳がね (A ええ)

イセキマデ イトツタ ト (A ホオー)  
井関まで 行っていた と (A ほお)

ア トンデ (A エー ゴツイ ハナシヤナー)  
× 飛んで。 (A ええ すごい 話だねえ)

徳島 27-5

ホラ オーキカッタデヨー  
それは 大きかったよ

ホタ ウチニ ホ キョネンノ  
そうすると うちの × 去年の

ホジャナ キョネンノ ジューイチカ°ツカシラン  
そうだね 去年の 11月かもしれない

キッタ アノ オーケナ マツカ° アッタンヨ (A エー)  
切った あの 大きな 松が あったのよ (A ええ)

コンナ マツカ° (A エー)  
こんな 松が (A ええ)

ホタラ アノ ミヨッタラナ  
そしたら あの 見ていたらね

ホレカ° ユミミタイニ ナッタンジャ (A エー)  
それが 弓みたいに なったんだ (A ええ)

オトロシケンナ ホノ マエノ ヒトカ° ミヨッテ  
恐ろしいからね その 前の[家の] 人が 見ていて

ウチ ニケ°テ キタン {笑} (A アー)  
うち[へ] 逃げて きたの。{笑} (A ああ)

ハンタイジャ (A エー)  
反対だ (A ええ)

オタク ウチノ マエジャケン ウチカ° カキニ ナルケン  
「お宅[は] うちの 前だから うちが 垣に なるから」

イヤ ホンデモ オトロシテ  
「いや それでも 恐ろしくて

ウチノ イエワ ニカインデ ユルツテ オレンワ テ  
うちの 家は 2階で 揺れて いられないよ」と[いって]

ニケ°テキマシタワ ニモツ モツテ (A アー ナー)  
逃げてきましたわ 荷物 持って (A ああ なあ)

エー ユミミタイナデ  
ええ 弓みたいだね

ホン ホラ モー アノタイフーワ トツテモ キトゥカッタナー  
×× そら もう あの台風は とても きつかったなあ

アンダケノワ アトニワ ナイナ (A アー ネット)  
あれだけの 後には ないね (A ああ ねえ)

ホ ホイテ タカラダナ イエ イッコン ヒックリカエッテナ  
× そして 宝田ね 家 1軒 ひっくり返ってね

(A エー) ムスメハンカ° シンダワ (A フウーン)

(A ええ) 娘さんが 死んだわ (A ふうん)

27↑28

69A : ホナ アノ カワハラノ アタリデナ?  
それなら あの 川原の あたりかな。

徳島 28-2

アノ スジカラ イタラ  
あの [町]筋から 行ったら

70C : カワハラッテ コッチャナ (A ウン ウン)  
川原って こちらだね。(A うん うん)

コ ホンデ ドコ ドコヤ シラン  
× それで どこ どこか 知らない

71A : アノ モト モト イチバカ° アンリョッタデイ。  
あの もと もと 市場が あったね。

72C : セ ナンゾ ダーゾサン ヒトリ シンダナー  
× 何か 誰か ひとり 死んだねえ。

(A コツイナー) ホレカラワ マー  
(A すごいねえ) それからは まあ

タイフー ユーテモ ホンダ キツインワ コンナ。  
台風 [と]言っても そんな きついのは 来ないね。

73A : エー。 イマワ モー シバラク タイフーワ モー  
ええ。 今は もう しばらく 台風は もう

トーノイトルモンナ。(B エー) (C \*\*\* ナー)  
遠ざかっているものね。(B ええ) (C \*\*\* ねえ)

74B : エー タイショージュエネンワ ショーワツヨンジュエネン  
ええ 大正10年は 昭和×40年

徳島 28-3

75A : アー。 ナンサー アノー ワシナー  
ああ。 なんにしても あの 私ねえ

オーミズノ ホノー ナニカ°  
大水の その 何が

ワシカ° ナカヤマデ セワニ ナットッタ ジブンニナー  
私が 中山[小学校]で 世話に なっていた 頃にねえ

(C エー) アレ ナンジャ ヒー ワッセタケンド  
(C ええ) あれ 何だ 日を 忘れたけれど

オオアメカ° フッタンヨ  
大雨が 降ったのよ

ホイテ シタトコロ ワシ モー  
そして [そう]したところ 私[は] もう

ガッコーデ トマッタロ ト オモタンジャケンド  
学校で 泊まってやろう と 思ったのだけれど

オンナノ センシェイカ°  
女の 先生が

ワダジママデ イナンナン (C エー)  
「和田島まで 帰らなければいけない (C ええ)

ワタシ ヒトリデ イヌ チューンヨ (C エー)  
私 ひとりで 帰る」と言うのよ (C ええ)

徳島 28-4

ホナ モー コレ オクッテ インダルワ チューテ  
「それなら もう これ 送って 帰ってやるよ」と言っ

ホイデ ワシモ カエル ヨーイシテモ  
そして 私も 帰る 用意して

ナニモカモ ミナ ホッポットイテ  
何もかも みんな ほうっておいて

ホイデ カサダケデ (C アー) ガッコー デタンヨナー  
そして 傘だけで (C ああ) 学校 出たのよねえ

ホイテー アノー バスカ° ナニマデ デテキタンジャ  
そして あのう バスが 何まで 出てきたのだ

エー アレ ナンゾ クッサカ スンギテ  
ええ あれ 何か 串坂[を] 過ぎて

ホイテ ヤマク°チ キテ ヤマク°チノ マチ ハズレタラ  
そして 山口[まで] 来て 山口の 町[を] はずれたら

モー イ イケレン チューテ トマッテモタン  
もう × 進めない と言っ

(C アー ナー) アノ ノーキョーノ トコロヨ (C ンーン)  
(C ああ なあ) あの 農協の ところよ (C んーん)

ホイテ ドナイスル ユータラ ホンデ ユータラ  
そして 「どうする」 [と]言ったら それで 言ったら

徳島 28-5

ワ ホイテ アノー キシャニ ノル ナニ モッタッテ  
× そして あのう 「汽車に 乗る」 何 /////  
//

キシャニ ノル テ  
「汽車に 乗る」 って

ホイテ アノ ウチワラノ ドテオナ (C エー)  
そして あの 内原の 土手をね (C ええ)

アルク チューンジャワ (C ヘッヘ {笑})  
「歩く」と言うんだよ (C ヘっへ {笑})

ホイタラ モー ホノジブン モー ナニー ドテ サー ト ユー  
そうすると もう その時 もう 何 土手 さあ と いう

マー オーカタ イチメートル アッタンドロカ ネー  
まあ だいたい 1m あったんだろうか ねえ

ホヤケンド ズン ズン ズン イッキョッタラ  
そうだけれど ずん ずん ずん[と] 行っていると

シモエ イキヤー イクホンド  
下へ 行けば 行くほど

ミズカ° ツカエテナ (C エー)  
水が いっぱいになってね (C ええ)

モー ナニヨ ドテ コシソーナンヨ (C エー)  
もう 何よ 土手[を] 越しそうなのよ (C ええ)

28↑29

徳島 29-1

ホラ ヒヤズイタケンドナー  
そら ひやひやしたけれどねえ

ホンジャケンド ホノー センセイ イ  
そうだけれど その 先生 ×

イナナンダラ グワイ ワルイ チュー  
「帰らなかったら 具合[が] 悪い」と言う

ホナ モー ツレテイタルワ ツレテ  
それなら もう 「連れて行ってやるよ」 [と]連れて

イッキョッタ\*\* ホイテ アノー モ  
行っていたら\*\* そして あのう ×

トニカク モー アノー オマエラ  
「とにかく もう あの おまえ

カワノ ミズノホーオ ミヨレ ト  
川の 水のほうを 見ている」と

ワシ アノー ホリ コノ ドテ ホリオカ°サレタラ  
「私[は] あのう ×× この 土手[が] 掘りおこされたら

ミズカ° ワイテキテ シテ ナカ°サレテシマウケン  
水が 涌いてきて そして 流されてしまうから

ワシャ シタ ミルケン (C ウン)  
私は 下[を] 見るから (C うん)

徳島 29-2

タンボノホー ミルケンネ ツーンデ  
田んぼのほう[を] 見るからね」と言うので

ミワデ リョーホー コー ミヨツテ ホイデ ハシツテキヨツタンヨ  
××× 両方 こう 見ていて それで 走ってきていたのよ

ホイデ チューカ°ッコーノ トコロイ  
そして 中学校の ところへ

クワノチューカ°クマデ キタトキニ  
桑野中学校まで 来た時に

アトカラ サンリン[14]カ° キテ (C へー)  
後から 三輪自動車が 来て (C へえ)

ア ノランセ アルイテ イッキョツタラ  
× 「乗りなさい 歩いて 行っていたら

ドンナコトニ ナルヤ ワカランゼ ッテ  
どんなことに なるか わからないよ」と

ホイデ ノセテクレテ (C エー)  
それで 乗せてくれて (C ええ)

ホレカラ クワノノ マチマデ イタンヨ (C エー)  
それから 桑野の 町まで 行ったのよ (C ええ)

ホイタラ クワノノ マチマデ キタトコロカ°  
そうすると 桑野の 町まで きたところが

徳島 29-3

クワノノ マチモー モー カワニ ナッテモトノヨ  
桑野の 町も もう 川に なってしまっているのよ

(C エー {笑})

(C ええ {笑})

ホンデ コレワ ドシテモ アノー ナニノホーイワ  
それで これは どうしても あの 何のほうへは

ナカ°イケノホーエワ デレズ  
長生のほうへは 出られず

ホレカラ アノー ナニ アレ タチバナニモ デレン  
それから あの 何 あれ 橋にも 出られない。

ケッキョク アノー モ イッペン ナンジャワ  
結局 あの もう 一度 何だよ

アレ ナンチューホーゼ? エー ヤマノ ホーエ  
あれ 何というほうか? ええ 山の ほうへ

イカナンダラ アカンノヤナ (C エー)  
行かなかつたら だめなのだね (C ええ)

アノー ヒカ°シヤマノホーエ ホンデ ホレケレ  
あの 東山のほうへ それで ××××

アノ ケッキョク ヤマエ マタ ホノ サンリン  
あの 結局 山へ また その 三輪自動車[が]

徳島 29-4

ホンデ ハコンダケ°ルワ ッテ ハコンデクレテ (C エー)  
それで 「運んであげるよ」 って 運んでくれて (C ええ)

ホイテ ズート イテ  
そして ずーっと 行って

アノー ヒカ°シヤマトンネル クグッテ (C エー)  
あのう 東山トンネル[を] 抜けて (C ええ)

ホイデ オリテキタン (C フーン)  
そして 下りてきたの (C ふうん)

ホイデ クグイ[15] キタトコロカ°  
そして 鶺[へ] 来たところが

クグイモ ハヤ モー ツカテ アカンノヨ (C アレー)  
鶺も はや もう 浸水して だめなのよ (C あれ)

ホイテー ショーナイ ドーロモ アルイテキタ \*\*  
そして しかたがない 道路も 歩いてきた \*\*

ホノジブンカ° キタラ アノ ナンデヨ  
その時が きたら あの 何よ

ツブシ ツカルンヨ (C エー)  
膝[が] つかるのよ (C ええ)

ドーロカ° ホレオ ジャブジャブ ジャブジャブ {笑}  
道路が それを じゃぶじゃぶ じゃぶじゃぶ {笑}

オンナノ センセエイノ ニモツ オーテ  
女の 先生の 荷物[を] 背負って

オマエ モー カラダダケ イトケ チューテ  
「おまえ もう 体だけ[で] 行っておけ」と言って

ホイテ {笑} ホイテ ドーゾ コーゾ  
それで {笑} そして どうにか こうにか

アノ マー タチバナノ マチ ハイッタン (C へー)  
あの まあ 橘の 町[へ] 入ったの。(C へえ)

ホイタラ マチ ハイッテ アノー  
そしたら 町[へ] 入って あの

バスカ° デ デルカ デンカ キイタラ  
バスが × 出るか 出ないか 聞いたら

バス モー デーヘン チューンヨ  
「バス[は] もう 出ない」と言うのよ

29↑30

ホレー アノー ダイブ ジカン カカッタンヤケンド  
それで あの だいぶ 時間 かかったのだけれど

モー ヒノクレニ ナッテモタンヤケンドナー アノー  
もう 日暮れに なってしまったんだけどねえ あのう

ドーシテモ イヌ マタ イヌ チューモンジャケン  
「どうしても 帰る」 また 「帰る」と言うものだから。

徳島 30-2

ホナ モー {笑} シャーナイ  
「それなら もう {笑} しかたがない

ホナ ハイヤー カランカ チューテ  
それなら ハイヤー[を] 借りようか」と言うて

ハイヤーデ アノー ナニヨ タチバナエキマデ イタン  
ハイヤーで あの 何よ 橋駅まで 行ったの

ホイタラ アノー タチバナエキ  
そうすると あのう 橋駅[で]

キシヤ トマツテモトンヨ  
汽車[が] 止まってしまっているのよ

アノー クワノノ ホノ {笑} トンネル デタトコ  
あの 桑野の その {笑} トンネル[を] 出たところ[が]

アカン チューテ {笑} (C エー {笑})  
だめだ と言つて。 {笑} (C ええ {笑})

ホレカラ ショーノーテ アノー マタ コンド  
それから しかたがなくて あの また 今度[は]

シェンロオ トオツテナ (C エー)  
線路を 通つてね (C ええ)

ホイデ トミオカマデ アルイテイタン  
そして 富岡まで 歩いて行ったの

徳島 30-3

ホタ トミオカノ エキデ アノー  
そうすると 富岡の 駅で あの

キシヤカ° デルカ デンカ キータッタ  
汽車が 出るか 出ないか 聞いてやったら

イマカラ マー アノー ニジップンク°ライ シタラ  
「今から まあ あの 20分ぐらい したら

ココカラ オリカエシマス チューンデ  
ここから 折り返します」と言うので

ホナ オマエ モ コレニ ノッテ イネ チュータン  
「それじゃ おまえ もう これに 乗って 帰れ」と言ったの。

(C エー) ホイデ イナシタ コトガアル  
(C ええ) そして 帰らせた ことがある

(C エライ メニ オータナー {笑})  
(C たいへんな 目に あったねえ {笑})

ホラー モー アノジブーワ モー  
そら もう あの時は もう

(C イノチカ°ケジャワ {笑} ナー)  
(C 命がけだよ {笑} ねえ)

エー トニ イチバン ゾンズイタンワ  
×× ×× いちばん ぞくぞくとした[=恐ろしかった]のは

徳島 30-4

クワノノ ホノ ドテオ  
桑野の その 土手を

(C ホー ジャナ ホン マニ ホレ イノチカ° ケジャ)  
(C そうだねほんとうに それ[は] 命がけだ)

モー チューカ° ッコーノ アタリ キタラ  
もう 中学校の あたり[へ] 来たら

ホン マニ コー ハナシ オッキョー\*\*\*  
ほんとうに こう 話[が] 大きい\*\*\*

サンジッセンチグライカ ナカッタナ  
30cmぐらいしか [川の水との開きが]なかったな

(C アー ホーデー) ズート トーテタラ テントカ° ホラ  
(C ああ そうか) ずっと 通っていたら ×××× ほら

シタ ワッキョレヘンカイナ トモテ  
「[堤の]下[から] [水が]涌いていないかな」 と思って

イッショケンメイ シタ ミテ  
一生懸命 下[を] 見て

オマエラ カワラ ミーヨ チューテ  
「おまえ 川を 見ろよ」 と言って

トットツ トットト  
とつとこ とつとこと[急いで歩いた]

徳島 30-5

カサヤ モットッタッテ  
傘など 持っていたって

カサヤ ナンジャニ ナラン  
傘など[は] 何にも ならない[=役に立たない]

(C ナー) エー タタン dont イッショヤ。  
(C なあ) ええ 折りたたんでいるのと 同じだ。

76B : ド ド ドーシテモ コー ユー ユー ユコ°ク。  
× × どうしても こう ×× ×× [堤が]動く。

77A : ウン ユコ°クンヨ ホレワナ ユコ° ジブンモ  
うん 動くのよ それはね ×× 自分も

カ カカ カゼデ カラダモ {笑} ユレルケンドナ ヤ  
× ×× 風で 体も {笑} 揺れるけれどね ×

ドテモ タシカニ ウコ°ッキョッタ ト オモウワ (C マー)  
土手も 確かに 動いていた と 思うよ (C まあ)

ホラーワ アノトキワ ソンズイタワ  
それは あの時は ぞくぞくした[=恐ろしかった]よ

(C ナー)  
(C なあ)

ヨー マー アレ マー ブジニ モドレタ モンジャナ  
よく まあ あれ まあ 無事に 帰れた ものだね

徳島 30-6

ホナケンド ケツキョク ドテワ キレナンダケンドネー  
そうだけど 結局 土手は 切れなかったけれどねえ

ホレカラ ホレカ° モー ゼッチョーダッタラシイ  
それから それが もう [嵐の]絶頂であつたらしい

ワシラカ° モー トータンカ° エー  
私たちが もう 通ったのが ええ

78C : X5ハンヤ ナニー ナナツク°ライノ ジブンニナー  
X5さんなど 何 七つぐらいの 頃にねえ

(B エー) アノ ニシコーノ ニシテジャワナー アノ  
(B ええ) あの 西高の 西側だよねえ あのう

(B カカリョハン[16]カエ) カカジャハン チューンジャ  
(B カカリョハンか) カカジャハン と言うのだ

コー アシコカ° キレテ ミズカ° デタッテナー  
こう あそこが 切れて 水が 出たってねえ

(B エー アノヘン キレタ)  
(B ええ あのへん [堤防が]切れた)

キレタンジャ ト (B キレテ カカジョハン キレタ)  
切れたんだ と (B 切れて カカジョハン 切れた)

キレテナ テ ウチラノ マエマデナ (B エー)  
切れてね × うちの 前までね (B ええ)

フネカ° トーッタ チュ (A フウーン)  
舟が 通った と言う (A ふうん)

30↑31

シュジンカ° ナナツク°ライノ トキダッタン  
主人が 七つぐらいの 時だったの

(A エー。アー ホーデー)

(A ええ ああ そうか)

ト ホノヨデ ズート ホノ マー  
と そのようで ずっと その まあ

ナンゾニワ イットンダロケンドナー (A ウン)  
何か[の本]には 入っているだろうけれどねえ (A うん)

モー ダイブ ホラ ヒ ヒャクナンネンモ マエダロナー  
もう だいぶ そら × 百何年も 前だろうなあ

ホノトキニモ アノ  
その時にも あの。

79B : アノジブン コンドワ テイボーカ° ナー  
あの頃 今度は 堤防が ねえ

(C テイボーカ° キレタンジャナ)

(C 堤防が 切れたんだね)

カワ ヨーニショーカ° ナー (A エー)  
川 //////////////// ねえ (A ええ)

徳島 31-2

ヒロニ ナットントナ (A エー)

広く なったのとね (A ええ)

テーボーカ° タカニ シタントデ シンマ マー  
堤防が 高く したのとで ××× まあ

シンパイワ ナイワ ミズワナ (C ホージャナ) (A ウン)  
心配は ないよ 水はね (C そうだね) (A うん)

(C シンパイワ ナイワナ)

(C 心配は ないよね)

デ ナンノ ジブンニ タイショーハチネン ヒチネンカ  
で 何の 頃に 大正8年 7年か

ホイト タイショークネン テイボーヨリモ  
それと 大正9年 堤防よりも

ミズカ° ニサンジャク[17]ト アガッタンジャ (A フウーン)  
水が 2、3尺と あがったのだ (A ふうん)

ヒクイトコ ミナ コエタン (A エー)

低いところ[を] みんな [川が]越えたの (A ええ)

ホイタラ アノ アタリ ミツイッサン トコ アタリナ  
そうすると あの あたり 三石[神社]さん[の] ところ あたりね

(A アー ナー)

(A ああ ねえ)

徳島 31-3

アシコ ツツ タタミ モッテイッテ オイテナ (A エー)  
あそこ ×× 畳 持って行って 置いてね (A ええ)

ドヒョー シテ  
土俵[を] して

ホイデ タタミ ス セイセカラ キタン (C アー)  
そして 畳[で] × [水を]せき止めてから きたの (C ああ)

ホイタラ フクスケノ アタリ ウラ ヒクインデヨ  
そうすると 福助[商店]の あたり 裏[が] 低いのよ

アノ アノヘンモ  
あの あのあたりも

80A : アー ホージャッタ ホージャッタナ  
ああ そうだった そうだったね

アッコ ヒクカッター マエ  
あそこ 低かったねえ 前[は]

81B : モー イエカ° クラカ° アッテ ホレ  
もう 家が 蔵が あって それ[で]

クダデ モー コタエトルケンドナ (A エー)  
蔵で もう [水を]おさえているけれどね (A ええ)

アレ ヒクカッタ アレ ドッド ドッド  
あれ 低かった あれ どっど どっど[と]

徳島 31-4

ミズカ° キタンジャ アレナ (A エー)  
水が きたんだ あれね (A ええ)

82A : X6サンカ° \*\* ドッテカ°  
X6さんが \*\* 土手が

キレイニ デキトルケンド アレー ナニ  
きれいに できているけれど あれは 何

ジドーフクシホーカ° デキタ ジブンニナー (C エー)  
児童福祉法が できた 頃にねえ (C ええ)

アノー X7ハンカ° クワイチョー ショッタ ジブン  
あの X7さんが 会長を していた 頃

(C エー) アッコデ コドモノ ウンドーカイオ シタン  
(C ええ) あそこで 子供の 運動会を したの

アノ コドモノ ヒニ (C エー) ホラ アノジブンニ  
あの 子供の 日に (C ええ) ほら あの頃に[は]

ドテヤ ユー ドテデ ナカッタモンナ  
土手など [と]いう 土手で なかったものね。

(B アノ ドテ アソコ ナカタンヨ) (C ナカッタ)  
(B あの 土手 あそこ なかったのよ) (C なかった)

ウ ウ ア フクスケノ クラ コエタラ  
× × × 福助[商店]の 蔵[を] 越えたら

徳島 31-5

スク°ニ カワニ \*\*\*  
すぐに 川に[なっていた]。 \*\*\*

83B : ソ アレカ° ドテダッタンジャ (A ウン)  
× あれが 土手だったんだ (A うん)

X8ノ モ モッチャナー (A エー)  
X8の × 餅屋ねえ (A ええ)

アソコ アレ ミーナ ズート ム ム ムカシノ ドテジャ  
あそこ あれ みんな ずっと × × 昔の 土手だ

アレカ° (A アー)  
あれが (A ああ)

84C : ホイタラ アレ アレオ ズート ミズカ° ナカ°レテナ  
そうすると あれ あれを ずっと 水が 流れてね

(B ーン) シンマチ ナカ°レコンデ  
(B うん) 新町[に] 流れ込んで

ソーンドー イタ チョッタワー (A アー) ナー。  
騒動[が] 起こった と言っていたよ。(A ああ) ねえ。

85B : アレ イッケンク°ライ サカ° アノ ホレタンジャモン  
あれ 1間ぐらい ×× あの 掘れたんだもの

アシコノ サカカ°。  
あそこの 坂が。

86C : イマワ アンゼンナモンジャ オカケ°デナ。  
今は 安全なものだ おかげでね。

87A : ウン イマワ モー キレイニ デキタワナー。  
うん 今は もう きれいに [堤防が]できたよねえ。

88B : ホンデ テイボーノ ソ モトノ マー ドテノ ソトエカ°ワエ  
それで 堤防の × もとの まあ 土手の 外側へ

モトツ テイボー デキタ ワケジャケンドナー。  
もうひとつ 堤防が できた わけだけれどなあ。

89A : ホージャナ。 キューノニ。  
そうだね。 もとのに。

31↑32

90B : ホンデ ホノ ニブン[18]ニナー ドテイボー  
それで その 時にねえ 堤防[の]

ウチラカ°ワデモナー カキー ミズカ° フクンドンデヨ。  
内側でもねえ ××× 水×[を] 含んでいるのよ。

タケ モッテイテ コー ツキサイタラナー (A エー)  
竹[を] 持って行って こう つきさしたらねえ (A ええ)

ホイテ ヌイタラ フンスイ ミタイニ  
そして 抜いたら 噴水 みたいに

コレクライ ミ ミズカ° アカ°ルンデヨ (A ホー)  
これくらい × 水が 上がるのよ (A ほう)

徳島 32-2

ダイショー ナニ (C ン一) アレ クネンカ クネントナ  
大正 何 (C うん) あれ 9年か 9年とね

ヒチネン ヒトヨカ°リ コドモノ ジブン ナ (A エー)  
7年 ××××××× 子供の 頃 ね (A ええ)

ヤンリョットタンヨ。  
していたのよ。

ホタラ タケヨ ソユ サイテ サイテ  
そうすると 竹を そういう[ふうに] さして さして

コー ヌイタラナー ニシャクク°ライ ピュート モ  
こう 抜いたらねえ 2尺ぐらい ぴゅうと ×

フンスイミタイニ トンビヤカ°ルン (A フーン)  
噴水みたいに [水が]飛びあがるの (A ふうん)

ホンダケ (A スコ°イ アツリョクカ° アッタンジャナ)  
それだけ (A すごい 圧力が あったんだね)

エエ アツリョク ミズカ° モー フクンドンジャナ。(A エー)  
ええ 圧力 水が もう 含んでいるんだね。(A ええ)

ドテカ° ドコゾ ミナ。  
土手が どこも みんな

ナ ホナイ ナリダータラ \*\*\* キレルン ハヤインヨ。  
× そういうふうになり出したら \*\*\* 切れるの 早いよ。

91A : ホーヤナ。  
そうだね。

(C ク°ジャ ク°ジャ シトンジャナ {笑})  
(C ぐじゃ ぐじゃ しているんだね {笑})

ホイタラ モー キレルン ハヤイワ ナー。  
そうすると もう [堤防が]切れるの[は] 早いよ ねえ。

92B : ナカ アノヘンワ マー ムカシノ タケヤブ ダッタケンナー  
×× あのあたりは まあ 昔の 竹藪 だったからねえ

(A エー) ハヤニ モットツタンジャ。  
(A ええ) // / もちこたえていたんだ。

93A : アー タケノ ネットコデ モットツタン。  
ああ 竹の 根っこで もっていたの。

94B : エ タケノ ネットコデナ (A アー)  
ええ 竹の 根っこでね (A ああ)

アンナトコ ヒョーシニ ドーント  
あんなところ[を] 拍子で どーんと

キーデモ ナン ブツカッターラ モー キレルンジャワ。  
木でも ×× ぶつかったら もう 切れるんだよ。

95C : アー ホージャナ。  
ああ そうだね。

徳島 32-4

96A : モー ナー コノアメデ ホイタラ アノ  
もう ねえ この雨で そうすると あの

クワノカ°ワデ アノー イッペン アノ ナニー アノナ  
桑野川で あのう 一度 あの 何 あのね

アキ オソーニ エ フツテ  
秋 遅くに × 降って

マ ホノジブン トリイレモ オソカッタケンド  
まあ その頃 取り入れも 遅かったけれど

ヨーケ イナタバカ° ナカ°レタ コトカ° アルデー  
たくさん 稲東が 流れた ことが あるよ

(C アッタナー) ウーン  
(C あったねえ) うん

アレ ヤクバノ キューヤクバノ ウラエ  
あれ 役場の 旧役場の 裏へ

ヨーケ イナタバ ツンドル コトカ° アッタゼー。  
たくさん 稲東[を] 積んでいる ことが あったよ。

(C ア ホーデー {笑}) ウン ホナケンド  
(C あ そうか {笑}) うん そうだけれど

ダレニ クバツテ エーヤ ワカレヘン。(C エー)  
誰に 配って いいか わからない。(C ええ)

徳島 32-5

ミナニ シルシ シテナイデーナー {笑}  
みんなに 印[を] つけてないよねえ。 {笑}

97B : ホタラ クワノヘンナ (A エー)  
そしたら 桑野のあたりね (A ええ)

クワノデモ ヨーケ ナカ°レルンヨ (A アー)  
桑野でも たくさん 流れるのよ (A ああ)

アノ オージノ ナニー ヤマテカ°ワナ  
あの 大地の 何 山手側ね

コッチ ヒンカ°シカ°ワナ (A エー)  
こっち[の] 東側ね (A ええ)

アシコノ ナニ チューンダー ニコ°リカ°フチナ (A エー)  
あそこの 何 というのだ 濁ヶ淵ね (A ええ)

アレエ ミナ ナカ°レコンデ クルン。(A フン)  
あれへ みんな 流れ込んで くるの。(A ふん)

ホタ アノ ムコノ デンチン ミナ ウイテ クルケンド  
そうすると あの 向こうの / / / / みんな 浮いて くるけれど

ドコノヤ ワカラン。  
どこのか わからない。

98A : ワカランノヤナー。 ホラー ソートーニ  
わからないのだねえ それは 相当に

イナブラミタイニ トッ トッ トットルノカ° アッタデヨー。  
藁塚のように ×× ×× 取っているのが あったよ。

99C : ホーダロナー ナ ミズカ°。  
そうだろうねえ × 水が。

100A : ワケル タッテ ワケ\*\*\* (C エー)  
分ける といったって 分け\*\*\* (C ええ)

ドナイ シタンダロ ワシヤ {笑} \*\*\*ヤケン  
どう したのだろう 私など {笑} \*\*\*///

ワカランノンヤケンド。 ワケヨーカ° ナイ。  
わからないのだけれど 分けようが ない。

32↑33

101C : ミズモ クワ クワジモ オトロシケンド  
水も ×× 火事も 恐ろしいけれど

ミズモ オトロシナー。  
水も 恐ろしいねえ。

102A : ウン クワ ワシ ホラ ミズノホーカ° オ オソロシナ。  
うん ×× 私[も] それは 水のほうが × 恐ろしいね。

カジワ ダイタイ アレ (C ハー)  
火事は だいたい あれ (C はあ)

アノー ヒトツニ コー クキ°ラレルケド マ マ  
あの 1か所に こう 区切られるけれど。 まあ ×

徳島 33-2

ハイニ シェラレテシマウケンドナー {笑} (C エー)  
灰に させられてしまうけれどねえ {笑} (C ええ)

ミズワ コー ゲンドカ° ワカランヨーナ キカ° シテナー。  
水は こう 限度が わからないような 気が してなあ。

(C エー) オソロシワー。

(C ええ) 恐ろしいよ。

ホイト フク カゼヤッテナー ドンダケ フイテクルンヤ  
それと 吹く 風だってねえ どれだけ 吹いてくるか

サッパリ ワカランケン {笑}  
さっぱり わからないから {笑}

ウチノイエヤ モー ヨー ユレルンデヨ。(C ホーデー)  
うちの家など もう よく 揺れるのよ。(C そうか)

ウン モー ワシラ \*\*  
うん もう 私たち[は] \*\*

シッケノモ イチバン スカン。  
嵐の[時]も いちばん 好きではない[=いやだ]。

103B : \*\*\* ウチモ イチバン キライ \*\*\* (C ホーデー)  
\*\*\* 私も いちばん 嫌いだ \*\*\* (C そうか)

104A : ニカイヤ オッタラ  
2階など いたら

徳島 33-3

フネン ノットント イッショヨ。 (C ヘエ)  
舟に 乗っているのと 一緒よ。 (C ヘえ)

(B ホナケン モー) ユラユラ ユラユラ  
(B だから もう) ゆらゆら ゆらゆら

105 B : ヤネ トバサレタケン ノイローゼミタイニ ナットン。  
屋根[を] 飛ばされたから ノイローゼのように になっているの。

(C アタラシーノニナ)  
(C 新しいのにね)

106 A : ウン アタラシケンド アノー ユレルン  
うん 新しいけれど あの 揺れるの[は]

ホタラ ホレオ ナー アンマリ ドキショク ワルイケン  
そうすると それを ねえ あまり 気色[が] 悪いから

アノー ナニジャ アレ X9ハン チューテ  
あの 何だ あれ X9さん といって

アノー キョーインノ ジム キョ  
あのう 教員の 事務 ××

キューリョー カンケイノ ジム ショー ヒトガ° アツテナー。  
給与 関係の 事務[を] している 人が あってねえ。

アノ ケ ギケンノ ニーサンニ ナルンカイナ  
あの × // // の 兄さんに なるのかな

徳島 33-4

ナンヤ シランノンヤケンド ケンチクノ シェンモンカ  
なんか 知らないのだけれど 建築の 専門家。

ホノ ヒトニ シェンモンヤケン  
その 人に 専門だから

ウチノ イエ オマーン チョット ファイター  
「うちの 家 おまえ ちょっと [風が]吹いたら

ジキニ ユレルンジャ アレ オマン カエレヘンカエ テ  
すぐに 揺れるんだ あれ おまえ 倒れないか」 と

ヨーナコト トータン。  
というようなこと[を] 聞いたの。

ホンナ ユレルヤツ カエルンチャウンカエ ユータラ  
「そんな 揺れるやつ[は] 倒れるのではないか」 [と]言ったら

イヤ アノー ショーショー ユレルンカ° ヒ ヒ アノー  
「いや あのう 少々 揺れるのが × × あのう

ヨユーカ° アッテ エーンジャ カエレヘンノヤ テ  
余裕が あって いいのだ 倒れないのだ」 って

ホー ユーテクレタン。  
そう 言ってくれたの。

ホイデ ワシ ホレカラ アンシン シトンジャ。  
それで 私 それから 安心 しているのだ。

{笑} (C {笑})

{笑} (C {笑})

107B : アノ ミズノナ カワノ アッ ミズヤッタ \*\*\*  
あの 水のね 川の あっ 水だった \*\*\*

アノナ (A アー) カゼノ トール イチニ ヨルンジャナ。  
あのね (A ああ) 風の 通る 位置に よるのだね。

アッコノ カゼカ° \*\*\* ナイラシーデヨ。  
あそこの 風が \*\*\* ないらしいよ。

アノ アンタノ ミナミガワナー (A エー)  
あの あんた[の家]の 南側ねえ (A ええ)

ア ホレニ アノ シクハイデンナ (A アー)  
あ それに あの 四国配電ね (A ああ)

カゼ フケヘン テ。  
風[が] 吹かない って。

108A : フーン ウチラナー チョード アレ ホノー  
ふうん 私たちねえ ちょうど あれ そのう

イケダノホーカラ デテクル マドン ナットツタンジャナ。  
池田のほうから 出てくる 窓に なっていたんだね。

109B : サ ウチノ イエモ ホーヨ。  
× うちの 家も そうよ。

アッチカラ イケダミチカラ デテクルダー (A ウン)  
あっちから 池田[の]道から 出てくるよ (A うん)

モー ギン タイフーノ ギンザジャ。 (A ホー)  
もう ×× 台風の 銀座だ (A ほう)

33↑34

ホンデ アッチ ナニー キーテ ミテミナーレ  
それで あっち 何を 聞いて みてみなさいよ

アノ イマノ シコクハイナーノ フキンナー (A エー)  
あの 今の 四国配電の 付近ねえ (A ええ)

アスコワ ミズカ° デルケド  
あそこは [川の]水が 出るけれど

ンデ ヒクイケンドナー (A エーエ)  
それで 低いけれどねえ (A ええ)

カゼワ シンパイ ナイン。  
風は 心配 ないの。

110A : アレ アノ ヤッパリ ハチマンサンノ ヤマノ。  
あれ あの やっぱり 八幡さんの 山の。

111B : ヤマ ヤマノ カケ°ジャケン (C \*\*ナー)  
山 山の 陰だから (C \*\*なあ)

アノ アノ シタ アタリワ モー  
あの あの 下 あたりは もう

徳島 34-2

112A : ヨー ユレテ ユレテナー ホラ ホンマニ  
よく 揺れて 揺れてねえ それは ほんとうに

コラ カヤッテ シマエヘンカ ト ヨー シンパイショッタン。  
これは 倒れて しまわないか と よく 心配していたの。

113C : ミチ ツケタラナ  
道[を] つけたらね

ホノ ミチー ヨ アノ カゼ ッテ クルナ。(A アー ナ)  
その 道へ × あの 風 って 来るね。(A ああ ね)

ホンデナ アノ ヒカ°シノホーエ  
それでね あの 東のほうへ

ボツボツナ コー ミチカ° デケタデナ。  
ぼつぼつね こう 道が できたよね。

アノ コクドーイ デル。(A エー エー)  
あの 国道へ 出る。(A ええ ええ)

ホンデ ウチラ ダイブ チカ°ウ  
それで 私たち だいぶ 違う

チコ°テキタワ (A アー ホーデー)  
[風のあたりが]違ってきたよ。(A ああ そうか)

ホノ スジー ノッテ スーット イクンジャナ (A ウン)  
その [道の]筋に 乗って すっと 行くのだね (A うん)

徳島 34-3

マー ミチ ッテ ユータラ オカシケンダー。  
まあ 道 っ て いったら おかしいけれどねえ。

(A エー ハイ) イエカ° タッテ  
(A ええ はい) 家が 建って

ホノ ト アノ アインダ イクヨーニ イクンカナ  
その × あの 間[を] 行くように [吹いて]いくのかな

コンヨーナッタ ンダイブ。  
[風が]来なくなった。 だいぶ。

114B : ホタ ナニカ° アルンヨナ  
そうすると 何が あるのよね

イエニヨッテ チャウンダロナー。  
家によって 違うんだろうねえ

アノ ウチカ° イエ タテル マエワナ。  
あの うちが 家 建てる 前はね

アシノ オテラカ° アンダー。 (A エー)  
あそこの お寺が あるね。 (A ええ)

コーエンジャー (A エー)  
高円寺ねえ (A ええ)

アシノ カゼカ° ブ ヨーケ アタリヨッタラシー。  
あそこ 風が × たくさん あたっていたらしい。

徳島 34-4

115A : アー ウン ホーガシラモ ホナッテナー  
ああ うん // // // も だってねえ

アッコノ イチョーノ キ オレタン。カナ\*\*  
あそこの 銀杏の 木[が] 折れたの。 // \*\*

116B : ウチー イエカ° デケテカラナー  
うちの 家が できてからねえ

カゼカ° ヘッタン チュー (A ウーン)  
風が 減ったの という (A うーん)

ヤッパリ ウチカ° ウエ (C ウケテ ウケタンジャナ)  
やっぱり うちが ×× (C 受けて 受けたんだね)

(A ア\*\*) ホタラ コンド ウチカ°  
(A あ\*\*) そうすると 今度 うちが

マー アシコデ タイフー<sup>ン</sup>ギンザ トメタルケン  
まあ あそこで 台風銀座 止めてあげるから

ヨーケ カゼ ウケルン。  
たくさん 風[を] 受けるの。

ホナケン ヤネ トバサレテ モー キショク ワル。  
だから 屋根[が] 飛ばされて もう 気色 悪い。

カゼ タイフーガ イチバン キショク ワルインジョ。  
×× 台風が いちばん 気色[が] 悪いのよ。

徳島 34-5

(A アー ナー) アンダケ カゼノ フクト  
(A ああ なあ) あれだけ[の] 風が 吹くと[は]

オモイカ° ヨラザッタ[19]。 {笑}  
思い×[も] よらなかつた。 {笑}

117C : ホージャナー ケンド アノトキニワナ  
そうだな けれど あの時にはね

ヨー ドンナ ケンチクホーオ シタルヤ シラン  
よく どんな 建築方法を してあるか しらない[が]

ウエノ ヤネダケカ° ヨーケ トンダナ。  
上の 屋根だけが たくさん 飛んだね。

118A : ホージャナ アノー ジブン。 \*\*\*  
そうだね あの 頃。 \*\*\*

119C : アッチニモ コッチニモナ。  
あっちにも こっちにもね

ヤネダケ ウエエ トッ。  
屋根だけ 上へ ××

120B : ヤネ トンダ イエ ミナ ス アタラシー イエカ°。  
屋根 飛んだ 家[は] みんな × 新しい。 家が。

121C : アタラシー イエ。  
新しい 家。

徳島 34-6/35-1

122B : ホンデ クキ° ウッテナ クンカ° アタラシケン。  
それで 釘 打ってね 釘が 新しいから。

サンネンオ シタラ クンカ° サビルケン  
3年を したら[=過ぎたら] 釘が さびるから

へバ ヌケンラシーワ。  
×× 抜けないらしいよ。

123A : アー ホーケー マー ナンセ ホノ  
ああ そうか まあ なんでも その

124B : タイタ スグワ クンカ° ジキ ヌケルンヨ。  
建てた すぐは 釘が すぐ 抜けるのよ。

125A : アノ モ ヤネ ヤネダケカ°  
あの も 屋根 屋根だけが

トンダ チューノオ ヨー キートンネ。  
飛んだ というのを よく 聞いているね。

126C : X4ノナー アノ オイシャハンノ (A ンー)  
X4のねえ あの お医者さんの (A うん)

ヤネカ°ナ ト トンデ アノ ナニジャ  
屋根がね × 飛んで あの 何だ

34↑35

X10サンク トンデキタ ヅチュ {笑}  
X10さん宅[へ] 飛んできた という。{笑}

徳島 35-2

127 A : マー タイフーワ ホンマニ オソロシワ。  
まあ 台風は ほんとうに 恐ろしいよ。

ドンナ テードデ オサマツテクルヤ ワカラケンケン。  
どんな 程度で おさまってくれるか わからないから。

128 C : ワカラケンケンナー カゼワ。  
わからないからねえ 風は。

129 A : マー アレデ ホテデノ ナニカ° トチガ ツカルケンナー。  
まあ あれで ×××× 何が 土地が 浸水するからねえ。

ホラ ワシ ホノ ナカヤマカラ モンテキョッタ ジブンニ  
ほら 私[は] その 中山から 帰ってきていた 頃に

エキカラナー (C エー)  
駅からねえ (C ええ)

モー ナニヨ アレ ズーット アルイテ モンタンヤケド  
もう 何よ あれ ずっと 歩いて 帰ったんだけど

アレ モー ゼンブ ツカッテモトンヨ  
あれ もう 全部 浸水してしまっているのよ。

エキガ チョット タカイケンナ (C アー)  
駅が ちょっと 高いからね。 (C ああ)

エキ スルスルデ ミズカ° トマツトン。  
駅[は] すれすれで 水が 止まっているの。

徳島 35-3

ホイテ ホレカラ チョット コッチー キタラ  
それで それから ちょっと こちらへ 来たら

モー ズーット ツカッターシ  
もう ずっと 浸水しているし

シマイニ オーカタ アッ コレ コノ  
最後に[は] だいたい ×× ×× この

モモノ ハンプンマデ キタモンナー。 (C エー)  
腿の 半分まで [水が]きたものねえ。(C ええ)

エー ホイタラ モー ホコラ ミナ マチニ  
ええ そうすると もう そこら みんな 町に

ザー カカ°ットンヨ (C ウーン)  
// // // // // (C うーん)

アノー イマノ X11ハンノ コメヤハンノ アタリナ。  
あの 今の X11さんの 米屋さんの あたりね。

(C エー コクドースジカラ アノアタリナ ヒクインジャ)  
(C ええ 国道筋から あのあたりね 低いんだ)

(B アノヘン ヒクインジャ)  
(B あのあたり[は] 低いんだ)

ホイタラ キタナイ キタナイナー。  
そうすると 汚い 汚いねえ。

徳島 35-4

ホイタラ スポーツセンターデ  
そうすると スポーツセンターで

ミズ カエヨンデショ (C エー)  
水[を] 換えているでしょう (C ええ)

ホイタラ アノホリ フターツカ° イマコソ フタ シタール  
そうすると あの堀 2本が 今でこそ 蓋[を] してある

フタ シテナカッター  
蓋[を] していなかったら

ドット ナカ°レヨンヨ。 (C アー ホーダロナ)  
どっと 流れているのよ。 (C ああ そうだろうね)

ホタ マンナカ ミチジャケンド  
そうすると 真ん中 道だけれど

モー イッポンノ カワニ ナッテモトンヨ  
もう 1本の 川に なってしまっているのよ。

(C アー ホーダロナ)  
(C ああ そうだろうね)

ホンデ アレオ アレオ ワタッタロ ト オモタケンド  
それで あれを あれを 渡ってやろう と 思ったけれど

アブノーテ トーレン (C エー)  
危なくて 渡れない (C ええ)

徳島 35-5

ホンデ シマイニ トノマチ マワッタン。  
それで 最後に 殿町[へ] 廻ったの。

トノマチ マワッテ \*\*\*  
殿町[へ] 廻って \*\*\*

ハンショノトコ マタ コレ マタ ヒクインジャワ。  
半鐘のところ また これ また 低いんだよ。

(C ウーン) マ ヒクイケンド  
(C うーん) ま 低いけれど

アッコワ マダ ナカ°レカ° ユルヤカジャツタケン (C エー)  
あそこは まだ 流れが 緩やかだったから (C ええ)

モ ホイツオ アルイテ  
ま それを 歩いて

ホイデ トノマチカラ コー オーマワリシテ  
そして 殿町から こう 大廻りして

ホイデ カエッタコトカ° アルン (C ウーン)  
そして 帰ったことが あるの (C うーん)

ホラ モー アレワ ワー オーミ オーミズカ° デタラ  
そら もう あれは ×× ××× 大水が 出たら

キタナインカ° イカンワナー アレワナー (C アー)  
汚いのが いけないよねえ あれはねえ (C ああ)

ホノジブン ホンナダンデ オモエヘンケンド  
その頃[は] そんな[調子]なので [汚いと]思わないけれど

トニカク ハヨー イナナンダラ ショーナイ ト  
とにかく 早く 帰らなかつたら しかたがない と

オモテ {笑}  
思っテ {笑}

130B : ホヤナー ワシーナ  
そうだねえ 私ね

タイショーヨンジューネン[20]ノ オーミズノ ジブンノナ  
昭和40年の 大水の 頃のね

35↑36

トーカカン シンブン オイタールンヨ (A エー)  
10日間[の] 新聞[を] 置いてあるのよ。(A ええ)

タイフーカ° アレ ハジマッテ オキ  
台風が あれ 始まって ××

デキダシタ ジブンカラ \*\*\*カ° ツクマデ  
でき出した[=発生した] 頃から \*\*\*が つくまで

(A エー) トーカカンノ シンブンオナ (A アー)  
(A ええ) 10日間の 新聞をね (A ああ)

ホレトナ マ ジューヒチニチニ マコ°カ° デキタン  
それとね ま 17日に 孫が 生まれたの

徳島 36-2

(A アー) ホンデ マイトシ モー クカ°ツ ジューヒチニチオ

(A ああ) それで 毎年 もう 9月 17日を

ナニーヨ マコ°ノ キネンビト シテナ

何よ 孫の 記念日と してね

シンブン ミナ ノコシタールン (A アー ホーデー)

新聞 みんな 残してあるの (A ああ そうか)

(C ホラ エー コッチャナ)

(C それは いい ことだね)

ホナケン ホイタラ ホノジブンノナ (A エー)

だから そうすると その頃のね (A ええ)

アノ クカ°ツナ (A エー)

あの 9月ね (A ええ)

ジューヒチニチノ ヒーノ シンブン ノコシタールトナ

17日の 日の 新聞 残してあるとね

モー イマヤ ジー ヨーカカンケンナ

もう 今など 字[を] 書くことができないからね

ホレニ ソーバデ アローカ°ナ ナン ミナ カイタールン

それに 相場で あろうとね ×× みんな 書いてあるの

シンブン イットンデー

新聞[には] 入っているよ。

徳島 36-3

(C ハー) (A エー) イチンチブンナー

(C はあ) (A ええ) 1日分ねえ

ホイト マ ジューネン サキワ ドージャ  
それと まあ 10年 前は どうだ

ゴネンサキ ドーヤ ッテ モー ゼンブ  
5年前[は] どうだ と もう 全部

ホレ ミセ ミテモータラ ワカルヨーニ (A アー)  
それ ×× 見てもらったら わかるように (A ああ)

ホナケン モー イマ  
それだから もう 今[は]

コドモカ° マー ジューゴニ ナツトルワナ (A エー)  
子供が まあ 15[歳]に なってるよね (A ええ)

トク アレ ヨンジューネン ウマレヤケンナー。  
×× あれ 40年 生まれだからねえ。

ゼンブ ノコシタール (A ウーン)  
全部 残してある。 (A うーん)

131A : アソコノ ウチワ キチヨーナ シリョージャワ  
あそこの 家は 貴重な 資料だよ

(B {笑}) (C ナー)

(B {笑}) (C なあ)

徳島 36-4

132B : イマナ イマワ ヤクニ タタンケンド  
今な 今は 役に 立たないけれど

コ オッキンナッタ ジブンニワ ジブン (C エー)  
子供[が] 大きくなった 頃には 自分[が] (C ええ)

コンナジブン デキタ ッチューン オボエル  
こんな頃[に] 生まれた というの[が] ××××

ワカルヨーナ (A ナー)  
わかるような (A なあ)

133C : サンジューネンモ ゴ コ°ジューネン ナツテミナハレナー  
30年も × 50年[も] なってごらんないねえ

ナニー オジーサン コヤッテ オイテクレテ  
何 おじいさん[が] こうやって 置いてくれて

アリカ°タイ トオモウワ  
ありがたい と思うよ

134A : マー  
まあ

135B : デ オシインワナ ナンノ シンブン オイタツタンニ  
それで おいしいのはね 何の 新聞 置いてあったのに

ヨ ドッカ ヤッテモタン  
× どっか[へ] やってしまったの

徳島 36-5

ニチロセンサーノ シンプン オイタッタンヨ。(A アー)  
日露戦争の 新聞 置いてあったのよ。(A ああ)

ホイテ コンド イエ アッチェ カワッタ ジブンニナ  
それで 今度 家[を] あっちへ 変わった 頃にね

(A エー)

(A ええ)

コンナン ジャマクサイ ッテ ホッテモタンジョ (A ウン)  
こんなの じゃまだ って 捨ててしまったのよ (A うん)

ワイ オイトコ オモトンノニ  
私[は] 置いておこう [と]思っているのに

モー ホカ カナイカ° モー ホッテモタン  
もう ×× 家内が もう 捨ててしまったの

コンナ アンナモン フルイ シンプン ナン スリヤ  
「こんな あんなもん 古い 新聞 何[に] するのよ」

ユーテ (A {笑})

[と]言って (A {笑})

ホイト オイトイタラ ヨカッタ ト オモウンジャ。  
そして 置いといたら よかった と 思うんだ。

イマン ナッタラナ ホラ アツンナッテ コー  
今に なったらね ほら 厚くなって こう

徳島 36-6

オイトイタラ ヨカッタ スンデモタケンドナー。 (A アー)  
置いといたら よかった すんでしまったけどねえ (A ああ)

ナカ°イコト ホコ オイターツタヤツカ° ナイヨーナツテモタ。  
長いこと そこ 置いてあったものが なくなってしまった。

ホイタラ ホノジブンノツタラ  
そうすると その頃の[だ]ったら

モー メージジダイジャケンナ (A エー)  
もう 明治時代だからなあ (A ええ)

ホナケン ゴートーカ° ハイツタラ  
だから 強盗が 入ったら

ニジッセンク°ライジャ (A アー) (C アー)  
20銭ぐらいでは (A ああ) (C ああ)

ゴートーノカ° ヨーケ トッタ ヤテ  
強盗のが たくさん 盗った といって[も]

ニジッ {笑}  
20[銭] {笑}

136A : ニジッセン テ イマ コドモ ジ ジート  
20銭 って 今[の] 子供 / ///

ドイクライノモンダヤ ワケカ° ワカランナー {笑}  
どのくらいのものか わけが わからないねえ {笑}

36↑37

徳島 37-1

マー ナンジャナ モノオ ホヤッテ アツメルンニワ  
まあ なんだね ものを そうやって 集めるのには

ワシャ X12シェンセイカ°ナ X12シェンセカ°  
私は X12先生がね X12先生が

センジチューノ シャシンシューホー (C アー)  
戦時中の 写真週報 (C ああ)

ホレカラ シューホー チューン  
それから 週報 というの

アオーインデ デヨッタデ (C エー)  
青いの[=雑誌]で 出ていたね (C ええ)

アレ ゼンブ チャント モッテ アツメテ アッテ  
あれ 全部 ちゃんと 持って 集めて あって

オイテアッタナ (C ホーデー)  
置いてあったね (C そうか)

ホン。 アノ ヒトワ トクベツニ アンナ アンナ シュミカ°  
うん。 あの 人は 特別に あんな あんな 趣味が

ナカナカ ナー マジメナ ヒトデ リッパナ ヒトヤケン。  
なかなか ねえ まじめな 人で 立派な 人だから。

ホラ モー タイフーワ マダ ホンデモ  
それは もう 台風は まだ それでも

徳島 37-2

シコクワ エーホージャナ コレ (C エー)  
四国は いいほうだね これ (C ええ)

137C : マダ エーホージャナー。 キューシューダッタラ  
まだ いいほうだねえ。 九州だったら

モー オモナワ アノー オキナワジャノ {笑}  
もう 沖縄 あの 沖縄だの {笑}

138A : キューシュー オキナワヤ ユータラ モー \*\*\*  
九州[や] 沖縄など [と]いたら もう \*\*\*

139B : ワカランノ \*\*\*  
わからないの \*\*\*

140A : マー ホナッテ タイフーデ ヒカ°イカ°  
まあ そうだつて 台風で 被害が

アルヤ ユーテ  
あるか [と]言つて[も]

マ ムカシワ カクベツ アッタケンド  
まあ 昔は 格別 あつたけれど

サイキン ナッテ スクナー ナツタリ ス スルケンド  
最近[に] なつて 少なく なつたり × するけれど

マー タイフー ジタイモ スクナー ナツタケンド  
まあ 台風 自体も 少なく なつたけれど

徳島 37-3

ムカシワ イマ モー オキナワヤ ナンヤ ユーテカラ  
昔は 今 もう 沖縄か なんか いったから

モー ショナイデーナー ヨーケー (C ナー)  
もう しかたがないよねえ たくさん (C ねえ)

ツキ°ツキ° トオツテ。  
次々[と] 通って。

141B : ウン ホノカワリ アッチワ イエカ° チカ°ウワ  
うん そのかわり あっちは 家が 違うわ

(A イエカ° チカ°ウ) イエノ タテカ°。  
(A 家が 違う) 家の 建て方が。

コー イエノ グルリ  
こう 家の まわり[に]

142A : タシカニ ケンチクホーホー カエナンダラ イケンワナー  
確かに 建築方法[を] 変えなかったら だめだよねえ

(C ナー)  
(C ねえ)

143B : イエノ グルリ タカーイナ (A エー)  
家の まわり[に] 高いね (A ええ)

イシカ°キミタイナ タテテアルナ。  
石垣のような[もの] 建ててあるね。

144A : ワシー アノー イッペン フキトバサレタコトカ°  
私 あの 一度 [風に]吹き飛ばされたことが

アルモンナ イエノ マエデ (B ホーデー)  
あるものね 家の 前で (B そうか)

ウン ニシカラ コー ヒョット コー デタン。  
うん 西から こう ひよっと こう 出たの。

アノ マエノ トブクロカ° ドージャ コージャ  
あの 前の 戸袋が どうだ こうだ

アレ トブヤ ワカラヘン ユーモンジャケン。  
あれ 飛ぶか わからない [と]言うものだから。

ホノトキ フット デタダロ  
その時 ふっと 出ただろう

パート トバサレタ ハタケイナ。  
[そうすると]ぱーっと [風に]飛ばされた 畑へね。

37↑38

アノジブンダッタラ  
あの頃だったら

ソートーノ カゼカ° フッキョッタダロ ト オモウワ。  
相当の 風が 吹いていたんだろう と 思うよ。

145B : マダ ムロドアタリワ ツ ツ ツヨイデヨ カゼワナ。  
まだ 室戸あたりは × × 強いよ 風はね。

徳島 38-2

イッペン アツチエ イッテ ア ア アノカゼニ  
一度 あっちへ 行って × × あの風×[の]

ダイブ ツヨイ ヒージャッタンジャガナ (A ウン)  
だいぶ 強い 日だったんだけどね (A うん)

ムロド トオツテ コッチー モンテキタンヨ。  
室戸[を] 通って こちらへ 帰ってきたのよ。

ホイタラ フキトバサレルワ {笑}  
そしたら 吹きとばされるわ {笑}

(A ワシ ハジメテ \*\*\*)  
(A 私 初めて \*\*\*)

モー カンバンガ トンデイク カンバン ミナ トバサレテ  
もう 看板が 飛んでいく 看板[が] みんな 飛ばされて

トンデ イッキョルモン (A アー)  
飛んで 知っているもの (A ああ)

146A : ドナイーモ ナラナンダモンナ。 (C ホーデー)  
どうにも ならなかったものね。 (C そうか)

カゼニ アタッタント イッショニ  
風に あたったのと 一緒に

コー タバニ ナットッタンヤシランノ。  
こう 東に なっていたのかもしれないね。

徳島 38-3

ホンデモ マー イエノホーワ ドーヤラ  
それでも まあ 家のほうは どうやら

モットッタケンドネー (C エー)  
[倒れずに]もっていたけれどねえ (C ええ)

38↑

## 徳島県阿南市1981注記

- [1] ヒゲムシ  
毛虫。
- [2] イラ  
夏季に柿の葉などに群棲する毒毛虫。
- [3] ニシユウ  
徳島県立富岡西高等学校。
- [4] セイコツ  
「セイカツ（生活）」と言おうとしたもの。
- [5] ジョウ  
丈。1丈は約3m。
- [6] カタツリ  
「カタツムリ」と言おうとしたもの。
- [7] ムロトタイフー  
室戸台風。第一室戸台風は、1934（昭和9）年9月21日室戸岬付近に上陸、第二室戸台風は、1961（昭和36）年9月16日室戸岬西方に上陸した台風で、暴風による家屋倒壊のほか、浸水被害をもたらした。  
ここでは、第二室戸台風のことを指していると思われる。
- [8] シブイタ  
四分板。厚さが1cmくらいに製材した板。四分は1cmあまり。
- [9] オワエトツタン  
「オサエトツタン（押さえていたの）」と言おうとしたもの。
- [10] タンジョ  
「テンジョウ（天井）」と言おうとしたもの。
- [11] タイホレタ  
「タオレタ（倒れた）」と言おうとしたもの。
- [12] フスマ  
ここでは、「戸」の意味。

- [13] ヘコクベイ  
「ヘコキバシ（屁こき橋）」と言おうとしたもの。
- [14] サンリン  
三輪自動車。車輪が三つある車。
- [15] クグイ  
地名。徳島県阿南市橘町鵠。
- [16] カカリヨハン  
地名。カカリヨハン，カカジャハン，カカジョハンとも言う。
- [17] シャク  
尺。丈の10分の1。1尺は約30cm。
- [18] ニブンニ  
「ジブンニ（時に）」と言おうとしたもの。
- [19] ヨラザッタ  
ふつう徳島ではしない言い方。
- [20] タイショーヨンジューネン  
「昭和40年」の間違いだと思われる。

# 作成・公開の経緯

## 「各地方言収集緊急調査」について

昭和52(1977)年度から昭和60(1985)年度にかけて、文化庁によって「各地方言収集緊急調査」が実施された。これは、「全国的に急速に変化し、失われつつある各地の方言を各都道府県において、緊急に調査し、これを記録・保存する」目的で行われた、全国規模での方言談話の収録事業である。国立国語研究所は、文化庁の要請により、この調査の計画段階から、指導・助言などにかかわっていた。

文化庁は、全国の都道府県教育委員会に各地方言の収集を指示した。47都道府県は、実施時期ごとに、第1次(昭和52(1977)～54(1979)年度)から第7次(昭和58(1983)～60(1985)年度)に分けられ、それぞれ3年計画で、収録を行った。

各都道府県教育委員会は、言語学、国語学、方言学の専門家から調査員として、主任調査員2名と調査員若干名を選出し、さらに、専門家や学識経験者を交えて、調査地点、具体的な調査方法、全国共通の場面設定会話項目などについて検討し、その結果をもとに調査を進めた。

その実施の概要は次のようなものである。

### (1) 調査目的

全国的に急速に変化し、失われつつある各地の方言を各都道府県において、緊急に調査し、記録・保存する。自然な方言会話を良質な録音で採録し、後世に残す。

### (2) 調査方法

(3)の調査内容にしたがって、1地点につき1年度あたり10時間程度の方言会話を良質な録音で採録する。そのうち、自然な方言会話の部分を3時間程度選んで、文字化を行い、共通語訳をつけて、記録として残す。

### (3) 調査内容

- ①老年層の男女各1人による対話、または、男女を含む3人の会話(2時間)
- ②老年層の男性1人の対話、または、老年層の男性3人の会話(1時間)

- ③老年層の女性2人の対話，または，老年層の女性3人の会話（1時間）
- ④老年層と若年層との対話，または，両者を含む3人の会話（1時間）
- ⑤老年層の男性2人の，目上の者と目下の者の対話（2時間）
- ⑥場面設定の対話（1時間，各場面につき1～3分程度）

場面に応じて，老年層の男性2人の対話，または，老年層の男女各1人による対話

- ⑦当該地域に伝わる民話（1時間）

民話の語り手が存在する地点で収録を行う。収録不可能な場合は，

- ⑧老年層の女性2人の，目上の者と目下の者の会話（1時間）

または，

- ⑨目上の老年層の男性と目下の老年層の女性の，2人の対話（1時間）を収録する。

①～⑤，⑧，⑨については，話題は自由。一般的には，「調査地の現況・変遷」「気候」「天災などの思い出」「こどもの頃の遊び」「仕事」「土地の生業」「出稼ぎ」「家事」「こどもの養育」「生活の変遷」「生活の中の楽しみ」「自慢話」「衣」「食」「住」「婚礼などの風俗」「信仰」「年中行事」「村の将来」「若者観」など。

⑥は，自然談話では得にくい各種の表現を得ることを目的として，特定場面を設定し，話者に「演技的対話」をさせる。「訪問」「辞去」「道でのあいさつ」「出産」「婚礼」「葬式」などの各種のあいさつ，「依頼」「指示」「助言」「買物」「勧誘」などの各種場面を設定する。具体的には，文化庁と各都道府県教育委員会が協議して，全国共通の数場面を設定する。

#### (4) 調査地点

調査地点は，各都道府県について5地点程度を選定する。文化庁および地元方言研究者の意見を聞いて，各都道府県教育委員会が決定する。

方言区画上，複数の区域に分かれる場合は，方言の状況が概観できるように，それぞれの区域から収録地点を選ぶ。特に，離島など，特色の認められる方言は可能な限り収録する。

#### (5) 話者

その土地で生まれ育ち，よその土地に住んだことのない，あるいは，よそ

の土地に住んだことがあっても、その期間が短い人とする。在外期間は3年以内が望ましい。

年齢は、原則として、老年層の場合は、収録時において60歳以上とし、若年層の場合は、20～30歳代とする。

話者相互の立場はほぼ対等であることを原則とする。

#### (6) 録音

自然な会話を良質な録音で残すため、使用する録音機の性能、マイクの種類・配置、テープの長さ、収録場所の音環境などに注意する。

録音テープ記録票には、採録地点、採録年月日、話題、時間、話者、採録機種などを記入する。

録音テープは、収録したオリジナルのテープ（正）を1本、正テープより文字化部分を編集したテープ（副）を2本作成する。

#### (7) 文字化

方言音声の文字化の際の表記は、原則として、カタカナ書きとし、方言の音声の特徴をある程度表し得るよう工夫する。文字化に対応する共通語訳をつける。文字化内容について、場面・文脈・特徴的音声・方言形の語義・用法などについての注記、表記法についての説明などを行う。各地点ごとに、収録地点の方言の特色について解説する。収録地点の位置・交通・地勢・行政区画の変動・戸数・人口・産業など、収録地点の概観について記述する。録音内容記録票には、話者の氏名・性・生年・経歴、録音内容などを記入する。

文字化原稿は、手書きのオリジナル原稿（正）を1部、正の複製（副）を2部作成する。

調査は、各都道府県教育委員会と連携のうえ、全国各地の方言研究者が全面的に協力して行われた。その結果、地域的密度、収録量、方言的内容のいずれの面からも、他に類を見ない高レベルのデータを得たのである。

調査終了後、これらの方言談話の録音テープとその文字化原稿は、各教育委員会から、「各地方言収集緊急調査」報告として、文化庁に提出され、永久保存されることとなった。

なお、調査実施からかなりの時間が経過しているため、当時の関係文書の入手は困難であったが、文化庁、各都道府県教育委員会の協力により、部分的には手に入れることができた。得られたものを、資料として、この章の末尾に掲げたので、ご参照いただきたい。

## 「各地方言収集緊急調査」地点一覧

### 北海道

- 01a 空知支庁樺戸郡新十津川町
- 01b 十勝支庁中川郡豊頃町
- 01c 渡島支庁亀田郡楸法華村
- 01d 渡島支庁松前郡松前町

### 青森県

- 02a 下北郡川内町
- 02b 北津軽郡市浦村
- 02c 上北郡野辺地町
- 02d 三戸郡五戸町

### 02e 弘前市

### 岩手県

- 03a 久慈市
- 03b 宮古市
- 03c 遠野市
- 03d 大船渡市
- 03e 一関市

### 宮城県

- 04a 本吉郡本吉町・歌津町
- 04b 栗原郡築館町
- 04c 仙台市
- 04d 亶理郡亶理町
- 04e 刈田郡七ヶ宿町

### 秋田県

- 05a 鹿角市
- 05b 能代市
- 05c 仙北郡西木村
- 05d 河辺郡雄和町
- 05e 湯沢市

### 山形県

- 06a 新庄市
- 06b 寒河江市
- 06c 東田川郡櫛引町
- 06d 東田川郡朝日村
- 06e 西置賜郡飯豊町・東置賜郡川西町

### 福島県

- 07a いわき市
- 07b 大沼郡会津高田町
- 07c 大沼郡昭和村

### 茨城県

- 08a 高萩市
- 08b 久慈郡里美村
- 08c 水戸市
- 08d 鹿島郡大野村 (→鹿嶋市)
- 08e 古河市

### 栃木県

- 09a 大田原市
- 09b 日光市
- 09c 宇都宮市
- 09d 芳賀郡益子町
- 09e 安蘇郡田沼町

### 群馬県

- 10a 利根郡片品村
- 10b 吾妻郡六合村
- 10c 前橋市
- 10d 邑楽郡大泉町
- 10e 甘楽郡下仁田町

埼玉県

- 11a 加須市
- 11b 南埼玉郡宮代町
- 11c 春日部市
- 11d 児玉郡上里町
- 11e 秩父郡長瀨町
- 11f 入間郡大井町

千葉県

- 12a 海上郡飯岡町
- 12b 印旛郡印西町 (→印西市)
- 12c 長生郡長生村
- 12d 木更津市
- 12e 館山市

東京都

- 13a 台東区
- 13b 西多摩郡檜原村
- 13c 大島町
- 13d 三宅村
- 13e 八丈町

神奈川県

- 14a 愛甲郡愛川町
- 14b 横須賀市
- 14c 秦野市
- 14d 小田原市

新潟県

- 15a 村上市
- 15b 西蒲原郡分水町
- 15c 十日町市
- 15d 糸魚川市
- 15e 佐渡郡佐和田町

富山県

- 16a 黒部市
- 16b 富山市
- 16c 氷見市
- 16d 砺波市
- 16e 東礪波郡上平村

石川県

- 17a 羽咋郡押水町

福井県

- 18a 坂井郡芦原町
- 18b 勝山市
- 18c 南条郡南条町
- 18d 敦賀市
- 18e 遠敷郡名田庄村

山梨県

- 19a 塩山市
- 19b 大月市
- 19c 韮崎市
- 19d 南巨摩郡早川町 [奈良田]
- 19e 南巨摩郡身延町

長野県

- 20a 下水内郡栄村
- 20b 長野市
- 20c 小諸市
- 20d 伊那市
- 20e 木曾郡開田村

岐阜県

- 21a 高山市
- 21b 大野郡白川村
- 21c 中津川市
- 21d 岐阜市
- 21e 揖斐郡徳山村

静岡県

- 22a 静岡市
- 22b 榛原郡本川根町
- 22c 磐田郡水窪町
- 22d 賀茂郡松崎町
- 22e 浜名郡新居町

愛知県

- 23a 北設楽郡設楽町
- 23b 西春日井郡師勝町
- 23c 岡崎市
- 23d 豊橋市
- 23e 常滑市

三重県

- 24a 安芸郡美里村
- 24b 阿山郡阿山町
- 24c 志摩郡阿児町
- 24d 北牟婁郡海山町
- 24e 南牟婁郡御浜町

滋賀県

- 25a 長浜市
- 25b 高島郡安曇川町
- 25c 神崎郡能登川町
- 25d 大津市
- 25e 甲賀郡甲賀町

京都府

- 26a 中郡峰山町
- 26b 舞鶴市
- 26c 船井郡丹波町
- 26d 京都市
- 26e 相楽郡山城町

大阪府

- 27a 高槻市
- 27b 大阪市
- 27c 八尾市
- 27d 河内長野市
- 27e 泉佐野市

兵庫県

- 28a 豊岡市
- 28b 朝来郡生野町
- 28c 神戸市
- 28d 相生市
- 28e 洲本市

奈良県

- 29a 大和郡山市
- 29b 宇陀郡榛原町
- 29c 五條市
- 29d 吉野郡下北山村
- 29e 吉野郡十津川村

和歌山県

- 30a 那賀郡岩出町・打田町・桃山町
- 30b 和歌山市
- 30c 御坊市
- 30d 田辺市
- 30e 新宮市

鳥取県

- 31a 鳥取市
- 31b 米子市
- 31c 日野郡日野町

島根県

- 32a 仁多郡仁多町

岡山県

- 33a 勝田郡勝央町
- 33b 新見市
- 33c 岡山市
- 33d 小田郡矢掛町
- 33e 笠岡市

広島県

- 34a 三次市
- 34b 府中市
- 34c 広島市
- 34d 因島市
- 34e 安芸郡倉橋町

山口県

- 35a 萩市
- 35b 大島郡大島町
- 35c 徳山市
- 35d 美祢市
- 35e 豊浦郡豊北町

徳島県

- 36a 鳴門市
- 36b 阿南市
- 36c 美馬郡脇町
- 36d 海部郡海南町
- 36e 三好郡東祖谷山村

香川県

- 37a 小豆郡土庄町
- 37b 木田郡三木町
- 37c 丸亀市
- 37d 仲多度郡多度津町
- 37e 観音寺市

愛媛県

- 38a 越智郡大三島町
- 38b 西条市
- 38c 松山市
- 38d 大洲市
- 38e 宇和島市

高知県

- 39a 室戸市
- 39b 高知市
- 39c 高岡郡梶原町
- 39d 幡多郡三原村

福岡県

- 40a 北九州市
- 40b 遠賀郡芦屋町
- 40c 築上郡新吉富村
- 40d 飯塚市
- 40e 嘉穂郡稲築町
- 40f 福岡市
- 40g 八女市

佐賀県

- 41a 東松浦郡鎮西町
- 41b 鳥栖市
- 41c 佐賀市
- 41d 武雄市

長崎県

42a 壱岐郡芦辺町

42b 平戸市

42c 長崎市

42d 南松浦郡奈良尾町

熊本県

43a 阿蘇郡阿蘇町

43b 熊本市

43c 球磨郡錦町

43d 天草郡天草町

大分県

44a 東国東郡国東町

44b 宇佐市

44c 大分郡挾間町

44d 佐伯市

44e 日田郡前津江村

宮崎県

45a 延岡市

45b 東臼杵郡椎葉村

45c 宮崎市

45d 北諸県郡山田町

45e 日南市

鹿児島県

46a 出水市

46b 揖宿郡穎娃町

46c 熊毛郡上屋久町

46d 大島郡龍郷町

沖縄県

47a 国頭郡今帰仁村

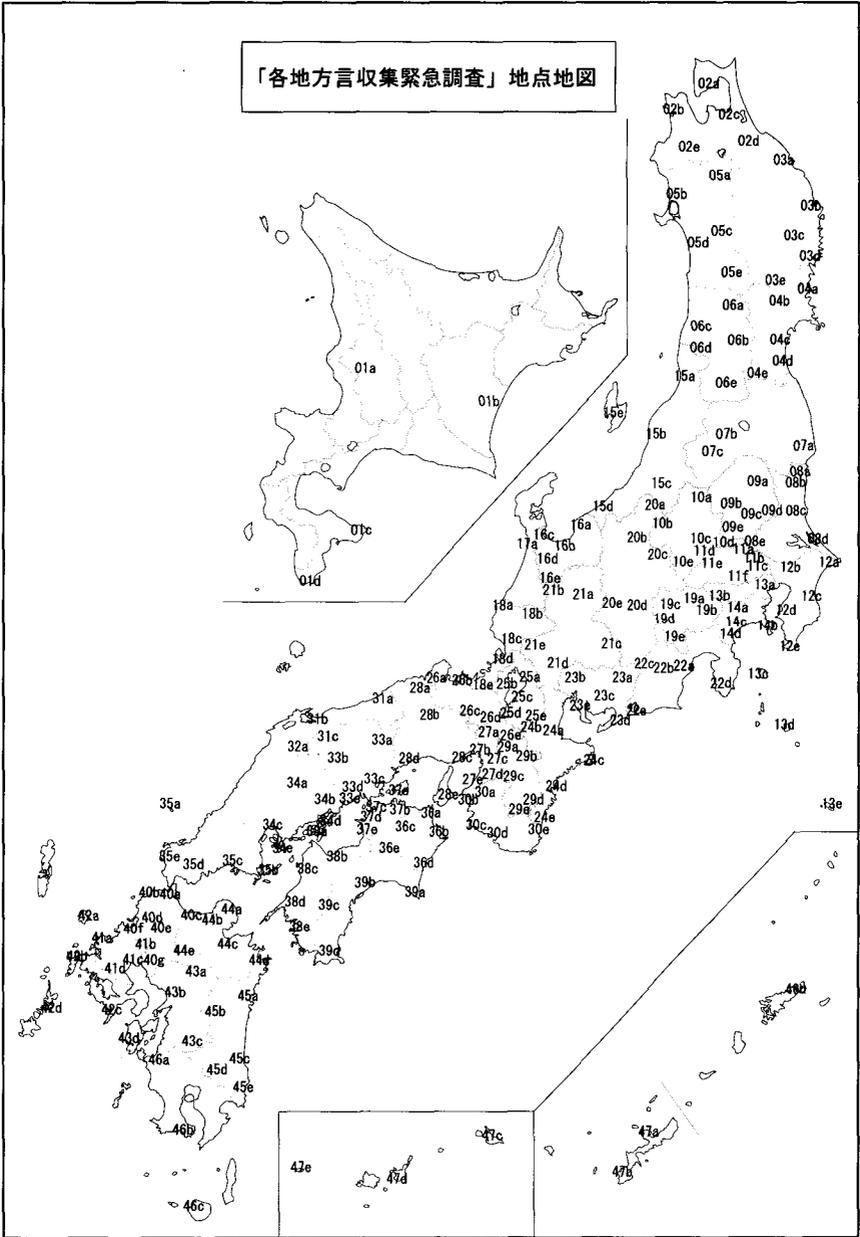
47b 那覇市

47c 平良市

47d 石垣市

47e 八重山郡与那国町

「各地方言収集緊急調査」地点地図



(2001. 10. 01作成)

## 各地方言収集緊急調査補助全体計画

56.7.29.

### 1. 年次計画

年度 計画	52	53	54	55	56	57	58	59	60	備考
第1次	8	8	8							
第2次		8	8	8						
第3次			6	6	6					
第4次				8	8	8				
第5次					10	10	10			
第6次						3	3	3		
第7次							4	4	4	
実施県数	8	16	22	22	24	21	17	7	4	
(千円) 予算額	6,000	12,210	18,150	18,150	18,000	15,750	12,750	5,250	3,000	

### 2. 調査県一覧

第1次 (S.52~54)	第2次 (S.53~55)	第3次 (S.54~56)	第4次 (S.55~57)	第5次 (S.56~58)	第6次 (S.57~59)	第7次 (S.58~60)
宮城	北海道	青森	岩手	福島	茨城	群馬
秋田	山梨	栃木	山形	埼玉	福井	神奈川
千葉	長野	東京	新潟	富山	鳥取	京都
石川	山口	岐阜	奈良	愛知		兵庫
大阪	香川	静岡	島根	三重		
広島	佐賀	岡山	福岡	滋賀		
高知	大分		長崎	和歌山		
鹿児島	沖縄		熊本	徳島		
				愛媛		
				宮崎		
8県	8県	6県	8県	10県	3県	4県

## 各地方言収集緊急調査費国庫補助要項

昭和54年5月1日  
文化庁長官裁定  
(昭和62年6月1日廃止)

### 1. 趣旨

全国的に急速に変化し、失われつつある各地の方言を各都道府県において、緊急に調査し、これを記録・保存するために要する経費について国が行う補助に関し、必要な事項を定めるものとする。

### 2. 補助事業者

補助事業者は、都道府県とする。

### 3. 補助対象事業

補助対象となる事業は、当該都道府県内における各地の方言を調査（録音採集・文字化）する事業とする。

### 4. 補助対象経費

補助対象となる経費は、次に掲げる経費とし、その明細は別紙のとおりとする。

主たる事業費

調査経費

### 5. 補助金の額

補助金の額は、補助対象経費の2分の1以内の定額とし、750千円を最高限度額とする。ただし、沖縄県については、別途協議して定めるものとする。

(別紙)

名称	対象経費の区分	項	目	目の細分	説明
各地方言収集緊急調査事業	主たる事業費	各地方言収集調査	報償費	〇〇謝金 〇〇文字化謝金 〇〇協力謝金	調査員、調査補助員等謝金 資料
			旅費	普通旅費 費用弁償 特別旅費	
			需用費	消耗品費 印刷製本費 会議費	野帳等文具、録音用テープ 調査報告用紙 企画委員会打合会
			役務費	通信運搬費	郵便、電信電話料等
			使用料及び賃借料 委託料	会場借上料 器具借上料 〇〇委託費	事業の一部を委託して実施する場合（特に認められた場合に限る）

# 各地方言収集緊急調査実施要領

昭和52年7月28日

文化庁次長 決裁

「各地方言収集緊急調査補助金」の運用に当たっては、文化庁文化財補助金交付規則及び各地方言収集緊急調査補助要項に定めるもののほか、この実施要領によるものとする。

## 1. 地点の選定

文化庁及び地元方言研究者の意見を聴いて各都道府県（以下「県」という。）教育委員会が選定するものとする。

方言区画的にいくつかの区域に分かれる県においては、県下の方言の状況が概観できるように、それぞれの区域から収録地点を公平に選ばなければならない。また、離島など、特色の認められる方言は、可能な限り収録するよう努めなければならない。

## 2. 録音内容・話者

### ア 老年層話者による会話

収録内容——次の3種類の対話又は会話を収録する。

(1) 老年層の男女各1人による対話、又は、男女を含む3人の会話

(2) 老年層の男性2人の対話、又は、老年層の男性3人の会話

(3) 老年層の女性2人の対話、又は、老年層の女性3人の会話

話者の年齢など——原則として、収録時において60歳以上とし、やむを得ないときは55歳以上でもよい。発音その他の障害がなければ高齢者でも差し支えないが話者相互の年齢が離れすぎてはいけない。また、話者相互の立場等もほぼ対等であることを原則とする。

話者の居住歴——その土地で生まれ育ち、よその土地に住んだことのない、あるいは、その期間が短い（在外期間は3年以内が望ましい。）人とする。よその土地から嫁入り、婿入りした人は採らない。ただし、女性については、他に適当な人が求められないときは、近隣地域から嫁入りした人でも、収録地点との間に大きな方言のちがいが認められない場合は差し支えない。

司会者——主たる話者のほかに、話の引き出し役としての司会者が必要である。司会者は、あらかじめ地域・話者に見合った適切な話題を用意し、会話の円滑な進行に努める。司会者の性・年齢は問わない。

話題——自由。一般的には、「調査地の現況・変遷」「気候」「天災などの思い出」「こどものころの遊び」「仕事（土地の生業・出かせぎなど。）」「家事」「こどもの養育」「生活の変遷」「生活の中の楽しみ」「自慢話」「衣」「食」「住」「婚礼などの風俗」「信仰」「年中行事」「村の将来」「若者観」などが考えられる。

### イ 老年層と若年層との会話

収録内容——老年層の男性と若年層の男性との対話、又は、両者を含む3人の話者の会話を収録する。

話者の年齢など——老年層については前項アに準ずる。若年層については、原則として

20～30歳代とする。話者相互の立場などはほぼ対等であることが望ましい。

話者の居住歴——老若ともアに準ずる。

#### ウ 目上の者と目下の者の会話

収録内容——目上、目下の関係にある老年層の男性2人による対話を収録する。対話の具体的な人物像として、たとえば、僧侶対その檀家に当たる人物、その土地出身の教員又は元教員（校長又は元校長等）対教え子又はその土地の一般的職業（農業、漁業等）に従事している人物（父兄）等が考えられる。

話者の年齢——目上、目下とも60歳以上を原則とする。

話者の居住歴——原則として前項アに準ずる。ただし、目上に当たる者については、在外期間の比較的長い人物を登場させなくてはならない場合もあるので、アの条件（在外歴3年以内）から若干逸脱してもやむを得ない。

#### エ 場面設定の会話

目的と方法——自然会話では得にくい各種の表現を得ることを目的として、特定場面を設定し、話者に「演技的対話」をさせる。

場面の内容——各種のあいさつ（訪問・辞去・道でのあいさつ・出産・婚礼・葬式）や依頼・指示・助言・買物・勧誘等の各種場面を設定する。具体的には、文化庁と各県教育委員会が協議して全国共通の教場面を設定し、各場面の録音量は、1～3分程度とする。

話者——場面に応じて老年層の男性どうしの対話、老年層の男性対同女性の対話等を行う。

#### オ 民話

民話の語り手が存在する地点で収録を行う。

### 3. 録音機・録音技術

必ず、ステレオで録音することとし、テープは、オープン、カセットのいずれでもよい。この調査は、自然な方言会話を良い録音で収録し、それを後世に残すことが主要な目的であるからその点について十分配慮しなければならない。

録音機の操作は、録音技術に習熟した者が行い、会話の進行中は収録に専念しなければならない。なお、良質の録音を得るための基本的な留意点は次のとおりである。

① 雑音の少ない静かな部屋で録音する。足音、とびらの開閉音、机などへの衝撃音（湯飲みを置く音など）、紙をめくる音などは意外に大きな雑音として録音されるので注意すること。

② 内蔵マイクを使用すると良質の録音を得られないので、必ず外部マイクを接続すること。外部マイクは録音機本体から30cm以上離して配置すること。

③ マイクはなるべく話者の近くに配置し、どの話者の音声も十分な音量で録音できるよう配慮する。話者によって声の大きさにかかなりの差があることが多いので、この点に注意してマイクを配置すべきである。

録音の際には、音量メーターの針が十分に振れるよう注意すること。

④ テープを入れ替える際の無録音状態を避けるため録音機は2台使用すること。

⑤ カセットテープは短いもの（往復90分もの又は60分もの）を使用すること。

### 4. 文字化原稿の作成・表記

文字化用紙は文化庁が定めた様式のものを使用すること。

表記は原則としてカタカナ書きとし、方言の音声的特徴をある程度表しうるよう工夫する。ただし、文字化担当者が国際音声符号又は音素符号を用いた方が便利であると判断した場合はその表記でもよい。文字化の際には、共通語訳を付けるとともに場面、文脈、特徴的音声、方言形の語義・用法などについての注釈をも付ける。

5. 収録地点の概観、話者の経歴・録音内容の記録

収録地点の位置・交通、地勢・行政区画（旧藩領を含む）の変動・戸数・人口・主な産業などを記録する。

また、話者の経歴、録音内容などについては、「録音内容記録票」に録音のつど記入する。

## 各地方言収集緊急調査の実施について

54.5.10.

### 1. 調査（方言収録）の年次計画（（ ）は実施要領・文字化の時間数）

○ 第1年次

- ① 老年層の男女各1人による対話，又は，男女を含む3人の会話（アの(1)・2時間）
- ② 老年層の男性2人の対話，又は，老年層の男性3人の会話（アの(2)・1時間）

○ 第2年次

- ① 目上の者と目下の者の会話（ウ・2時間）
- ② 老年層の女性2人の対話，又は，老年層の女性3人の会話（アの(3)・1時間）

○ 第3年次

- ① 老年層と若年層との会話（イ・1時間）
- ② 場面設定の会話（エ・1時間）
- ③ 民話（オ・1時間）

（注）3年次の「③ 民話」の収録不能のときは，2年次の「目上の者と目下の者の会話」の女性2人の会話を収録

### 2. 調査報告書の提出部数

(1) 録音テープ

- ・正……収録した生のテープ 1部
- ・副……文字化部分のテープ（正テープより文字化部分を複製したもの。） 2部

(2) 文字化原稿

- ・正……手書き原稿 1部
- ・副……正のコピー 2部

### 3. 調査報告書の様式等

(1) 録音テープの記録票

	NO. <u>正</u>
○ ○ 県	—○
	(副)
各地方言収集緊急調査録音記録票	補助要項 の記号
1 採録地点	_____
2 採録年月日	_____
3 話題・時間	A面 _____ ( )分
	B面 _____ ( )分
4 話者	_____
	_____
5 採録機種	_____

テープの  
ケース箱に  
張り付ける  
ようにして  
ください。

(2) 文字化原稿の表紙

文字化原稿は、各調査地点ごとに、(1) 録音内容記録票、(2) 収録地点とその方言の特色等解説（初年次のみ）、(3) 録音文字化原稿の順で表紙（B 4 板目紙）を付けて綴ってください。

○	○
○○県（昭和      年度）	
各地方言収集緊急調査 文字化原稿	
（正） 又 は 副	
調査地点	○○○○

(3) 文字化原稿の用紙

- |            |   |          |
|------------|---|----------|
| ① 録音内容記録票  | } | （別紙のとおり） |
| ② 方言資料割付用紙 |   |          |
| ③ 方言調査解説用紙 |   |          |

## 調査実施上の留意事項について

### 1 調査（方言収録）の年次計画

年次	調査の内容（記号は実施要領による）	採録時間	解説・文字化時間
1年次	① 老年層の男女各1人による対話、又は、男女を含む3人の会話（アー（1））	10	2
	② 老年層の男性2人の対話、又は、老年層の男性3人の会話（アー（2））		1
2年次	① 目上の者と目下の者の会話（男性2人）（ウ）	10	2
	② 老年層の女性2人の対話、又は、老年層の女性3人の会話（アー（3））		1
3年次	① 老年層と若年層との会話（イ）	10	1
	② 場面設定の会話（エ）		1
	③ 民話（オ） （民話が収録できないときは、（注）参照。）		1
計		30	9

（注）

民話の適当な語り手が存在しない場合などのため、収録が不可能な地点は、老年層の男性（目上）と老年層の女性（目下）の2人の対話を収録する。その際の話題は自由であるが、長上者に対する女性の丁寧な表現が収録できるよう配慮していただきたい。

### 2 調査報告書の提出部数

#### (1) 録音テープ

正……収録した生のテープ 1部

副……文字化部分のテープ（正テープより文字化部分を複製したもの。）2部

#### (2) 文字化原稿

正……手書き原稿 1部

副……正のコピー 2部

### 3 調査報告書の様式等

#### (1) 録音テープの記録票

○ ○ 県  各地方言収集緊急調査録音記録票	NO. 正 ー○ (副)
	補助要項 の記号
1 採録地点 _____	
2 採録年月日 _____	
3 話題・時間	( ) 分
A面 _____	( ) 分
B面 _____	
4 話者 _____	
_____	
5 採録機種 _____	

テープの  
ケース箱に  
張り付ける  
ようにして  
ください。

#### (2) 文字化原稿の表紙

文字化原稿は、各調査地点ごとに、(1) 録音内容記録票、(2) 収録地点とその方言の特色等解説（初年次のみ）、(3) 録音文字化原稿の順で表紙（B4板目紙）を付けて綴ってください。

○	○
○○県（昭和    年度）  各地方言収集緊急調査 文字化原稿  （正） 又 は 副  調査地点    ○○○○	

### (3) 文字化原稿の用紙

- ① 録音内容記録票
  - ② 方言資料割付用紙
  - ③ 方言調査解説用紙
- } 別紙のとおり

(用紙の印刷発注については、国語課でまとめて行いますので必要部数を御連絡ください。)

## 4 文字化原稿の記入について (国語研・言語変化研究部でまとめたもの)

- (1) 原稿用紙には、「方言資料割付用紙」と「方言資料解説用紙」の2種類があり、「割付用紙」には録音内容の文字化と標準語訳を、「解説用紙」には収録地点の概観、収録方言の特色、表記法についての説明、文字化内容についての注記などを記入する。
- (2) 原稿用紙への記入は黒インキを用いる。(青インキは不可。)

### 割付用紙への記入

- ① 割付用紙の第1ページには、タイトル(録音内容を代表するようなもの)、話し手の略号・氏名・性・生年を記入し、一段あけて、録音内容の文字化・標準語訳を記入する。(記入例参照)
- ② 割付用紙の左端の「[]」には話し手の略号を記入する。
- ③ カウンターつきの録音機を使用した場合は、その番号を所要所に鉛筆で薄く記入しておいていただきたい。
- ④ 文字化の表記について

ア 文字化は文節単位に分ち書きとし、各センテンスの末尾に句点「。」、「,」を打つ。読点は文字化部分には原則として付けない。なお、談話文における文の認定は方法論的に多くの問題があるが、あくまで便宜的なものとしておく。

イ 改行は話し手が交替した部分で行う。

ウ 文字化は原則として表音的カタカナ表記による。これは、利用者の便宜、文字化作業の能率などを考慮してのことである。ただし、対象とする方言の性格によって、カナ表記では特殊な字母を多数必要とし、かえって煩雑になると判断される場合は、国際音声字母による表記を用いてもよい。徹底した音韻(音素)表記は採らない。これは、音韻レベルの表記では捨象されることのある特徴的な方言音声や、自然会話にしばしば現われる無造作な発音、また、標準語的な発音の混入などを、解釈を加えずに、音声学的に記述しようとする意図による。なお、カナはあくまでも簡略音声表記として使用するわけであるから、それぞれのカナで表わす具体的音声の範囲については、解説(表記法の項)で説明しておいていただきたい。

エ 長音、鼻音、あるいは特徴的な方言音声をカタカナによって表わす場合、原則として次の方式によってほしい。

(ア) 長音には「ー」の印を用いる。

例 オハヨー

(イ) ガ行鼻音は、カ° キ° ク° …のように表わす。

例 カカ°ミ [kanami] (鏡)

- (ウ) 鼻音化には「ン」(上つき小字のン)を用いる。  
 例 マンド [ma<sup>~</sup>do] (窓)  
 カンゴ [ka<sup>~</sup>go] (籠) ー高知方言などー
- (エ) 合拗音の [kwa] [gwa] はクワ、グワのように表わす。  
 例 クワジ [kwazi] (火事) ー九州方言などー
- (オ) [ʃe] [dʒe] はシェ、ジェのように表わす。  
 例 シェナカ [ʃenaka] (背中) ー九州方言などー
- (カ) [ti] [di] はティ、ディ, [tu] [du] はトゥ、ドゥのように表わす。  
 例 トウキ [tuki] (月) ー高知方言などー
- (キ) [ɸa] [ɸi] [ɸe] …はファ、フィ、フェのように表わす。  
 例 フェンビ [ɸe<sup>~</sup>bi] (蛇) ー奥羽方言などー
- (ク) [je] の音はイエで表わす。  
 例 イェダ [jeda] (枝) ー九州方言などー
- (ケ) [æ] [kæ] [sæ] …はアエ、カエ、サエのように表す。  
 例 アカエー [akæ:] (赤い) ー岡山方言などー
- (コ) [ɛ] [kɛ] [sɛ] …はエア、ケア、セアのように表わす。  
 例 アゲア [agɛ] (赤い) ー奥羽方言などー

上に示した以外の特殊な音声の表記は報告者が適宜くふうするか、あるいは、一般的な字母を使用しておき、そのつど注記欄で説明する。

例 キモノ<sup>(注)</sup>→<sup>注</sup> [kɕimono]

オ アクセント、文末イントネーションの記述の有無は、その表記法を含め、担当者にまかせる。

カ 発音や録音が不明瞭なため聴き取りが困難な箇所には\_\_\_\_\_線を付けておく。

例 カステクレアー

キ 幾様にも聞こえる場合には仮にそのうちのひとつを\_\_\_\_\_線付きで記述し、他の「聞こえ」を記述欄に記す。

例 カステクレアー<sup>(注)</sup>→<sup>注</sup> 「カステクロエ」または  
 「カステクロヤ」とも聞こえる。

ク 聴き取りが困難な箇所はなるべく話者や現地協力者にあたって確かめる。ただし、最終的には文字化担当者がそのように聞こえると判定した結果を記述する。話者などが主張する(意識する)発言内容と録音された音声の「聞こえ」とが一致しない、すなわち、話者が主張するようにはどうしても聴き取れない場合もありうるが、このような場合には、文字化担当者に「聞こえる音声」を\_\_\_\_\_線付きで記述し、話者などが主張する内容は注記欄に記す。

例 ボカー<sup>(注)</sup>→<sup>注</sup> 話者は「ボクワ」と言っていると主張。

ケ 最終的に聴き取り不能の箇所には、\_\_\_\_\_線のみを記しておく。

⑤ 言いよどみ、言いかさなり、言いなおし、笑い声など。

ア 言いよどみは、その末尾に…線を付ける。

例 オフロ サキカ。 タベルノ サキ…。

イ 発言の途中で他の者が口をはさんだ場合には、次のように( )を利用し、発言

が重複する部分に    線を付ける。

例 A ヒルママデ マズ スコ<sup>ト</sup>モ オエッカラッテ

(B ンダケンド オレー) アト スク<sup>イ</sup> モツテクッカラ

ウ 重複部分が多い場合や、一人の発言が終わらないうちに他の者が話しはじめたような場合には、改行して、重複部分に    線を付ける。

例 A アー パサマ オチャ ダシエ マズ。 チョイット  
ナカ<sup>ス</sup> キター。

B イヤ イソカ<sup>ク</sup> スインダテ キョーノー。

エ 言いかけて、それを言いなおした場合には、言いかけた部分に×××××を付ける。

例 アノー ワズカナ ゴ ゴジュー

×× ×××××

ゴジューエングラエージャッタカー。

オ 笑い声などは文字化本文中に（ ）に入れて記す。

例 ウレシーナー (笑)

- ⑥ 標準語訳は漢字平がなまじりの表記とし、それぞれの文節に対応する逐語訳を心がける。逐語訳であるために全体の文脈がつかみがたいと判断される場合には、注記欄でさらに説明する。文末詞や待遇表現などは訳のつけかたがむずかしいが、標準語訳はあくまでも内容理解の手がかりと考え、訳しかたが問題となるような箇所については、なるべく詳しい注記を付けるよう心がける。

- ⑦ 注記について

ア 「割付用紙」には注記番号のみを（ ）に入れて記し、注記内容は「解説用紙」に記入する。

イ 注記は、音声の特徴、基本的な語形（無造作な発音により語形が崩れている場合など）、方言形の意味・用法・語源、民俗的事象（話題にのぼった民具・行事など）、文脈のねじれ、標準語訳についての補足、話し手の動作（うなずき・手ぶりなど）などについて行う。とくに、方言形の意味・用法については、できるだけ多くの箇所に注を付けてほしい。

#### 解説用紙への記入

解説用紙には次の事項を記入する。

##### A 収録地点とその方言について

1 地点名

2 収録地点の概観（位置・交通・地勢・行政区画の変動・戸数・人口・主な産業など）

3 収録した方言の特色

① 方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

② 音韻上の特色（モーラ表・音声の特徴）

③ 文法上の特色（要点のみ。箇条書き）

4 その他（地点選定の理由、協力者の氏名、協力内容など）

##### B 表記について

それぞれの符号（カナ・音声符号）で表わす具体音声の範囲、特殊な表記についての

説明，判断に迷った微妙な音声の処理原則など。

C 収録内容の概説，注記など

- 1 タイトル（「割付用紙」の冒頭に記したもの）
- 2 録音年月日
- 3 録音場所
- 4 話し手の氏名・性・生年・職歴・役職歴・居住歴・言語的特徴（方言保有度・話し好きかどうか・早口か等）など。（話し手の性・生年は割付用紙にも記入）
- 5 録音環境（同席者・話の進行状況・場の雰囲気など）

なお，A，B，Cはそれぞれページを改めて記入する。Cはタイトルが変わる際に改ページを行う。

## 「全国方言談話データベース」について

「各地方言収集緊急調査」報告資料は、方言の使用実態を解明する貴重なデータであるとともに、急速に失われつつある各地の伝統的方言を、文化財として記録・保存するという意味においても意義のあるものである。

いくつかの教育委員会が、この資料の一部を用いて、独自に報告書を刊行している。ただし、市販されているわけではないので、一般には入手しにくい。また、その形態は印刷物であり、電子化された文字化テキストを備えたものはない。録音テープを添付しているものも少数である。その他の資料については、未公開であった。

その後、「各地方言収集緊急調査」報告資料は、文化庁から国立国語研究所に移管された。国立国語研究所では、受け継いだ録音テープ・文字化原稿を有効に利用するために、膨大な報告資料を整備して、方言談話の大規模なデータベースを作成し、公開するという計画を開始した。

平成8(1996)～12(2000)年度には、一般研究課題「方言録音文字化資料に関する研究」において、報告資料の一部を用いたケーススタディ的研究を行った。担当研究室は、情報資料研究部第二研究室(当時)、担当者は、井上文子であった。所外研究委員として、真田信治氏(大阪大学大学院文学研究科、元国立国語研究所)に委嘱を行った。

平成13(2001)年度からは、「日本語情報資源の形成と共有のための基盤研究」というプロジェクトの一環として、全国方言談話データベースの作成と公開に取り組んでいる。担当部門・領域は、情報資料部門第二領域、担当者は、井上文子(情報資料部門第一領域)である。所外研究委員として、佐藤亮一氏(東京女子大学現代文化学部、元国立国語研究所)、江川清氏(広島国際大学人間環境学部、元国立国語研究所)、田原広史氏(大阪樟蔭女子大学学芸学部)、真田信治氏(大阪大学大学院文学研究科、元国立国語研究所)に委嘱を行っている。

その一方で、平成9(1997)～13(2001)年度には、作成データベース名「全国方言談話資料データベース」、作成委員会名「全国方言談話資料データベース作成委員会」として、また、平成14(2002)年度からは、作成データベース名「全国方言談話データベース」、作成委員会名「全国方言談話データベース作成委員

会」として、科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）の交付を受け、音声資料、文字化資料を電子化する作業を進めている。作成委員長は、佐藤亮一氏（東京女子大学現代文化学部、元国立国語研究所）であり、「各地方言収集緊急調査」当時、国立国語研究所言語変化研究部第一研究室長として、調査の計画段階から指導・助言にあたり、調査および報告資料の全体像を把握している。作成委員としては、江川清氏（広島国際大学人間環境学部、元国立国語研究所）、田原広史氏（大阪樟蔭女子大学学芸学部）、井上文子（国立国語研究所情報資料部門第一領域）が担当している。平成13(2001)年度には、「全国方言談話データベース」の公開を開始した。

なお、このデータベースの作成事業で受けた、科学研究費研究成果公開促進費（データベース）は下記のとおりである。

年度	課題番号	補助金交付額
平成9年度	57	1,800,000円
平成10年度	64	1,800,000円
平成11年度	501027	1,800,000円
平成12年度	128032	2,800,000円
平成13年度	138031	4,600,000円
平成14年度	148034	5,200,000円
平成15年度	158043	6,100,000円

「各地方言収集緊急調査」報告資料については、日本全国の47都道府県でそれぞれ5地点程度、計200地点あまりにおける、約4000時間にも及ぶ方言談話の録音テープと、その一部を文字化した原稿が残されている。昭和52(1977)～60(1985)年度当時の老年層話者の自然談話が中心であるので、現在においては急速に失われつつある伝統的方言が比較的良好に残されているものと考えられる。

これらの報告資料をすべてデータベース化するのが理想ではあるが、膨大な資料を一気にデータベース化するのは困難であるので、段階的に公開を行うことにする。

今回刊行する『全国方言談話データベース』では、まず、第一段階として、

各都道府県につき1地点、計47地点の老年層男女の自然会話を選び、その地の伝統的方言がもっともよく現れていると思われる部分を30～50分程度データベース化した。

データベース化のためには、次のような作業が必要であった。

- ①録音テープには、正が1本、副が2本ある。正は収録したオリジナルのテープ、副は正より文字化部分のみを編集したもので、いずれも60分または90分のカセットテープである。正をデジタル化し、複製を作成する。
- ②文字化原稿には、正が1部、副が2部ある。正は、文化庁指定のB4判の用紙を使用した手書き、副は正のコピーである。正の文字化、共通語訳をパソコンにテキストデータとして入力する。この時点では、できる限り正の文字化原稿に忠実に行う。
- ③文字化原稿の収録地点、話者、収録内容、状況記録などの確認をし、その文字化原稿に対応する録音テープの録音状態などの確認を行う。
- ④今回刊行するものでは、老年層男女の自然談話のうち、各都道府県につき1地点30～50分をめやすとして、データベース化部分に選定する。
- ⑤データベース化する部分の文字化テキストと、それに対応するデジタル録音音声を抽出する。
- ⑥音声データをもとに、文字データの明らかな誤りなどを修正する。原則としては、原資料の文字化原稿に従って行うが、見やすさを優先させたり、全体の統一を図ったりするため、必要に応じて変更を加える。この作業は、その地域の方言を専門とする研究者に依頼する。
- ⑦記号の種類と使い方、句読点、分かち書きなどについて、凡例を作成する。『全国方言談話データベース』における表記・形式は、見やすさや全体の統一のため、必要に応じて変更を加えているので、「各地方言収集緊急調査」当時のマニュアルに記載されているものとは部分的に違いが生じている。
- ⑧文字化データに沿う形で、注記を整える。原則としては原資料に従って行うが、場合に応じて最低限の変更を加える。
- ⑨収録地点の概観、方言の特色などの解説については、原則としては原資料に従って行うが、全体の統一を図るため、表記・章立てなどについて、最低限の変更を加える。

- ⑩調査の概要，収録した談話内容・地点・場所・日時などの情報，話者の性別・年齢・職業などの情報をまとめる。
- ⑪校正を行った文字データをもとに，文字化と共通語訳を2段組に対照させたファイルを作成する。さらに，それを pdf ファイルにする。
- ⑫文字化と共通語訳を2段組に対照させたファイルを用いて，文字化の text ファイル，共通語訳の text ファイルを作成する。
- ⑬音声データは，デジタル化した後，サンプリングレート，音声ファイル形式などの調整を行い，音声 wave ファイルを作成する。そして，それを文字化と共通語訳を2段組に対照させたページに従って，ページ単位に切り，文字化・共通語訳の pdf ファイルにリンクさせる。
- ⑭CD-ROM は，データベースソフトを利用して，文字化・共通語訳の文字列による検索，話者による検索などができるようにする。
- ⑮CD には，トラックに区切った談話全体の音声を収録する。
- ⑯録音テープ・文字化原稿が所在不明の地点については，必要に応じて，現地へ赴き，収録担当者・教育委員会・図書館・関係者の協力を仰ぎながら，入手に努める。
- ⑰「各地方言収集緊急調査」の話者・収録担当者・文字化担当者・解説担当者などには，可能な限り，文書でデータ公開の通知と確認を行う。
- ⑱作成過程において，ある程度のデータが蓄積された段階で，CD-ROM，または，音声はカセットテープ・MD，文字はFDを媒体とした試作版を作成し，モニターに依頼して意見・要望を求め，データベースに反映させる。
- ⑲検索情報の整備，検索マニュアル，利用規程などの作成を行う。

『全国方言談話データベース』全20巻の各巻は，冊子，CD-ROM，CD から成り，方言談話の音声（wave ファイル），文字化（カタカナ表記，text ファイル），共通語訳（漢字かなまじり表記，text ファイル），文字化・共通語訳を2段組に対照させたもの（冊子，pdf）などを収録している。従来にはあまりなかった，音声，文字化，共通語訳の電子化データを備えているので，研究や教育のために加工して，自由に検索することができるという特徴がある。

刊行にあたっては，国立国語研究所における『全国方言談話データベース』

刊行物検討委員会で最終的なチェックを行った。委員長として、熊谷康雄（情報資料部門）、委員として、熊谷智子（研究開発部門第二領域）、三井はるみ（研究開発部門第二領域）、井上優（日本語教育部門第一領域）、井上文子（情報資料部門第一領域）が担当した。

なお、刊行計画は下記のとおりとなっている。

書名：『国立国語研究所資料集 13-1～20 全国方言談話データベース 日本のふるさとことば集成』全20巻

各巻：冊子1冊 A5判 約200ページ，CD-ROM1枚，CD1枚

巻数	巻名	ISBN	刊行順
第1巻	北海道・青森	4-336-04361-2	15
第2巻	岩手・秋田	4-336-04362-0	16
第3巻	宮城・山形・福島	4-336-04363-9	17
第4巻	茨城・栃木	4-336-04364-7	4
第5巻	埼玉・千葉	4-336-04365-5	5
第6巻	東京・神奈川	4-336-04366-3	6
第7巻	群馬・新潟	4-336-04367-1	7
第8巻	長野・山梨・静岡	4-336-04368-X	12
第9巻	岐阜・愛知・三重	4-336-04369-8	13
第10巻	富山・石川・福井	4-336-04370-1	14
第11巻	京都・滋賀	4-336-04371-X	1
第12巻	奈良・和歌山	4-336-04372-8	2
第13巻	大阪・兵庫	4-336-04373-6	3
第14巻	鳥取・島根・岡山	4-336-04374-4	11
第15巻	広島・山口	4-336-04375-2	10
第16巻	香川・徳島	4-336-04376-0	8
第17巻	愛媛・高知	4-336-04377-9	9
第18巻	福岡・佐賀・大分	4-336-04378-7	18
第19巻	長崎・熊本・宮崎	4-336-04379-5	19
第20巻	鹿児島・沖縄	4-336-04380-9	20

国立国語研究所資料集13-16

全国方言談話データベース  
日本のふるさとことば集成

第16巻 香川・徳島

2003年6月30日 発行

編集：国立国語研究所

〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14

TEL：03-3900-3111（代表）

FAX：03-3906-3530（代表）

URL：<http://www.kokken.go.jp>

---

本書の市販品発行所

発行：国書刊行会

〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15

TEL：03-5970-7421（代表）

FAX：03-5970-7427（営業）

URL：<http://www.kokusho.co.jp>